

令和2年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報 告 書

令和3年3月

狹 山 市

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

<目次>

第1部 調査概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象者及び調査方法.....	1
3 調査項目.....	1
4 回収状況.....	1
5 調査票の見方.....	1
6 標本誤差について.....	2
第2部 調査結果の要約	3
1 男女平等についての考え方や行動について.....	3
2 男女共同参画社会について.....	3
3 家庭生活・子育てについて.....	3
4 ワーク・ライフ・バランスについて.....	4
5 男女の就業・仕事について.....	4
6 人権・DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	5
7 地域活動・社会参加について.....	5
8 防災について.....	6
9 男女共同参画社会のための施策について.....	6
第3部 調査結果報告	7
1 対象者属性.....	7
（1）性別.....	7
（2）年齢.....	7
（3）婚姻.....	8
（4）世帯状況.....	8
（5）職業.....	9
2 男女平等についての考え方や行動について.....	11
（1）「男は仕事、女は家庭」という考え方.....	11
（2）男女の地位の平等感.....	14
（3）性差意識.....	27
3 男女共同参画社会について.....	36
（1）男女共同参画に関する学習経験.....	36
（2）生活や職場での男女共同参画の進捗状況.....	38

4	家庭生活・子育てについて.....	39
	(1) 主な担当者.....	39
	(2) 少子化の原因.....	48
5	ワーク・ライフ・バランスについて.....	49
	(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度.....	49
	(2) 生活の中での優先度.....	51
6	男女の就業・仕事について.....	55
	(1) 女性の社会参加.....	55
	(2) 働きやすい環境の構築.....	58
	(3) 男性の育児休業・介護休業について.....	62
7	人権・DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	64
	(1) セクシュアル・ハラスメントの認知度.....	64
	(2) ドメスティック・バイオレンスの認知度.....	73
	(3) 性的少数者への理解・配慮.....	81
	(4) 相談先について.....	83
8	地域活動・社会参加について.....	85
	(1) 現在行っている地域活動等.....	85
	(2) 政策決定への女性参画促進に必要なこと.....	87
	(3) 男性の地域活動参画に必要なこと.....	89
9	防災について.....	91
	(1) 災害時の心配.....	91
	(2) 性別に配慮した取り組み.....	93
10	男女共同参画社会のための施策について.....	95
	(1) 男女共同参画社会のイメージ.....	95
	(2) 男女共同参画社会をめざすために必要な取組.....	97
	(3) 男女共同参画センターの認知度.....	99
11	自由記述.....	103
	【男女共同参画について】.....	103
	【政策・方針決定について】.....	105
	【就労・子育て・介護について】.....	106
	【教育について】.....	107
	【啓発・要望】.....	107
	【調査・調査結果の反映】.....	109
	【その他】.....	109
資料	「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票.....	111

第1部 調査概要

1 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、基本計画の見直しや今後の市の施策を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

2 調査対象者及び調査方法

調査対象者：狭山市に住民登録のある18歳以上の市民2,000名
(令和2年8月1日現在)

：住民基本台帳から男女別年代別等間隔による無作為抽出
(男性1,000人 女性1,000人)

調査方法：郵送による配布、回収

調査時期：令和2年9月1日(火)～9月30日(水)

3 調査項目

- ①対象者属性
- ②男女平等についての考え方や行動について
- ③男女共同参画社会について
- ④家庭生活・子育てについて
- ⑤ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑥男女の就業・仕事について
- ⑦人権・DV(ドメスティック・バイオレンス)について
- ⑧地域活動・社会参加について
- ⑨防災について
- ⑩男女共同参画社会のための施策について
- ⑪自由記述

4 回収状況

対象者	配布数	回収数	回収率
女性	1,000件	566件	56.6%
男性	1,000件	474件	47.4%
無回答	—	10件	—
合計	2,000件	1,050件	52.5%

5 調査票の見方

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。

- ②複数回答形式の設問については、その設問の回答数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ③グラフ中の（n＝〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。
- ④資料中の文章やグラフにおいて、調査票に記載の設問の表現と異なる部分や選択肢の一部を簡略化して記載している場合があります。
- ⑤報告書の中の「前回」は平成27年度調査の「狭山市 男女共同参画に関する市民意識調査報告書」によります。

6 標本誤差について

標本誤差とは、標本調査（母集団から一部の標本を抽出して行う調査）を行って母集団値を推定する際に生じる、標本値と母集団値との差を標本誤差と言います。この標本誤差は抽出数を多く抽出するほど小さくなり、また母集団内での個別データのバラツキが小さいほど小さくなります。なお、アンケート調査における必要サンプル数を求める式は以下の通りです。

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \times \frac{N-1}{p(1-p)} + 1}$$

ここで、n＝必要サンプル数 N＝母集団の大きさ（男女別人口等）
 e＝標準誤差 k＝信頼率に対応する係数＝1.96（信頼率：95%）
 p＝回答比率＝50%（不明の場合の一般値）

ここで、本調査の基準日である令和2年8月1日現在の男女別人口をもとに、回収数別の標本誤差は以下の通りです。なお、一般的に、標本誤差が5%以内であると信頼できる値といえます。

	令和2年8月1日 人口	回収数										
		100	200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,100
女性	75,189	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%	2.9%
男性	75,880	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%	2.9%
合計	151,069	9.8%	6.9%	5.6%	4.9%	4.4%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%	3.1%	2.9%

本調査における実際の回収数で見ると、女性の回収数は566件で標準誤差4.11%、男性の回収率は474件で4.49%、合計回収率は1,050件で3.02%となり、男女別においても本調査の回収数は十分標本数に値すると言えます。

第2部 調査結果の要約

1 男女平等についての考え方や行動について

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方について、前回調査との比較では、「そう思わない」という回答は10.7ポイント増加しており、「どちらかといえばそう思う」という回答は6.4ポイント減少しています。また、男女の地位の平等感については、多くの項目で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が減少しており、固定的な性別役割分担意識の改善はみられますが、引き続き、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた意識の醸成や取組の推進が必要です。(問6、問7)
- ・性差意識については、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」と「子どもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」においては、賛成の意見「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が半数を占めています。また、概ねほとんどの項目で「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が前回調査より減少しており、性差に関する意識の均一化が図られていると考えられますが、「子育ては、やはり母親でなくてはと思う」の賛成意見はまだ高い状況であり、性差に捉われることなく誰もが参画する社会への啓発が必要です。(問8)

2 男女共同参画社会について

- ・男女平等や男女共同参画について、話し合ったり学習した経験については、前回調査よりやや減少してありますが、この10年間で生活や職場のなかで男女共同参画が進んだかという問いでは、「進んだと思う」、「やや進んだと思う」という回答が前回より14.3ポイント増加しています。一方、「進んだと思わない」、「あまり進んだと思わない」という回答の合計も41.1%あることから、今後もあらゆる場での男女共同参画の実現に向けた一層の取組が必要です。(問9、問10)

3 家庭生活・子育てについて

- ・家庭生活や子育てについて、主に担当している方について「生活費の確保」と「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」は「(主に)男性」の割合が高く、他の項目は全て「(主に)女性」の割合が高くなっています。「男性・女性共同して分担」の割合が最も高いのが「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」となっています。また、前回との比較では、ほとんどの項目で「(主に)女性」という回答が減少していることから、家庭内での男女共同参画意識は浸透していると言えますが、「家事」や「家計の管理」については5割以上が「(主に)

女性」という回答となっていることから、今後も家庭内での意識の向上を促していくことが必要です。(問 11)

- ・少子化の原因については、「結婚しない人が増えているから」が 70.5%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が 68.8%、「子どもの教育にお金がかかるから」が 62.8%、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が 58.7%の順になっています。(問 12)

4 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・ワーク・ライフ・バランスの認知度については、前回調査より増加し認知度が高まっています。また、生活の中での優先度について、男性は、「仕事と家庭生活を優先」という回答が女性より多く、女性は、「家庭生活とプライベート（個人的）な時間を優先」、「仕事・家庭生活とプライベート（個人的）な時間を両立」という回答が男性より多くなっています。前回と比較すると、「理想」では、「仕事・家庭生活とプライベート（個人的）な時間を両立」という回答が減少しており、「家庭生活とプライベート（個人的）な時間を優先」という回答が増加しています。「現実」では、「仕事を優先」という回答が減少し、「仕事と家庭生活を優先」という回答が増加していることから、ワーク・ライフ・バランスの推進と家庭生活・個人の活動も含めた生活が送れるよう、啓発を行っていくことが重要です。(問 13、問 14)

5 男女の就業・仕事について

- ・女性の就業については、「職業をもち続けたほうがよい」が最も高く、次いで「子どもができたならやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい」となっています。また、男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なことでは、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」が最も高く、次いで「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」、「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」となっており、最も重要だと思う項目では、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」が最も高く、次いで「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」となっています。特に女性の就業については、結婚・出産後も就業の継続ができる環境の整備を図っていく必要があります。(問 15、問 16、問 17)
- ・男性の育児休業・介護休業の取得が少ない理由については、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が最も高くなっており、仕事と家庭生活の両立支援の観点から、男性の育児休暇や介護休暇の取得への社会的な機運の醸成に向けて啓発や取組を推進していく必要があります。(問 18)

6 人権・DV（ドメスティック・バイオレンス）について

- ・セクシュアル・ハラスメントの認知度については、概ね6割以上の認知度になっていますが、「職場の女性を「女の子」「おばさん」男性を「おじさん」とよぶ」では48.8%と認知度が回答者の半分を下回っており、低い認知度となっています。（問19）
- ・ドメスティック・バイオレンスの行為についての認知度では、概ね7割以上の認知度となっていますが、「妻を働かせない」や「話しかけても無視する」の認知度が7割を下回るなど、経済的DVや精神的DVについてさらなる周知・啓発を図る必要があります。（問20）
- ・性的少数者の方への理解や配慮すべきことについては、「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」が最も高く、次いで「性的少数者に関する専門相談窓口を設置する」となっています。（問21）
- ・相談先については、「家族」が最も高くなっていますが、「公的な相談機関」が5割を下回っていることから、相談機関についての周知や相談しやすい体制の整備を進めていく必要があります。（問22）

7 地域活動・社会参加について

- ・現在行っている地域活動に関しては、「特にしていない」が最も高く、次いで「町内会・自治会などの活動」、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」となっています。（問23）
- ・政策決定への女性参画促進に必要なことでは、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が最も高く、次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」、「女性自身がかもっと積極的に活動する」となっており、男性中心の慣習等をなくし、女性のエンパワーメントを高めるための施策に取り組み、男女がともに参画する社会の実現を目指していく必要があります。（問24）
- ・男性の地域活動参画に必要なことについては、「仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること」が最も高く、次いで「男は仕事」という考え方を社会全体が改めること」となっています。問11の項目の「地域の行事への参加」では「(主に)女性が行う」との回答が高いことから、男性が地域活動に参加しやすくなるよう、時間帯の調整や意識を変える取り組みを行っていく必要があります。（問25）

8 防災について

- ・災害が発生し避難が必要になった際の心配なこととしては、「水・食料などの確保」が最も高く、次いで「家族との連絡、安否確認の方法」となっています。
(問 26)
- ・防災・災害対策において、性別に配慮した取り組みの中から、必要と思うこととしては、「避難所の設備（トイレ・更衣室・居住スペース等）」が最も高く、唯一 80%を超えています。次いで、「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」、「救援医療・相談体制（医師・看護師・心理カウンセラー）の整備」となっていることから、災害時の避難所のあり方について、関係各課と連携し、検討していく必要があります。(問 27)

9 男女共同参画社会のための施策について

- ・男女共同参画社会のイメージとしては、「家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会」が最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会」、「職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分発揮される社会」となっています。(問 28)
- ・男女共同参画社会をめざすために、市が力を入れる必要があることとしては、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が最も高く、次いで「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」、「女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること」となっており、労働環境の整備と男女平等に関する教育、女性の政策立案・決定の場等への登用について一層推進していく必要があります。(問 29)
- ・狭山市男女共同参画センターの認知度は 14.1%であり、利用した方は 3.4%となっています。センターの認知度の向上はもとより、気軽に利用できるよう積極的かつ効果的な情報発信を行っていくことが必要です。(問 30、問 31)

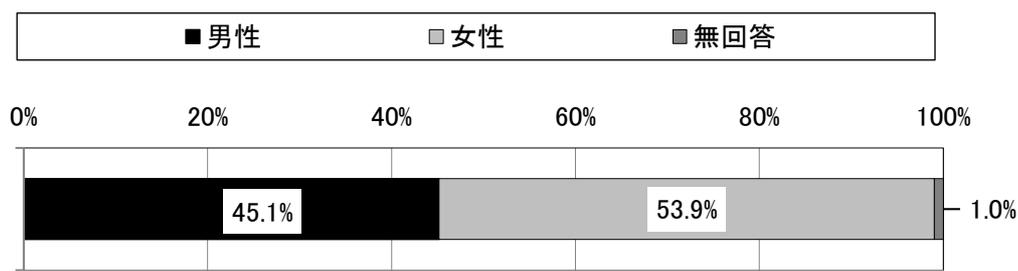
第3部 調査結果報告

1 対象者属性

(1) 性別

問1 あなたの性別をお聞かせください。(回答は1つだけ)

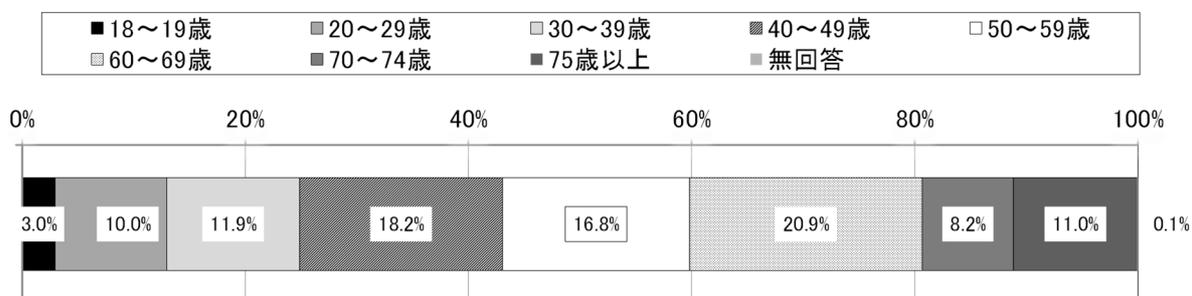
回答者の性別は、「男性」が45.1%、「女性」が53.9%と女性の方が高くなっています。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか(回答は1つだけ)

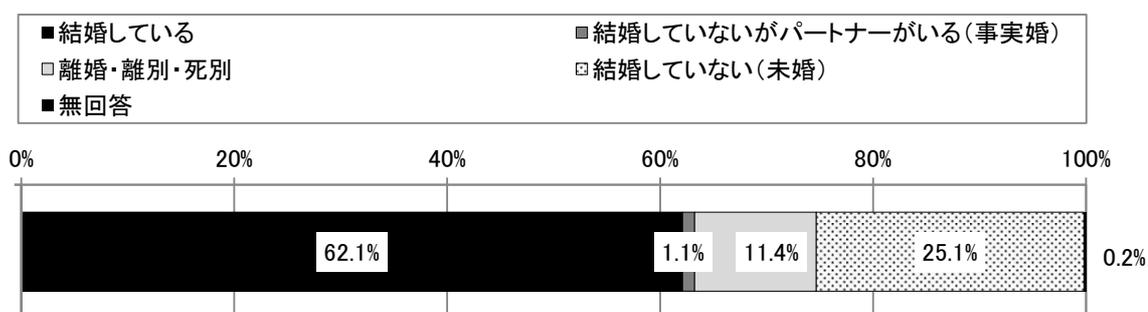
年齢では、「60歳～69歳」が20.9%と最も高く、次いで「40歳～49歳」が18.2%、「50歳～59歳」が16.8%となっており、60歳以上は全体の40.1%となっています。



(3) 婚姻

問3 あなたは結婚されていますか。(回答は1つだけ)

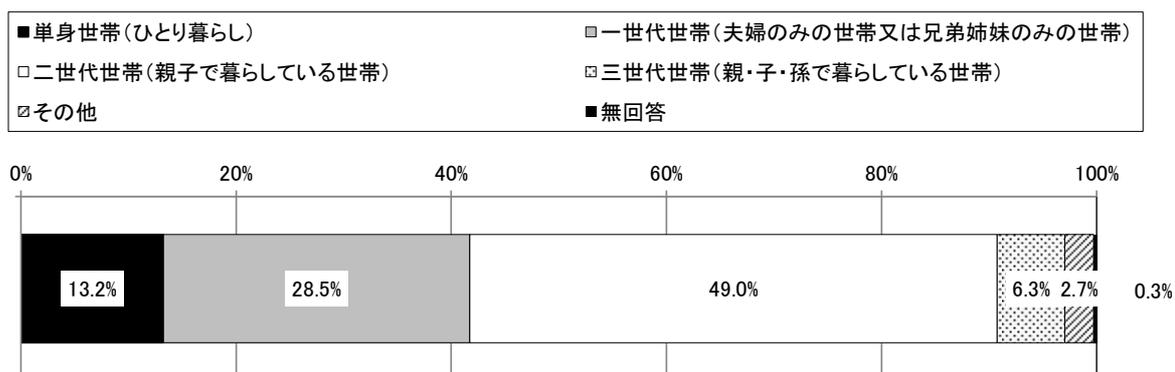
回答者の婚姻状況は、「結婚している」が62.1%と最も高く、次いで「結婚していないがパートナーがいる」が25.1%、「離婚・離別・死別」11.4%、「結婚していないがパートナーがいる」1.1%となっています。



(4) 世帯状況

問4 あなたの世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

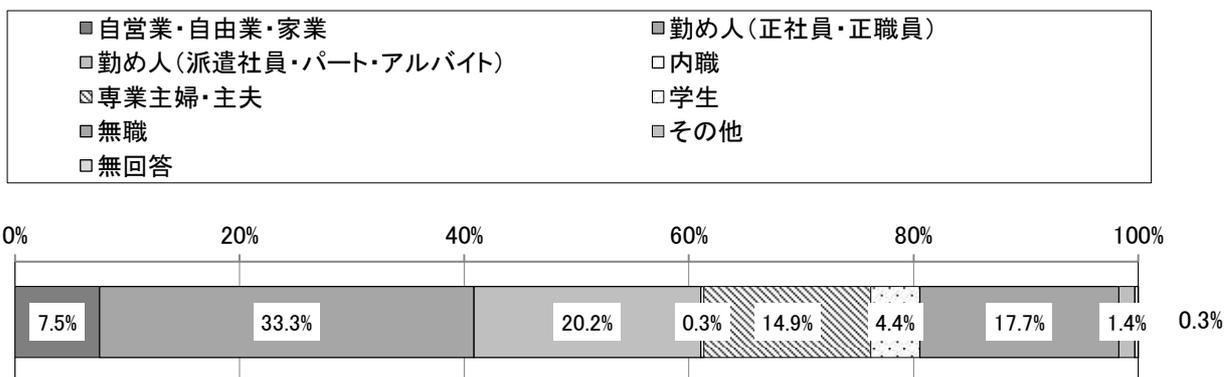
家族構成では、「二世帯世帯(親子で暮らしている世帯)」が49.0%と最も高く、次いで「一世帯世帯(夫婦のみまたは兄弟姉妹のみ)」が28.5%、「単身世帯」が13.2%、「三世帯世帯(親と子と孫)」が6.3%となっています。



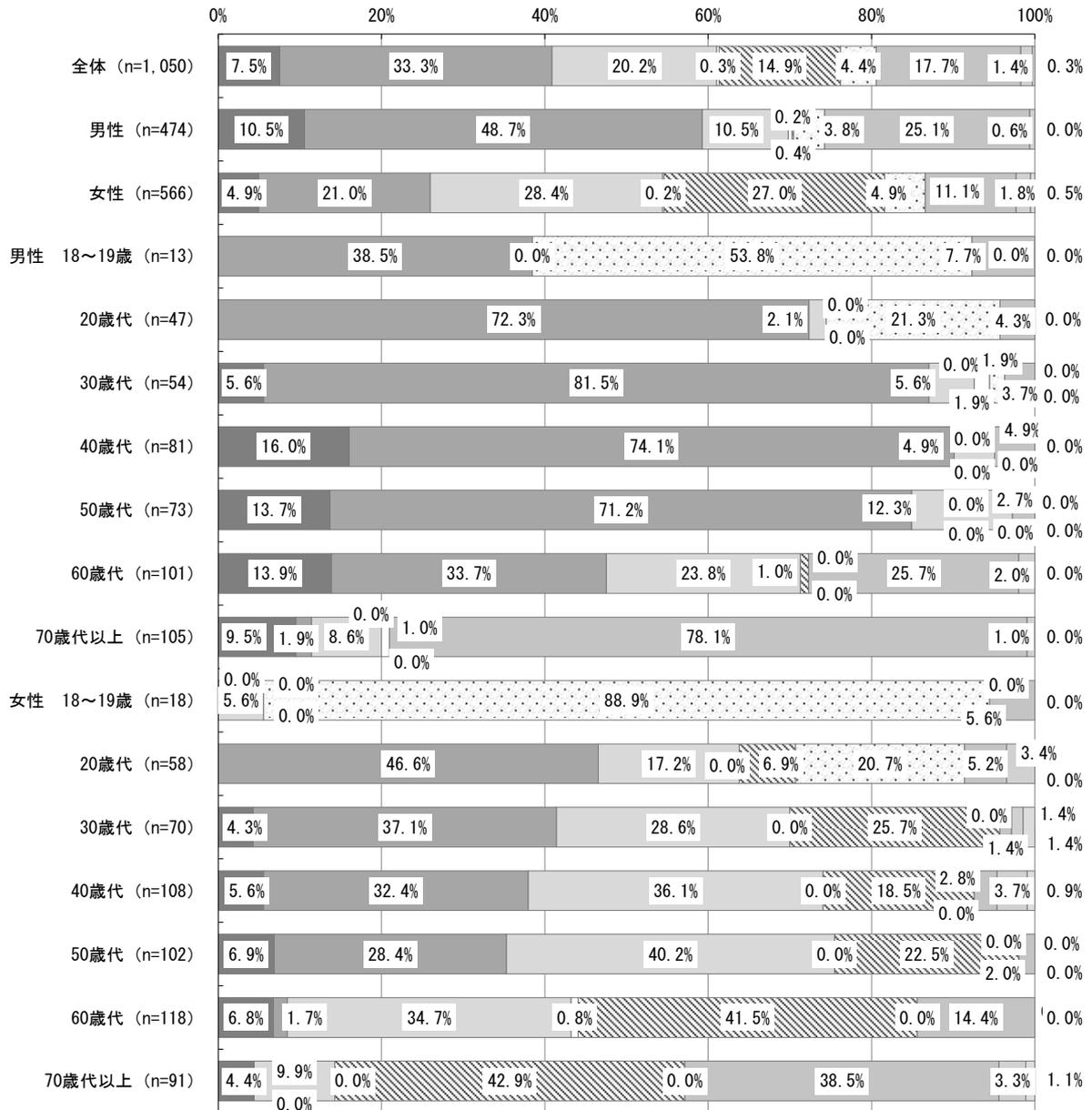
(5) 職業

問5 あなたの職業は、次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

回答者の職業をみると、全体では「勤め人(正社員・正職員)」が33.3%と最も高く、次いで「勤め人(派遣社員・パート・アルバイト)」が20.2%、「無職」が17.7%、「専業主婦・主夫」が14.9%の順になっています。



【男女別・年代別クロス表】

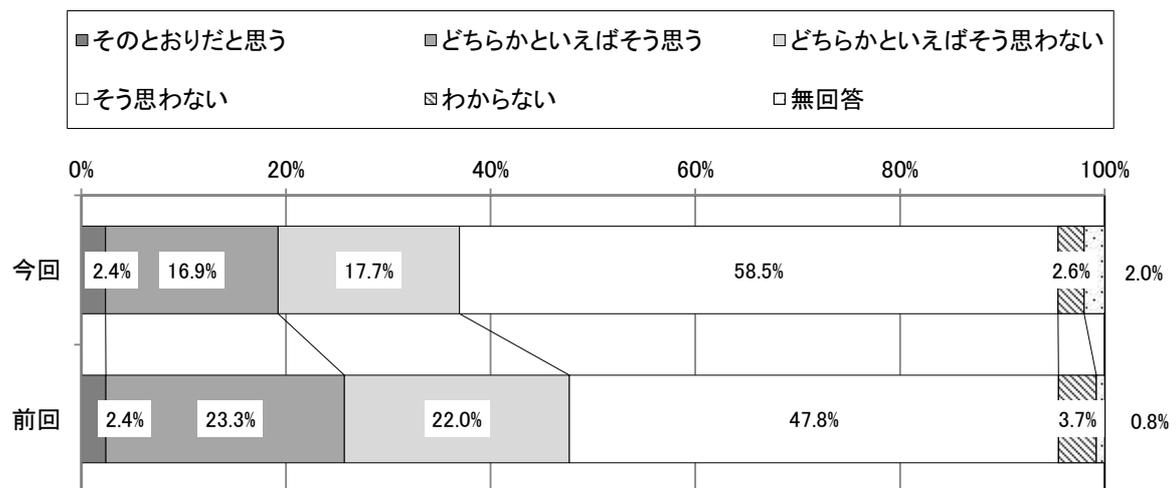


2 男女平等についての考え方や行動について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

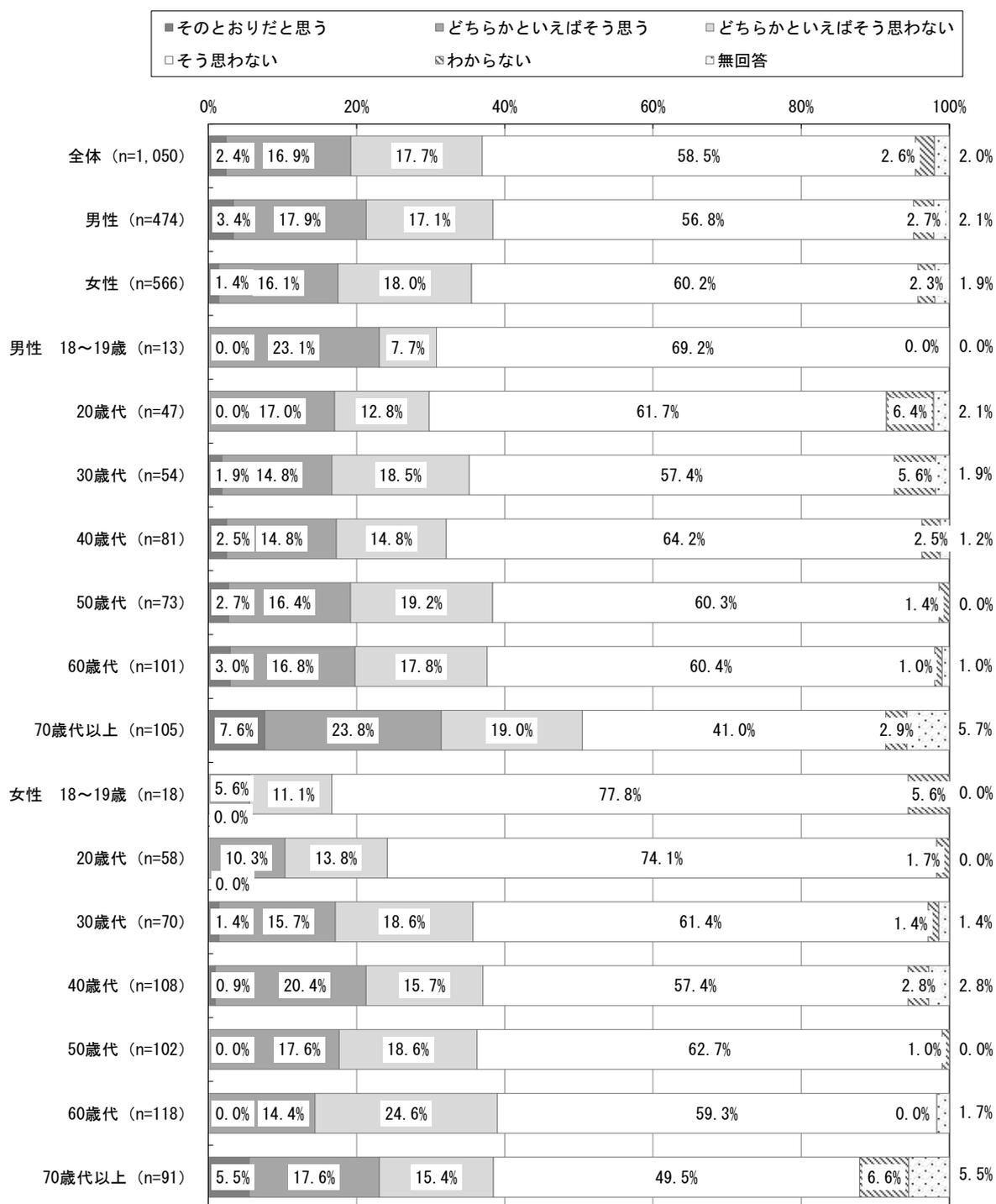
「そう思わない」が 58.5%と最も高く、「どちらかといえばそう思わない」17.7%と合わせると7割以上の方がそう思わないと考えています。一方、「どちらかといえばそう思う」、「そのとおりだと思う」を合わせると 19.3%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

「そのとおりだと思う」という回答に変化ありませんが、「そう思わない」という回答は 10.7 ポイント増加しています。また、「どちらかといえばそう思う」という回答は 6.4 ポイント減少しています。

【男女別・年代別クロス表】

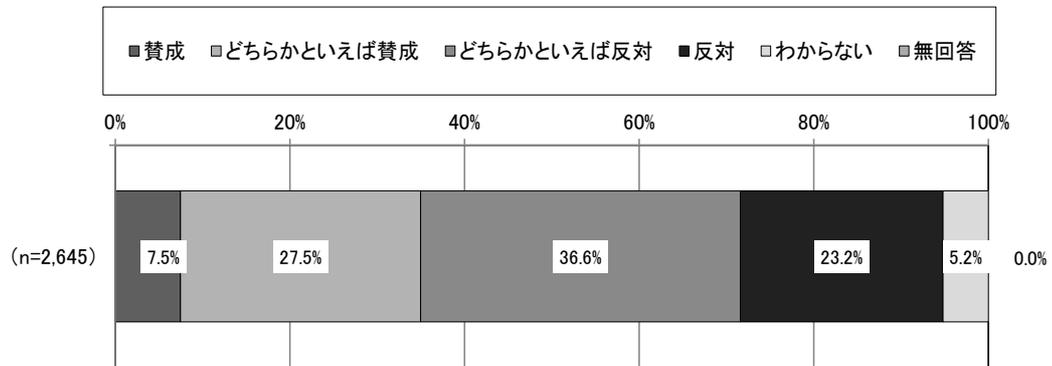


男女別では、男性よりも女性の方が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」という回答が高くなっています。

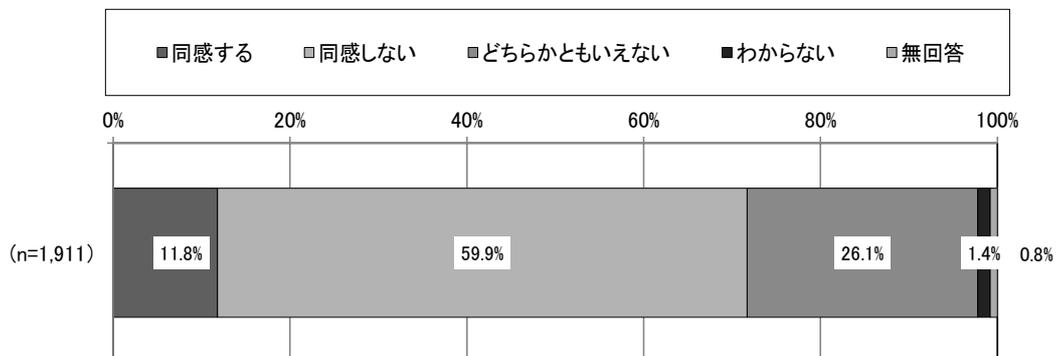
年代別では、男女ともに、若年者ほど「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」という回答が高くなっています。

【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年調査）



埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」（平成 30 年調査）



(2) 男女の地位の平等感

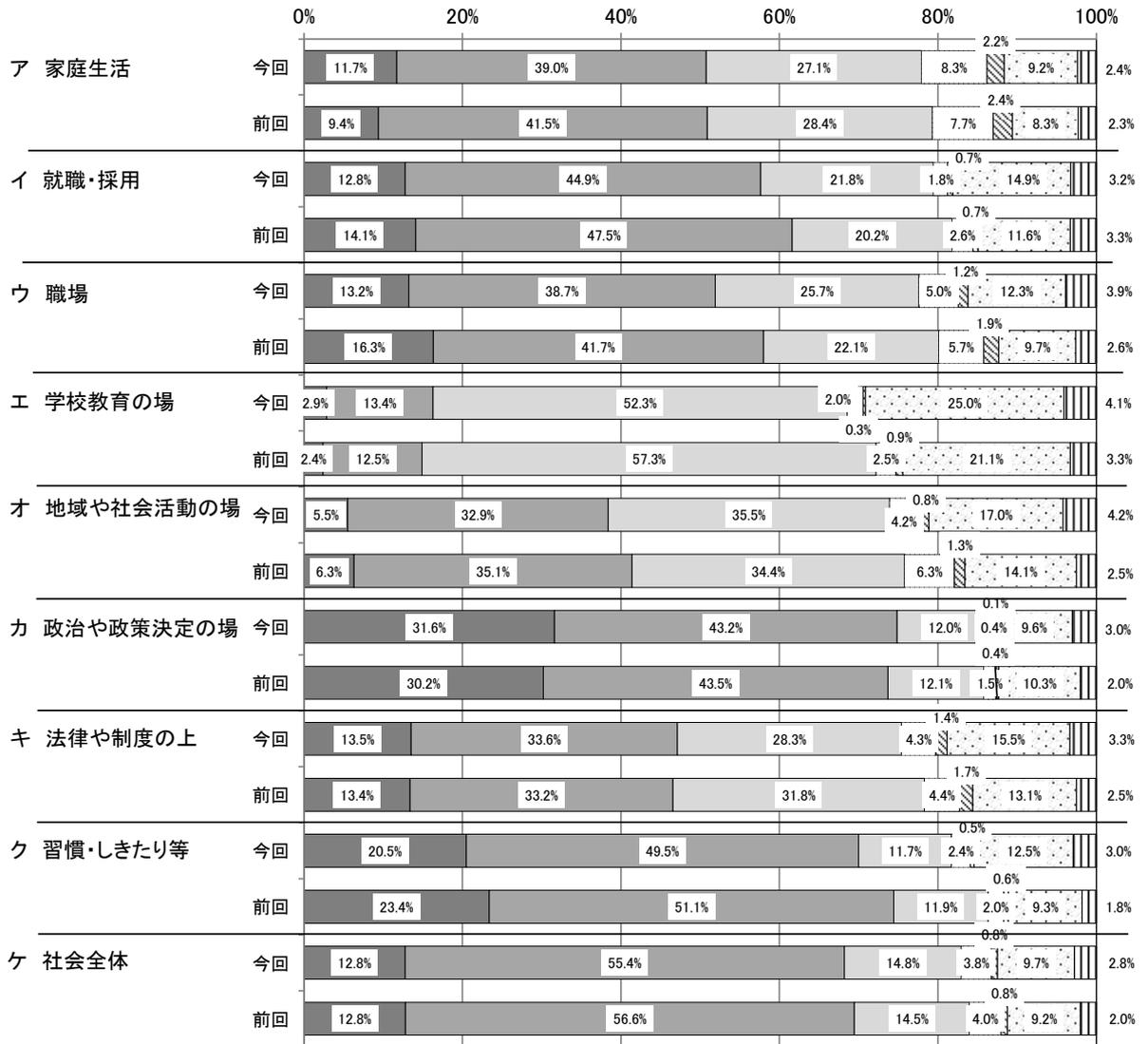
問7 あなたは現在、次のア～ケの分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選び、その番号に○をつけてください。

男女の地位の平等感については、「男女が平等になっている」と回答した割合が最も高かったのは「学校教育の場」(52.3%)で、他の分野と比べて男女共同参画が進んでいると考えられます。

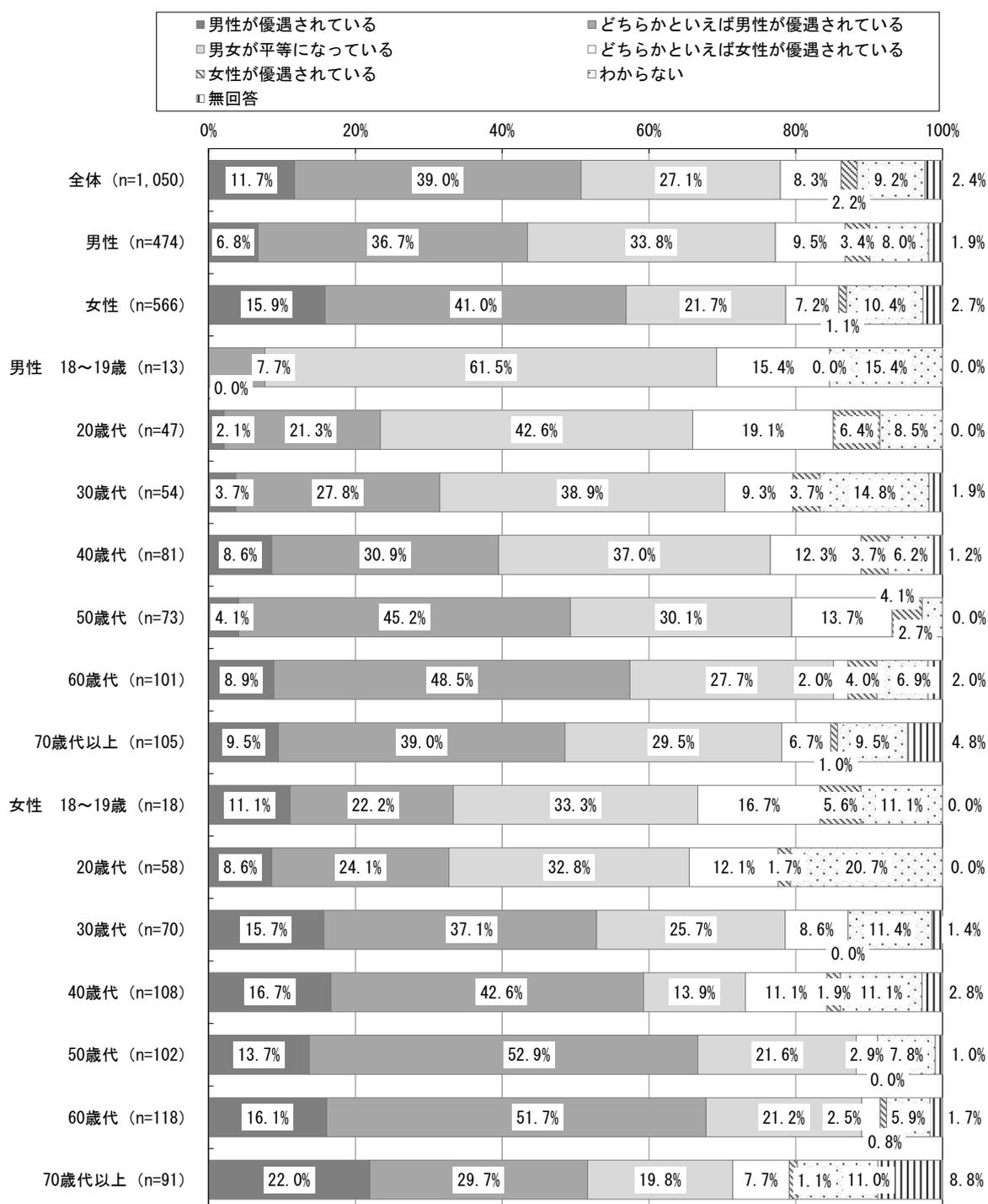
反対に、不平等感が高かったのは、「慣習・しきたり等」や「政治や政策決定の場」、「社会全体」、「就職・採用」などで、いずれも「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の回答の合計が50%を超えており、多くの場面で依然として男性優位の社会であると感じていることがわかります。

【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「職場」は「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合の合計が6.1ポイント減少しています。一方で「政治や政策決定の場」及び「法律や制度の上」は「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合の合計が微増しています。



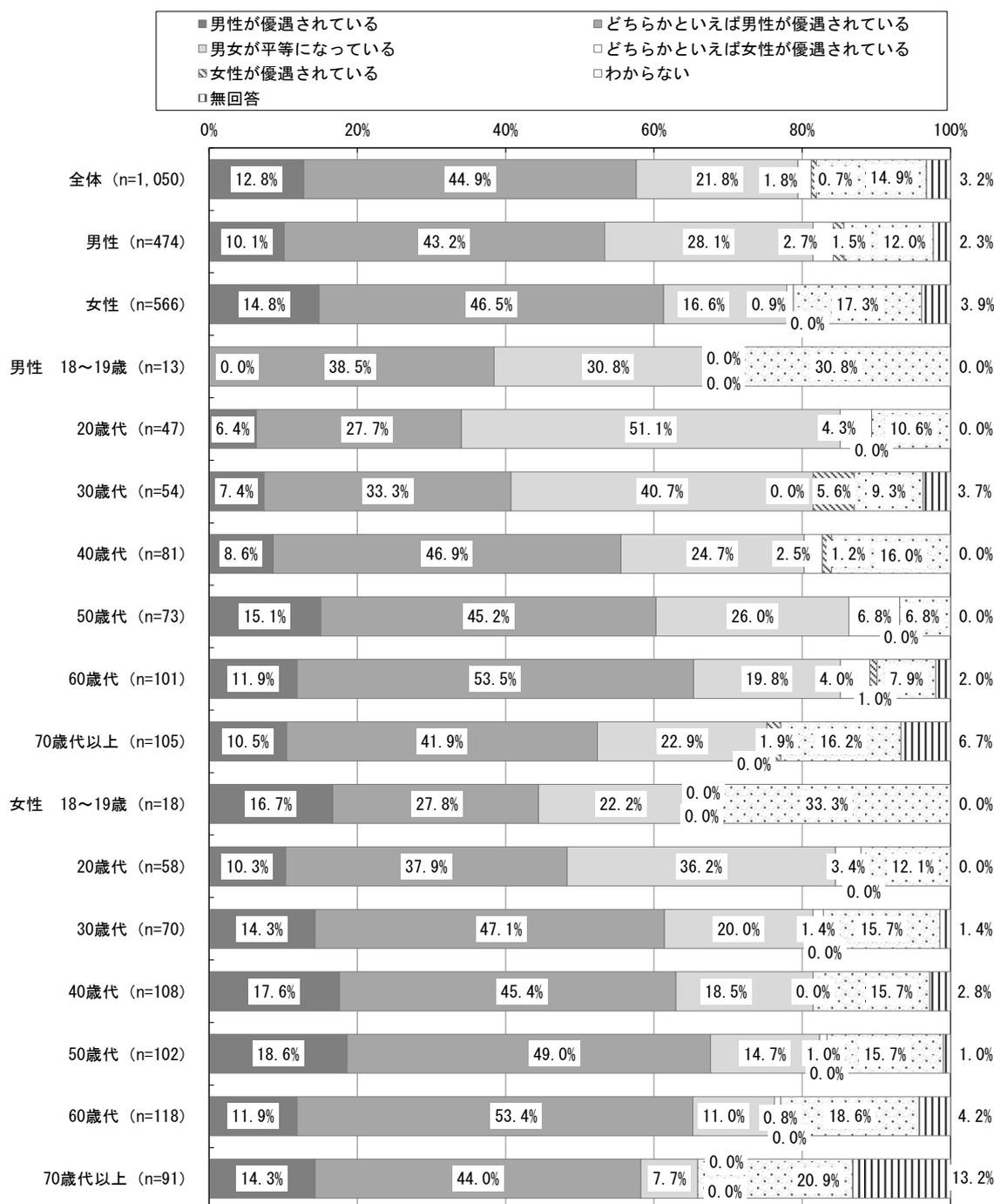
【ア 家庭生活：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、若年者ほど「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が低く、「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

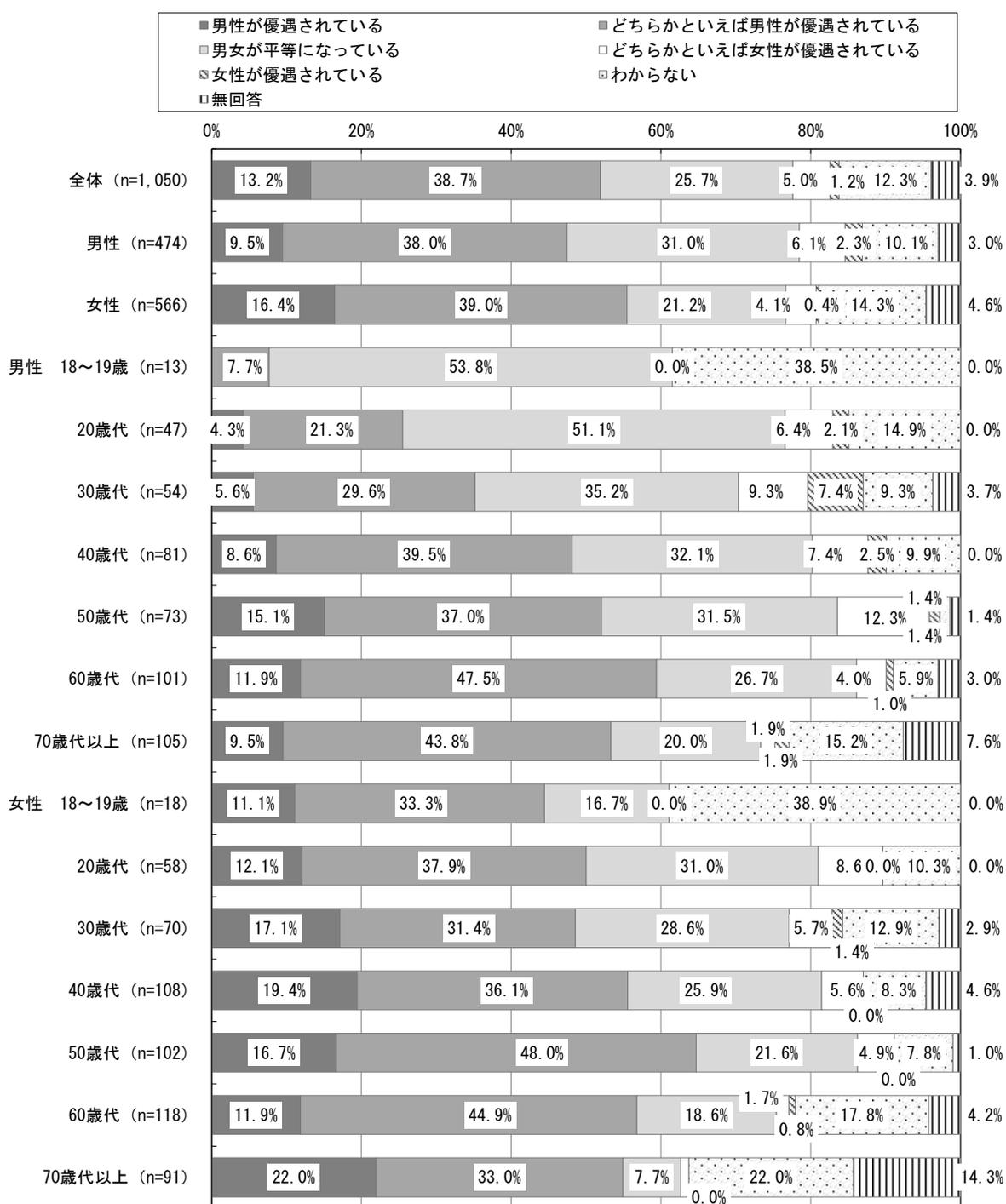
【イ 就職・採用：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の若年者は「男女が平等になっている」という回答が高くなっていますが、女性は、「男女が平等になっている」という回答は低く、全ての年代にわたって「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっています。

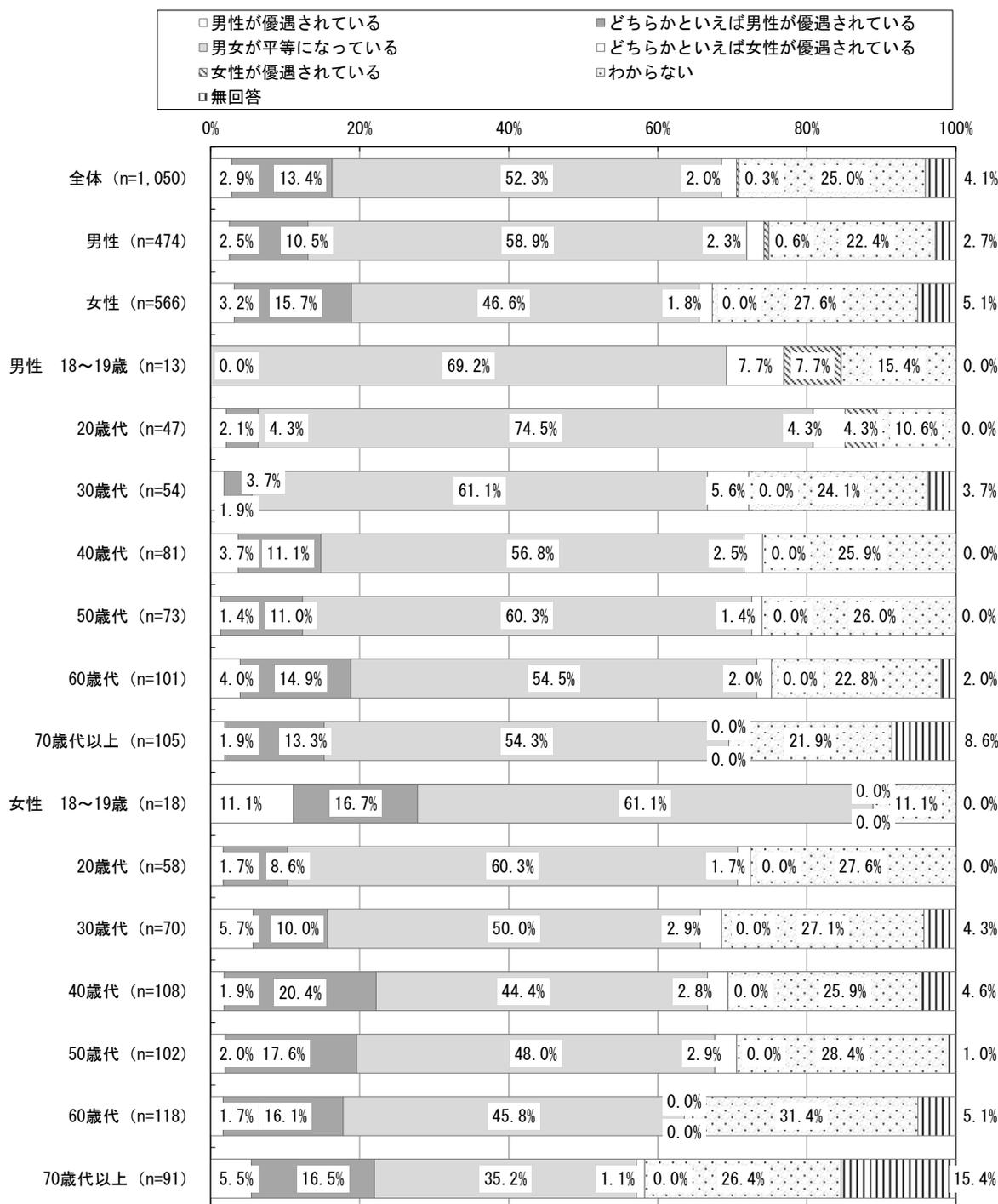
【ウ 職場：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性は40歳代から、女性は30歳代から「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が増加する傾向にあります。

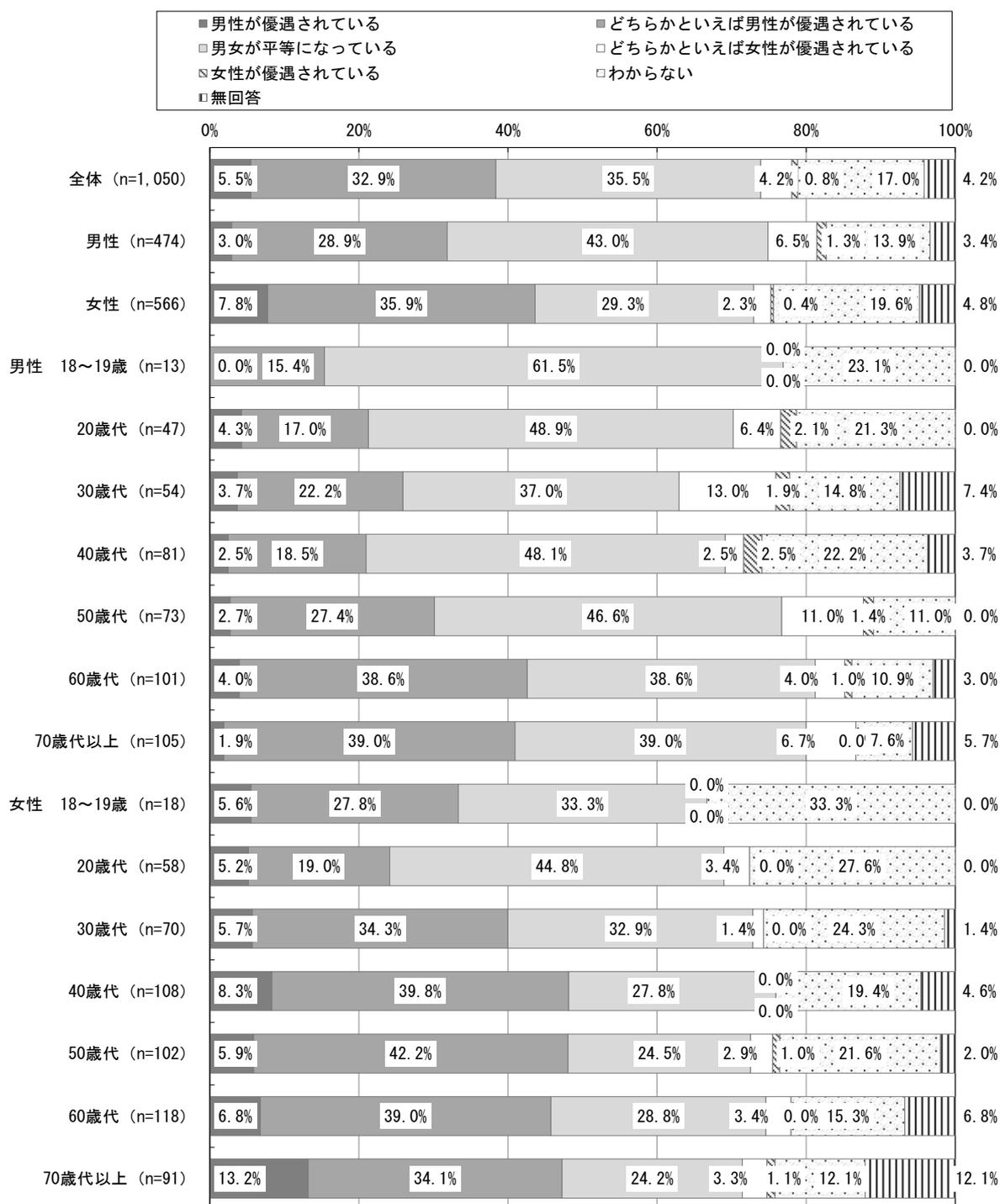
【エ 学校教育の場：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男女ともに40歳代以上で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が増加する傾向にあります。

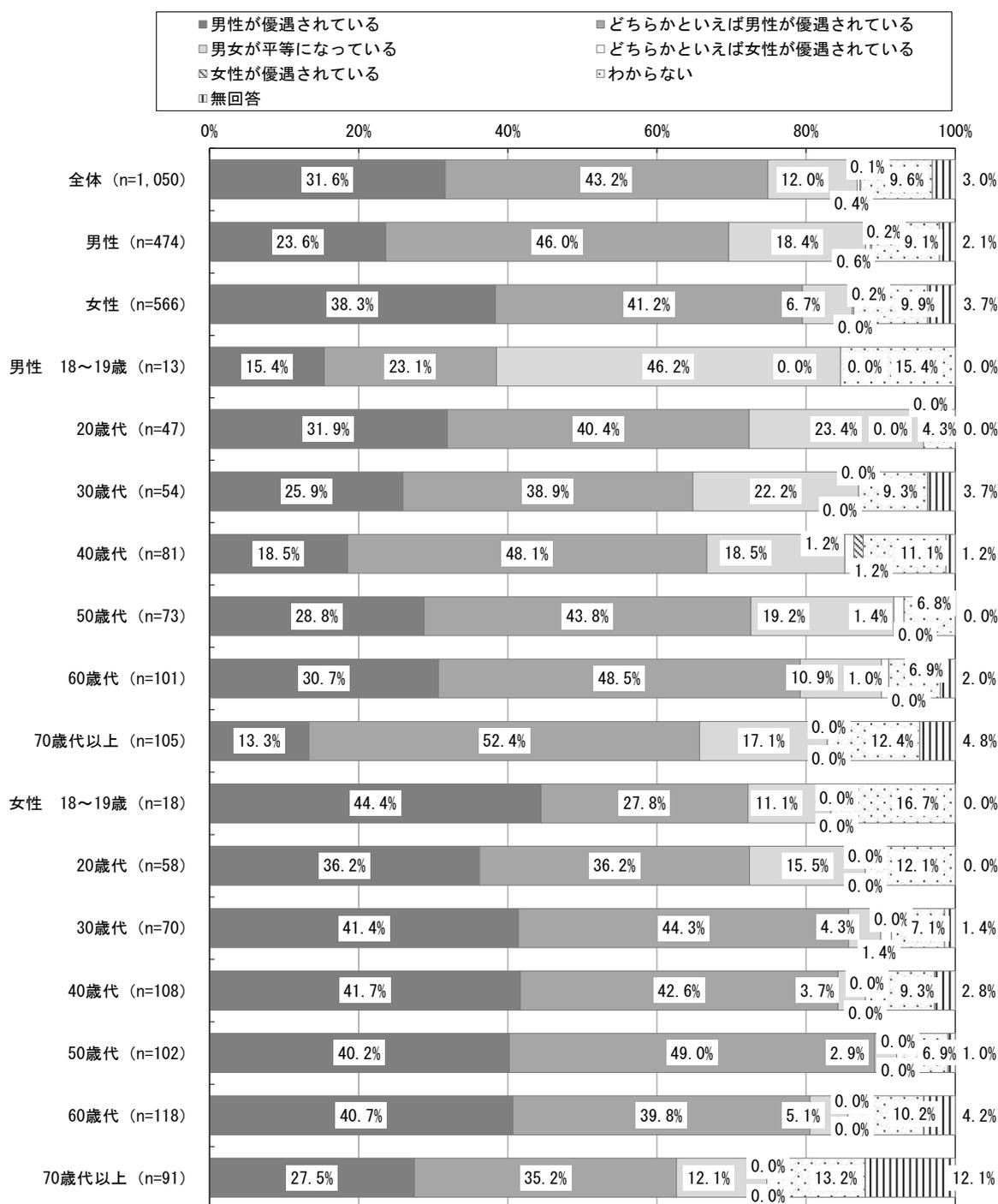
【オ 地域や社会活動の場：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男女ともに年齢が上がるに従い、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が増加する傾向にあり、特に女性の40歳代以上では4割を超える回答となっています。

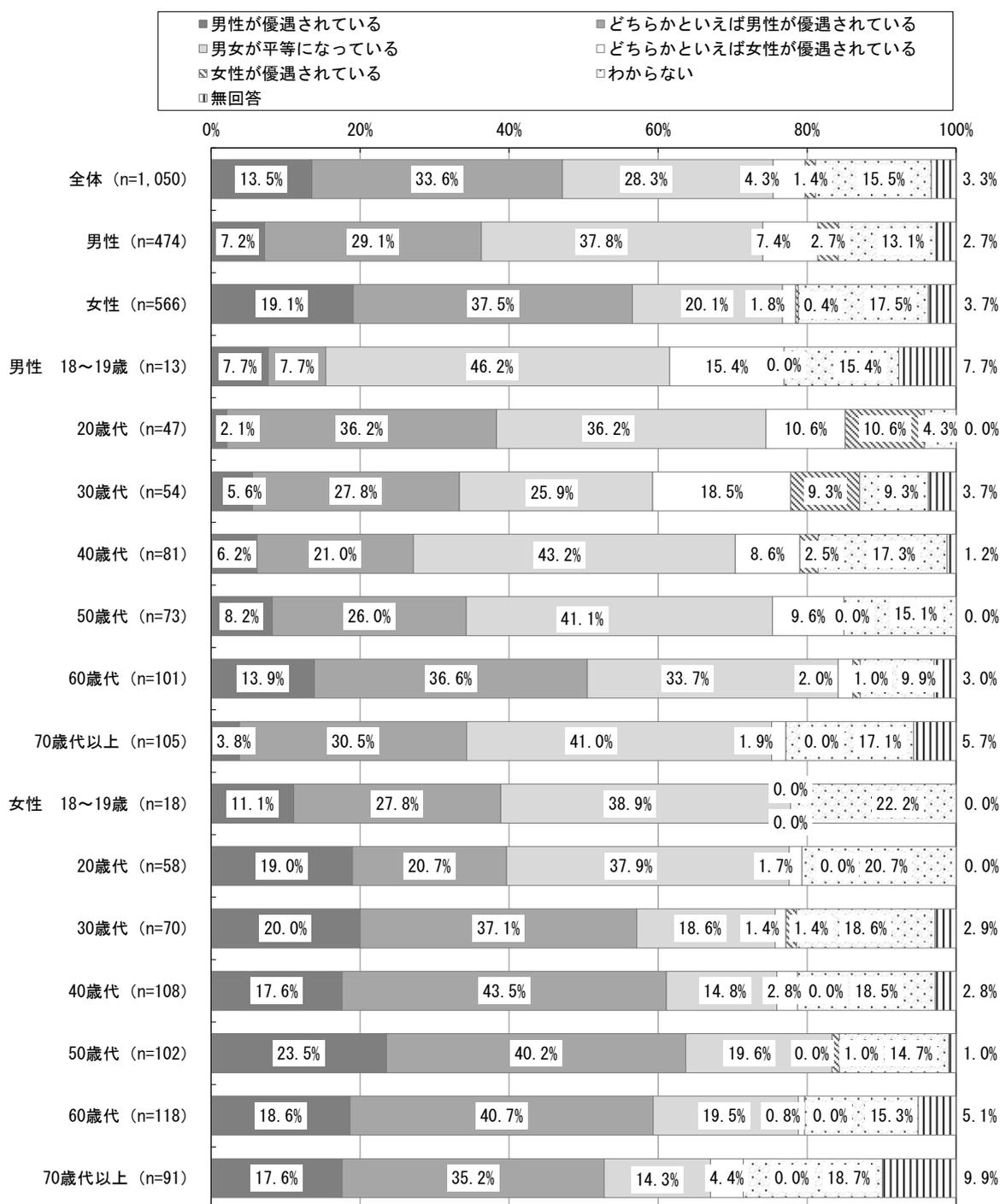
【カ 政治や政策決定の場：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、女性の8割近くの方が回答しています。

年代別でみると、男女ともに年齢が上がるに従い、「男女が平等になっている」という回答が減少しています。特に、女性の30歳代~60歳代では8割以上の方が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

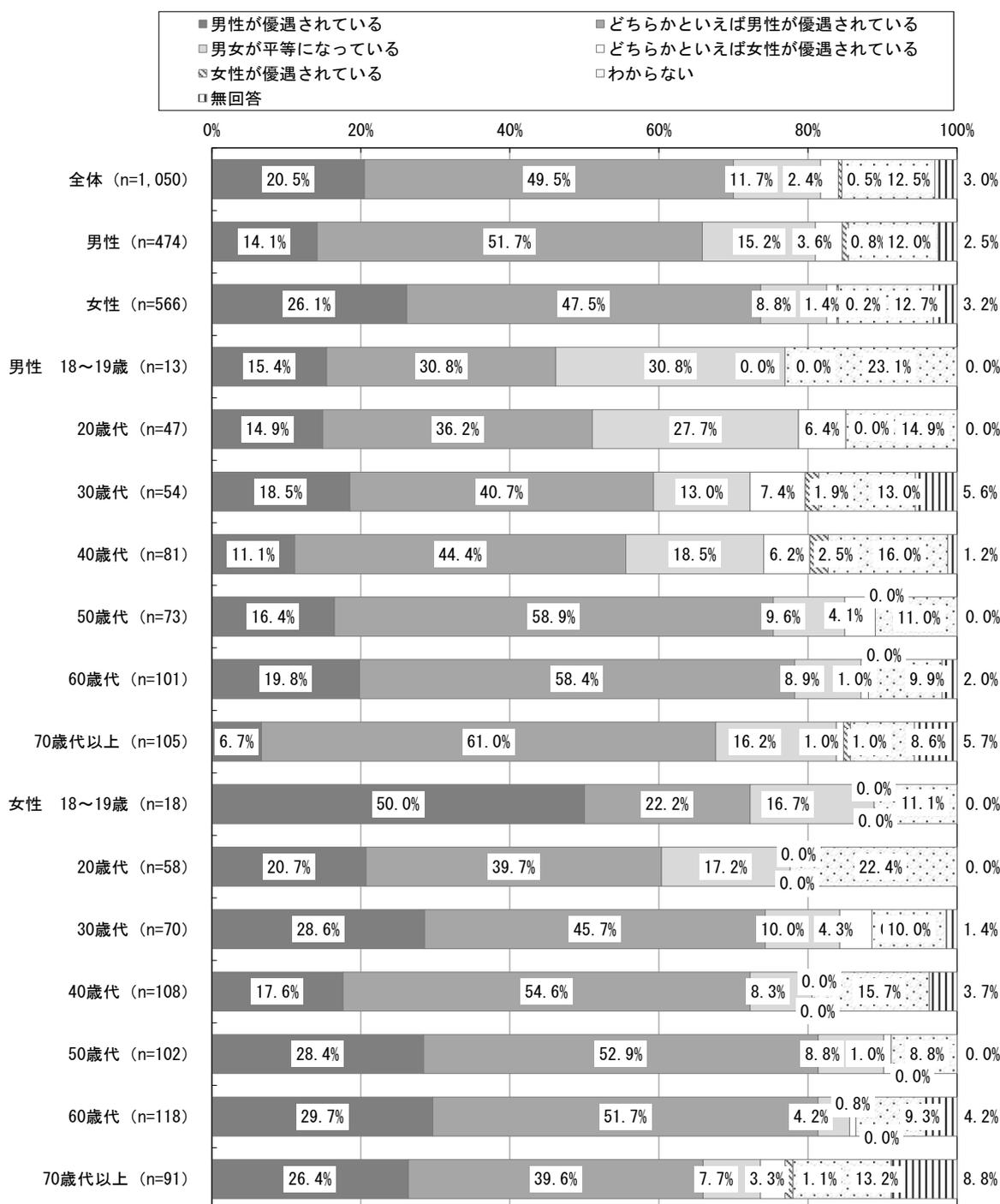
【キ 法律や制度の上：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の若年者は「どちらかといえば女性が優遇されている」、「女性が優遇されている」という回答が高い傾向にあります。また、女性では、30歳代以上で「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっています。

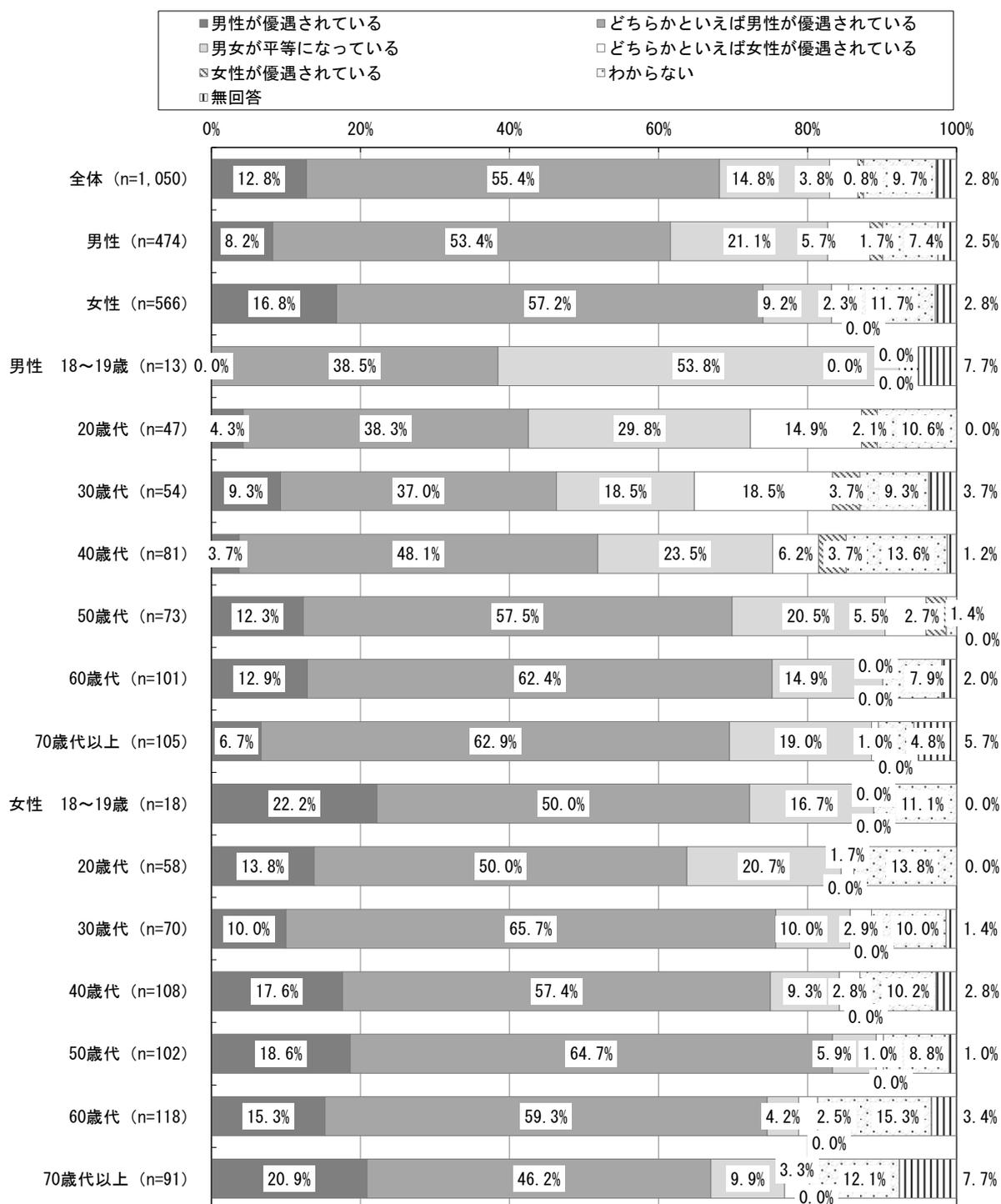
【ク 慣習・しきたり等：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、年齢が上がるに従い「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなる傾向があります。

【ケ 社会全体：男女別・年代別クロス表】

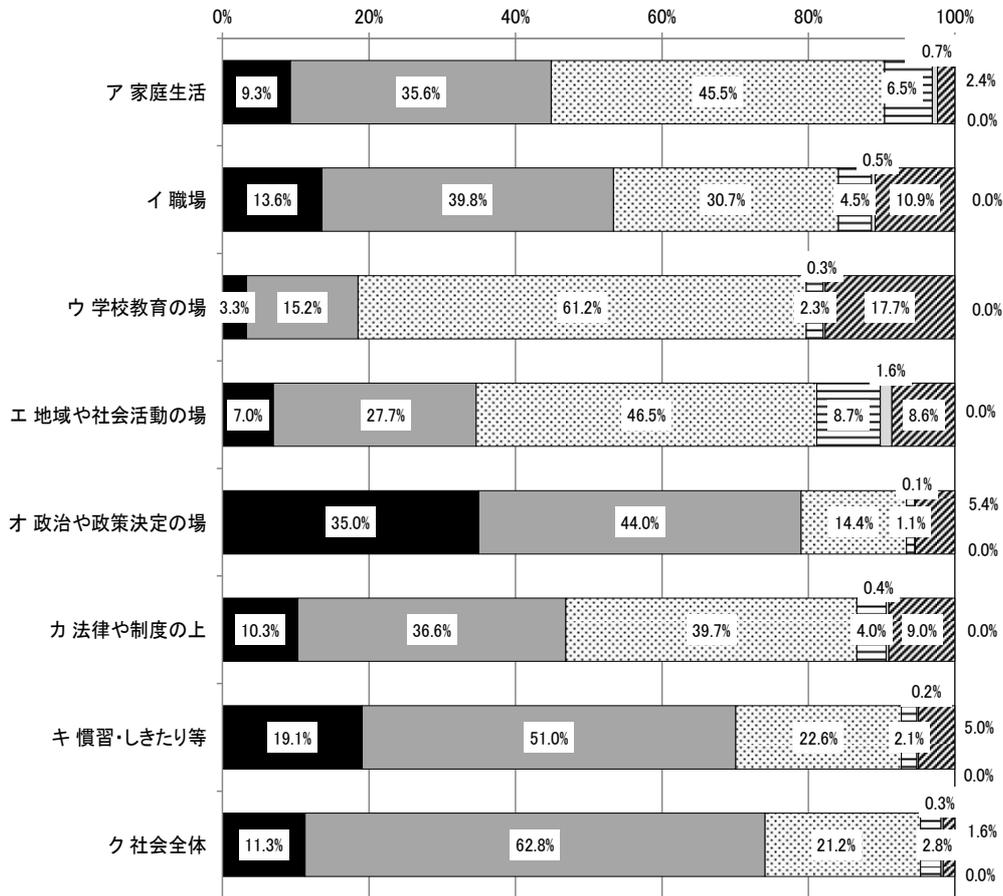
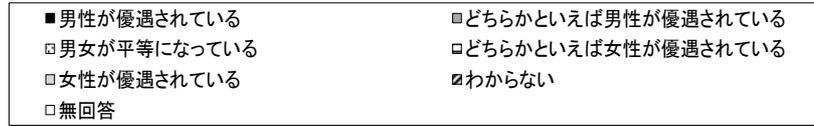


男女別では、男性よりも女性の方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっており、男性は女性よりも「男女が平等になっている」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の50歳代以上及び女性の全ての年代において「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が高くなっています。

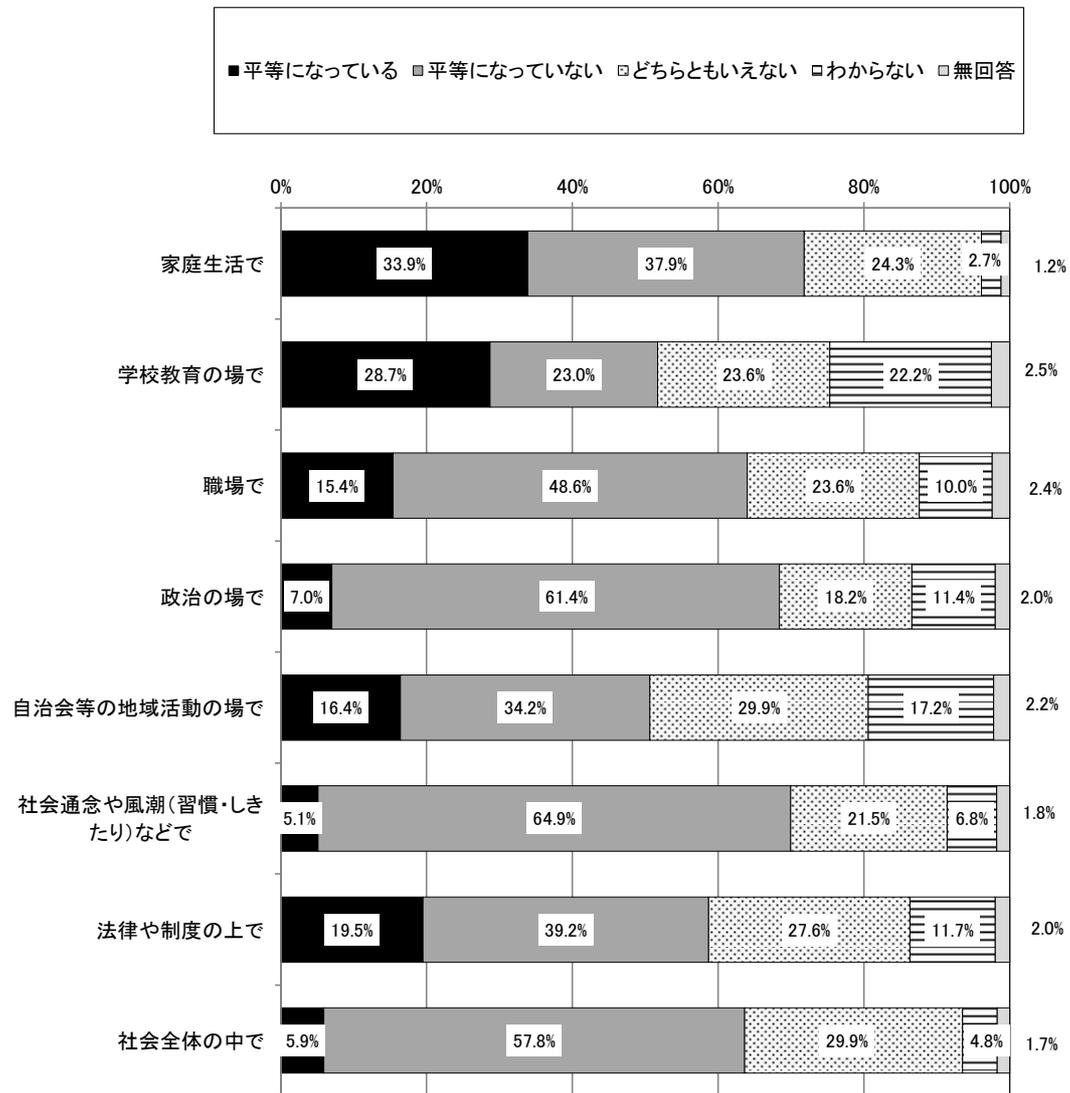
【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年調査）



(n=2,645)

埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」（平成 30 年調査）



(n=1,911)

(3) 性差意識

問8 あなたは、次のア～キの考え方についてどう思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選び、その番号に○をつけてください。

性差に関する意識についてたずねたところ、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」と「子どもの数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」において、賛成の意見「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が半数を占めています。

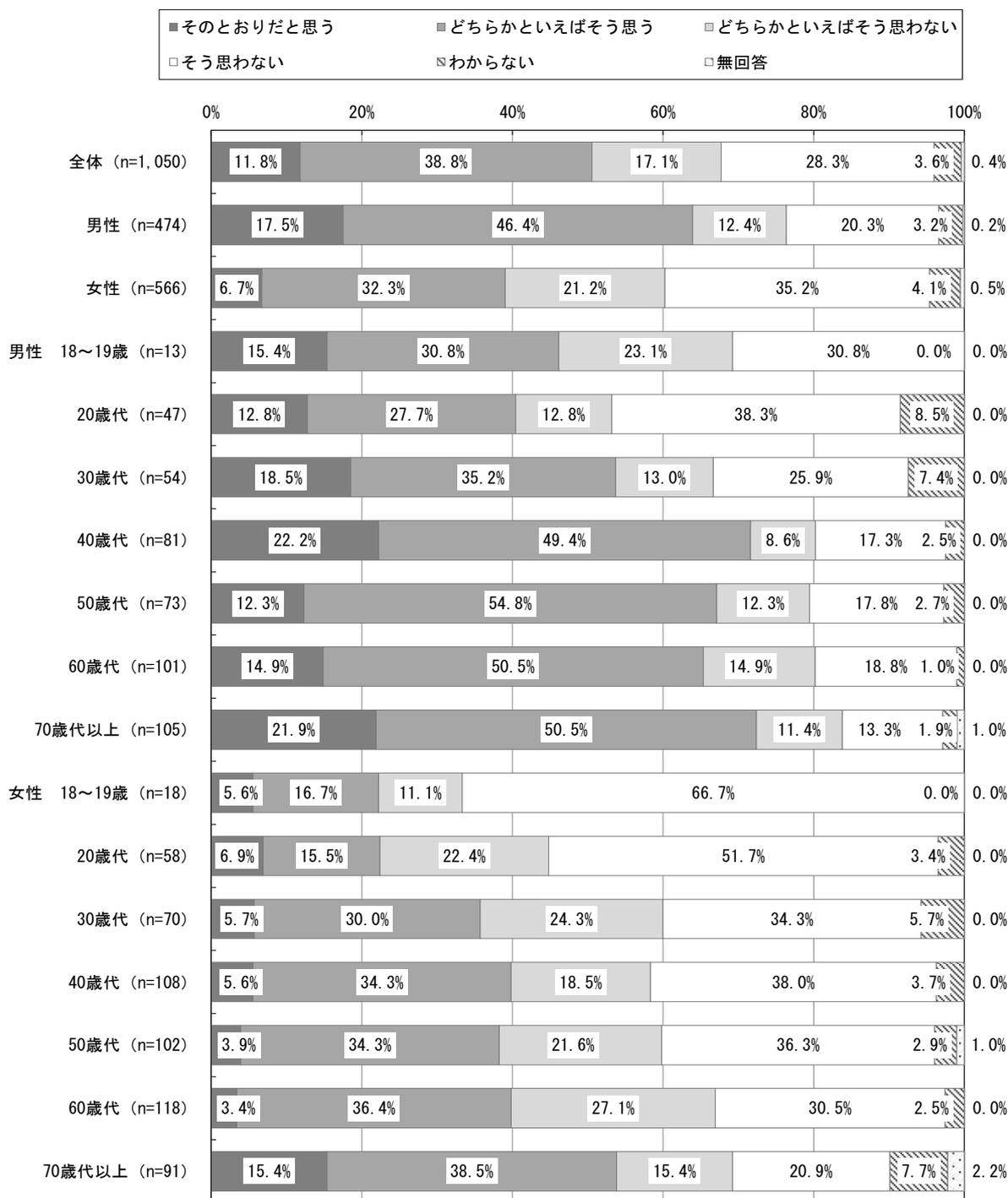
反対に、「女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい」や「女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う」に対しては反対の意見「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計が高くなっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」に賛成の意見「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計が 50.6%、反対意見の「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」の合計が 45.4%であり、前回と比較すると、賛成意見が 7.3 ポイント減少し、反対意見が 7.6 ポイント増えていることから、性差に関する意識の変化がうかがえます。

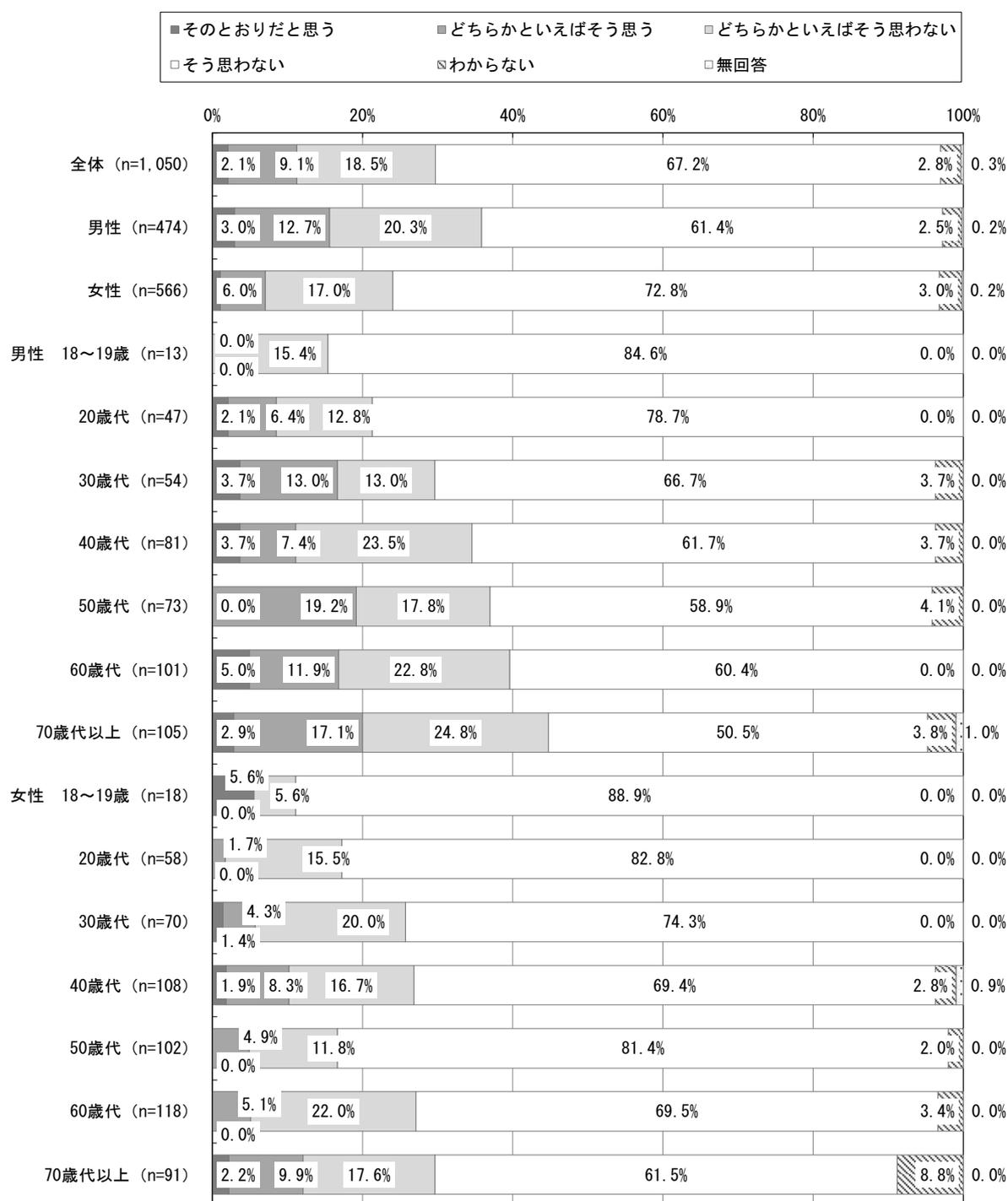
【ア 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が、「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男女ともに30歳代以上において「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあります。

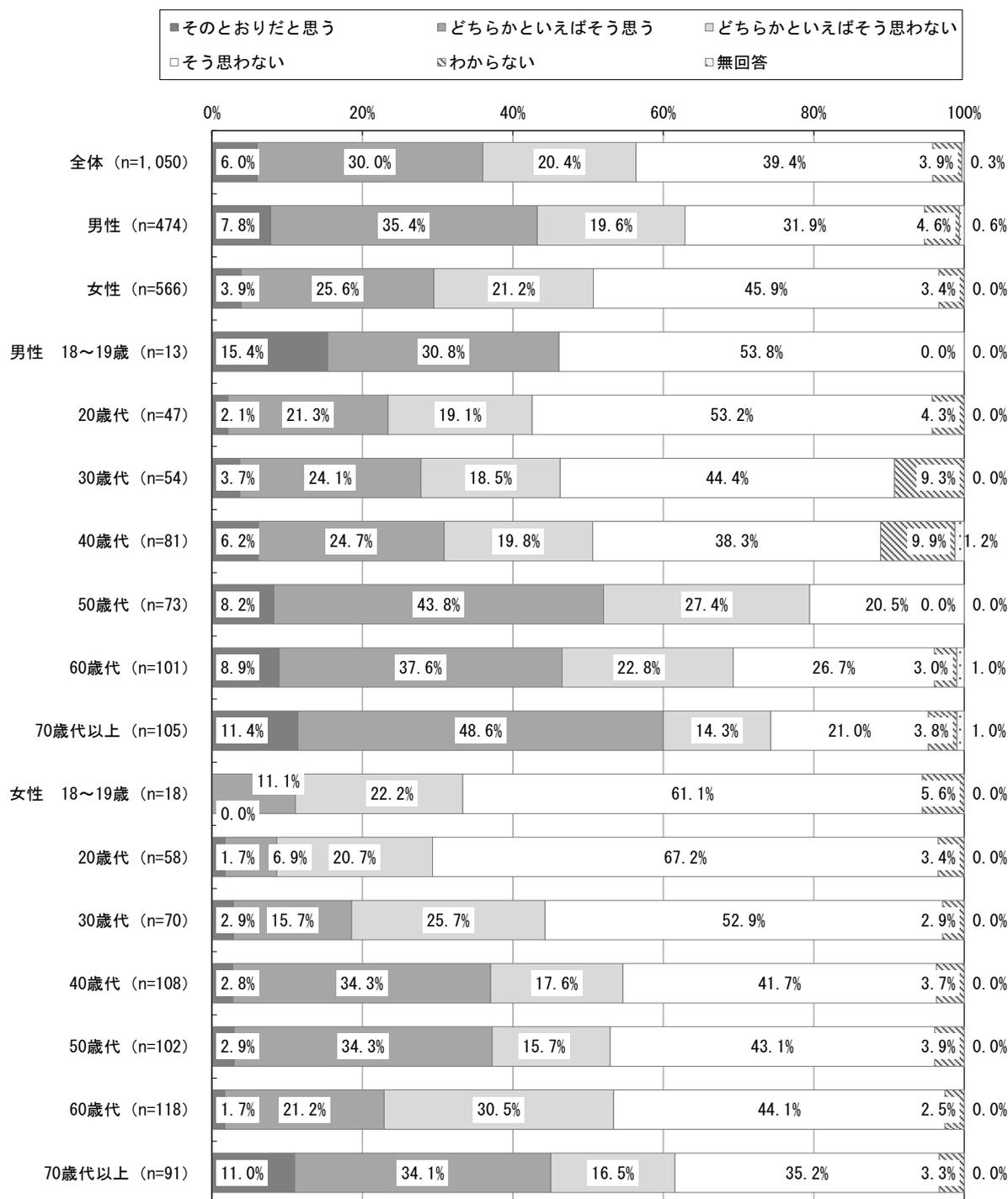
【イ 女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい：
男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男性は年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあります。

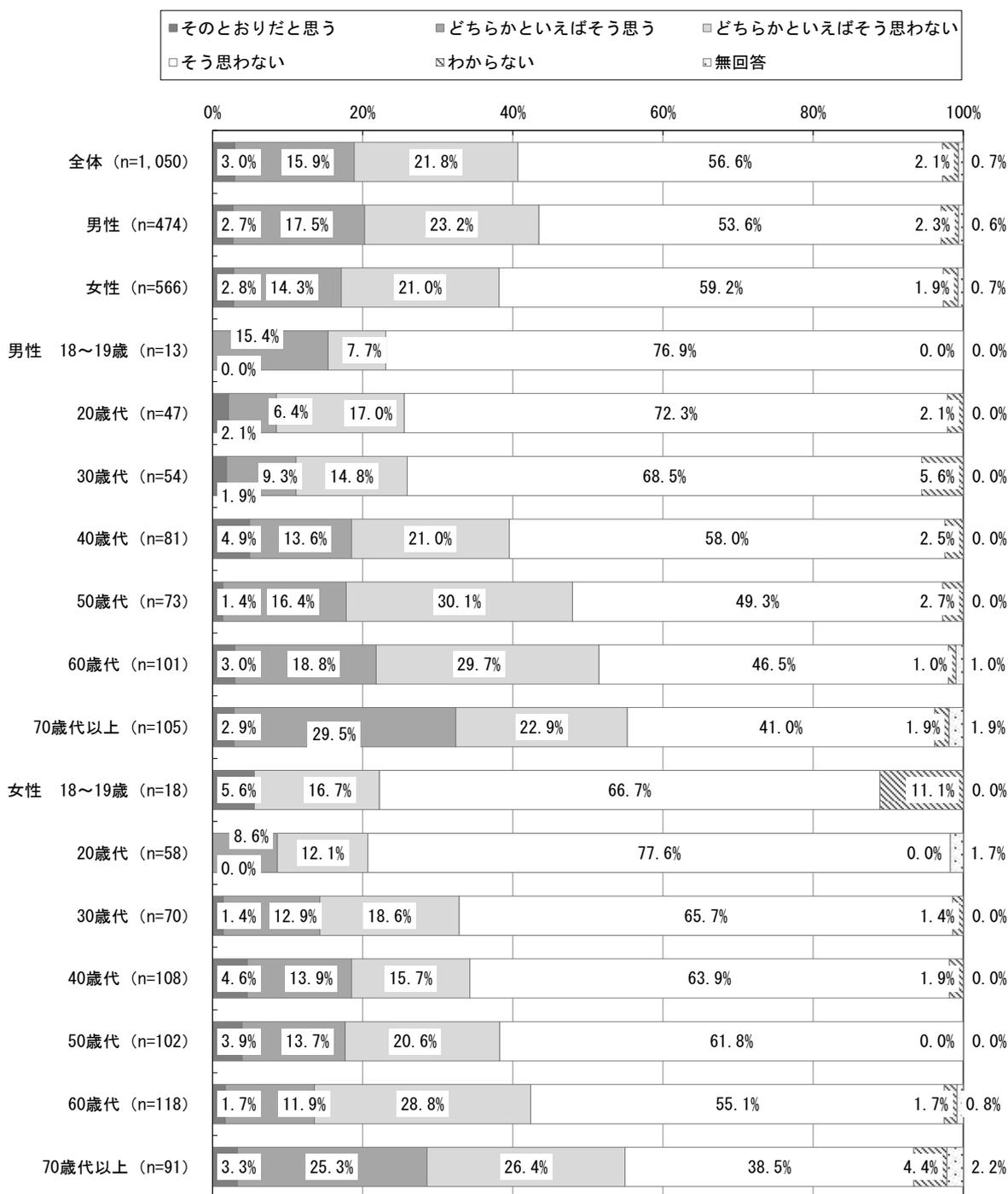
【ウ 子育ては、やはり母親でなくてはと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高く、女性では7割近くの方が「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答しています。

年代別でみると、男性では50歳代以上、女性では40歳代以上で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあります。

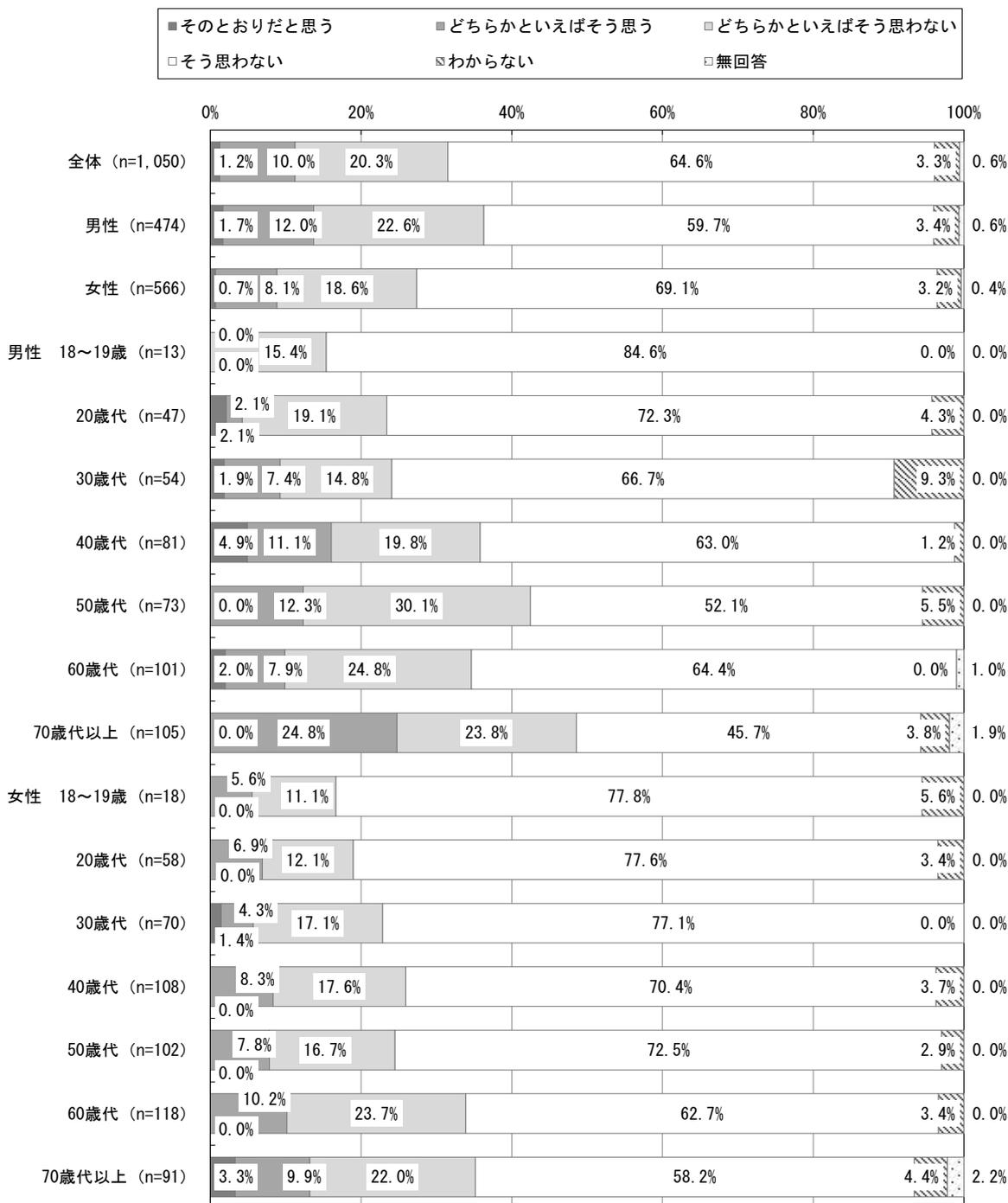
【エ 男性は、家事に向いていないと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっていますが、大きな差はありません。

年代別でみると、男性では40歳代以上、女性は30歳代以上で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が増加する傾向にあります。

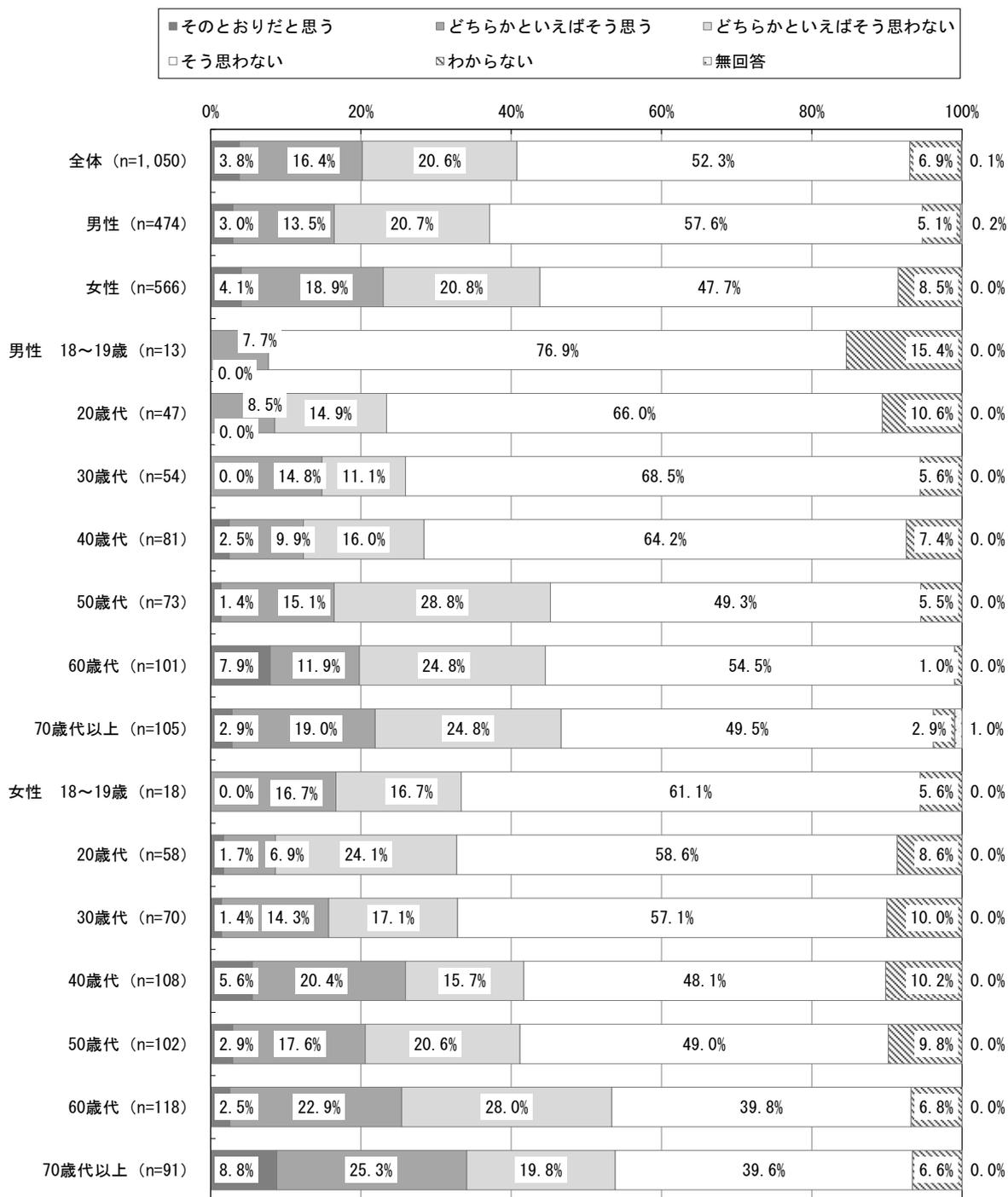
【オ 女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性よりも男性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別でみると、男性では、40歳代と50歳代で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。女性では、年齢が上がるに従い「どちらかといえばそう思う」という回答が多くなる傾向にあります。

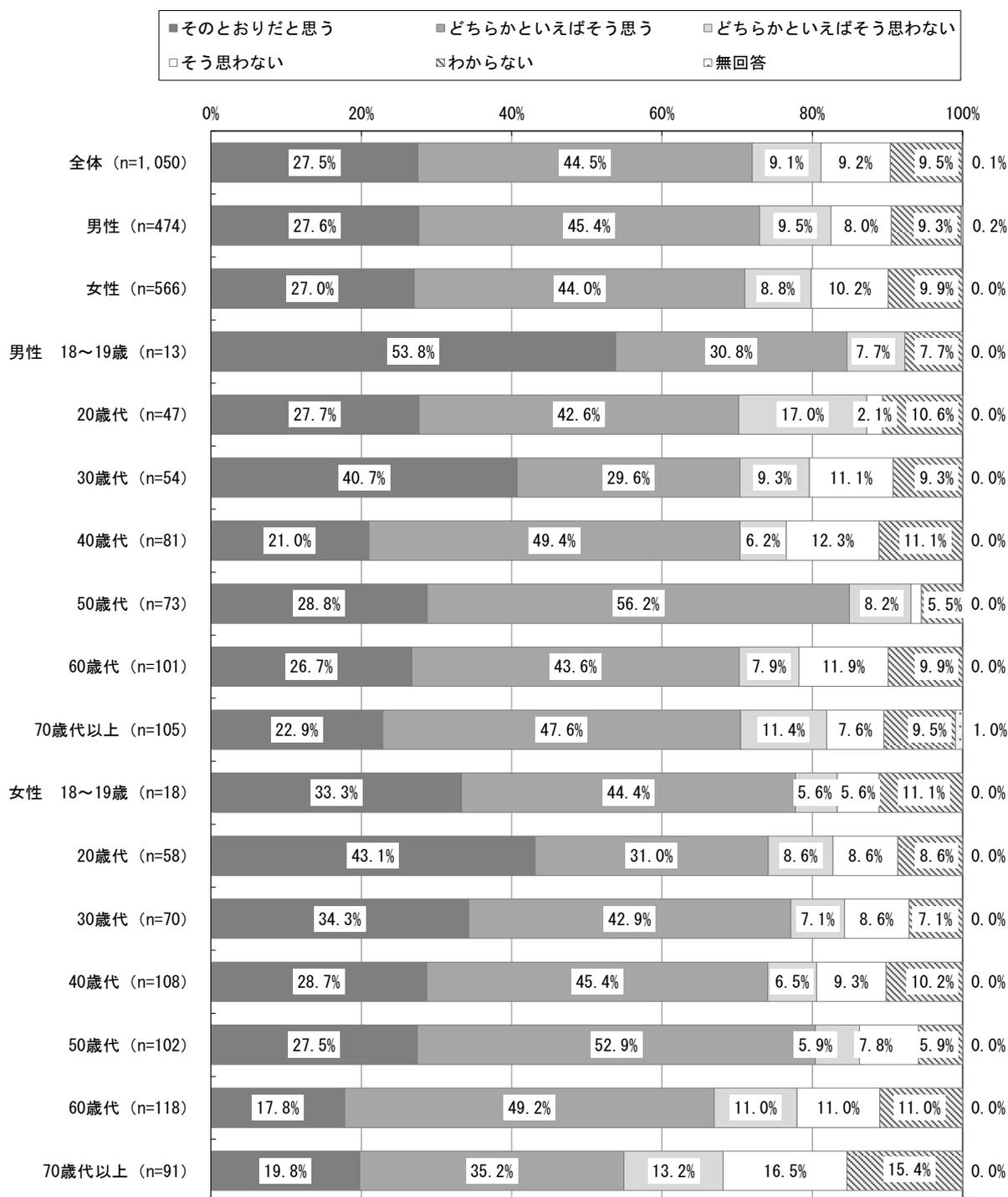
【カ 自治会などの団体の代表は、男性がなった方がよいと思う：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性よりも女性の方が「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答がやや高くなっています。

年代別にみると、男女ともに年代が上がるに従い「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が高くなる傾向にあります。

【キ 子供の数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい：男女別・年代別クロス表】



性別による男女での差はみられませんでした。

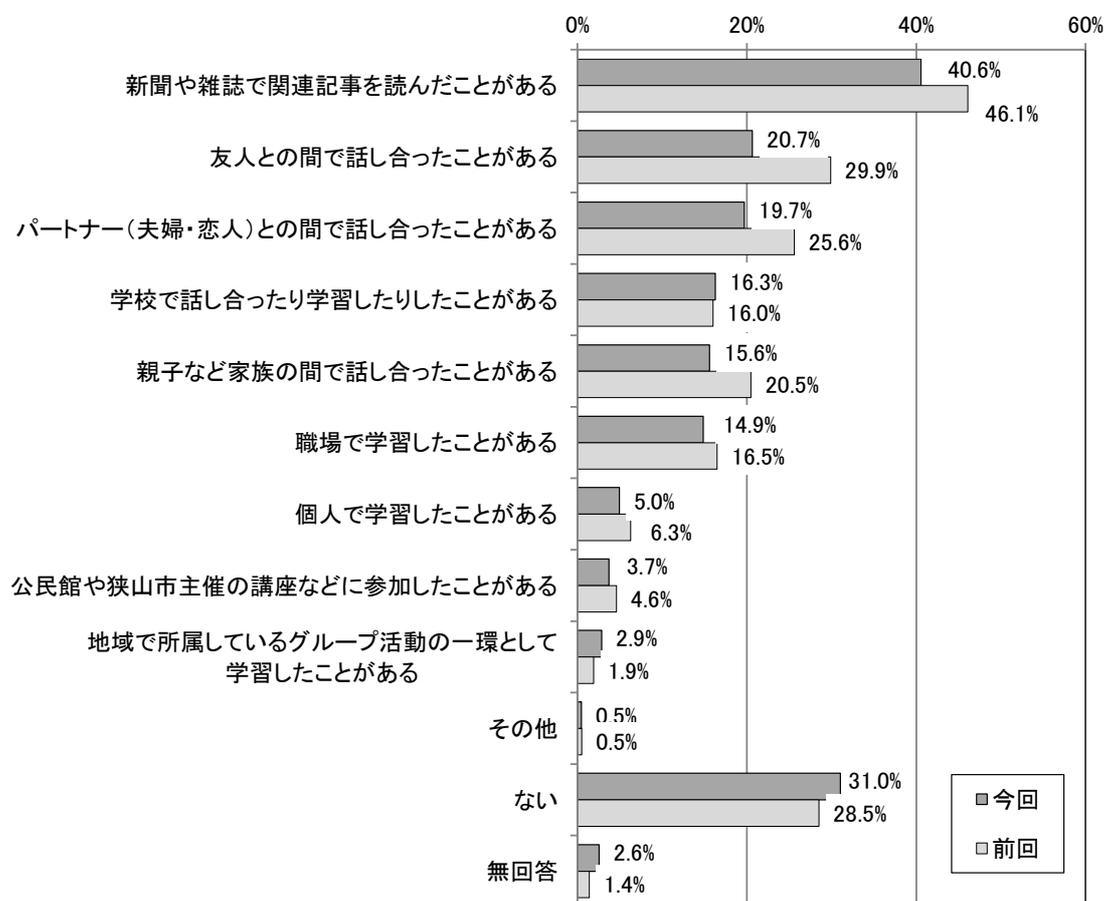
年代別でみると、男女ともに50歳代で「そのとおりだと思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が8割を超えています。

3 男女共同参画社会について

(1) 男女共同参画に関する学習経験

問9 あなたはこれまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

男女共同参画に関する学習経験では、「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」が40.6%と最も高く、次いで「ない」が31.0%、「友人との間で話し合ったことがある」が20.7%、「パートナー（夫婦・恋人）との間で話し合ったことがある」19.7%の順になっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、話し合ったり学習したりしたことが「ない」という回答が2.5ポイント増加し、全体でも学習経験が減少傾向にあります。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位		100.0% : 2位		100.0% : 3位		職場で学習したことがある	個人で学習したことがある	その他	ない	無回答	
		友人との間で話し合ったことがある	パートナー(夫婦・恋人)との間で話し合ったことがある	親子など家族の間で話し合ったことがある	新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある	公民館や狭山市主催の講座などに参加したことがある	地域で所属しているグループ活動の一環として学習したことがある						学校で話し合ったり学習したりしたことがある
全体	1,050	20.7%	19.7%	15.6%	40.6%	3.7%	2.9%	16.3%	14.9%	5.0%	0.5%	31.0%	2.6%
男性	474	15.4%	20.9%	11.4%	43.2%	3.0%	3.2%	14.6%	22.2%	7.2%	0.8%	32.3%	2.1%
女性	566	24.9%	18.9%	19.3%	38.3%	4.4%	2.5%	18.0%	8.8%	3.2%	0.2%	30.2%	2.5%
男性 18～19歳	13	15.4%	15.4%	0.0%	30.8%	0.0%	0.0%	84.6%	7.7%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%
20歳代	47	21.3%	17.0%	12.8%	29.8%	0.0%	2.1%	42.6%	12.8%	4.3%	0.0%	36.2%	0.0%
30歳代	54	9.3%	13.0%	14.8%	25.9%	0.0%	1.9%	27.8%	22.2%	1.9%	1.9%	35.2%	0.0%
40歳代	81	9.9%	22.2%	13.6%	37.0%	6.2%	4.9%	13.6%	22.2%	7.4%	1.2%	40.7%	2.5%
50歳代	73	16.4%	20.5%	9.6%	43.8%	2.7%	1.4%	8.2%	34.2%	9.6%	1.4%	23.3%	1.4%
60歳代	101	18.8%	25.7%	8.9%	52.5%	1.0%	1.0%	4.0%	28.7%	8.9%	0.0%	28.7%	1.0%
70歳代以上	105	16.2%	21.9%	12.4%	55.2%	5.7%	6.7%	1.9%	13.3%	7.6%	1.0%	35.2%	5.7%
女性 18～19歳	18	22.2%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	88.9%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	58	19.0%	13.8%	15.5%	29.3%	1.7%	1.7%	58.6%	10.3%	5.2%	0.0%	22.4%	0.0%
30歳代	70	28.6%	22.9%	22.9%	28.6%	0.0%	0.0%	34.3%	10.0%	5.7%	0.0%	28.6%	0.0%
40歳代	108	20.4%	20.4%	16.7%	31.5%	4.6%	1.9%	11.1%	6.5%	2.8%	0.9%	38.9%	2.8%
50歳代	102	25.5%	28.4%	24.5%	41.2%	5.9%	1.0%	6.9%	17.6%	4.9%	0.0%	30.4%	1.0%
60歳代	118	24.6%	15.3%	20.3%	44.9%	2.5%	1.7%	5.1%	8.5%	0.8%	0.0%	32.2%	2.5%
70歳代以上	91	30.8%	15.4%	12.1%	51.6%	11.0%	8.8%	3.3%	2.2%	1.1%	0.0%	29.7%	7.7%

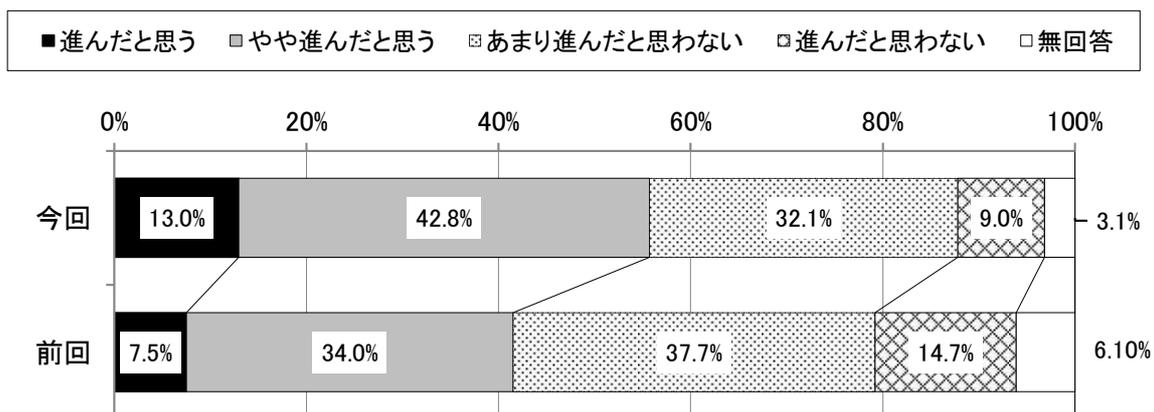
男女別では、男女ともに、「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」という回答が最も高く、次いで「ない」となっていますが、男性では、第3位に「職場で学習したことがある」という回答となっており、女性は、「友人との間で話し合ったことがある」となっています。

年代別でみると、男性の20歳代以下と女性の30歳代以下で、「学校で話し合ったり学習したりしたことがある」という回答が最も高くなっています。

(2) 生活や職場での男女共同参画の進捗状況

問 10 あなたは、この 10 年間で生活や職場のなかで男女共同参画が進んだと思いますか。あてはまる番号を 1 つ選び○をつけてください。

生活や職場の中での男女共同参画の進捗状況をたずねたところ、全体では「やや進んだと思う」と回答した人の割合が 42.8%と最も高く、次いで「あまり進んだと思わない」と回答した人が 32.1%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「やや進んだと思う」という回答が 8.8 ポイント増加し、「あまり進んだと思わない」という回答が 5.6 ポイント減少しています。

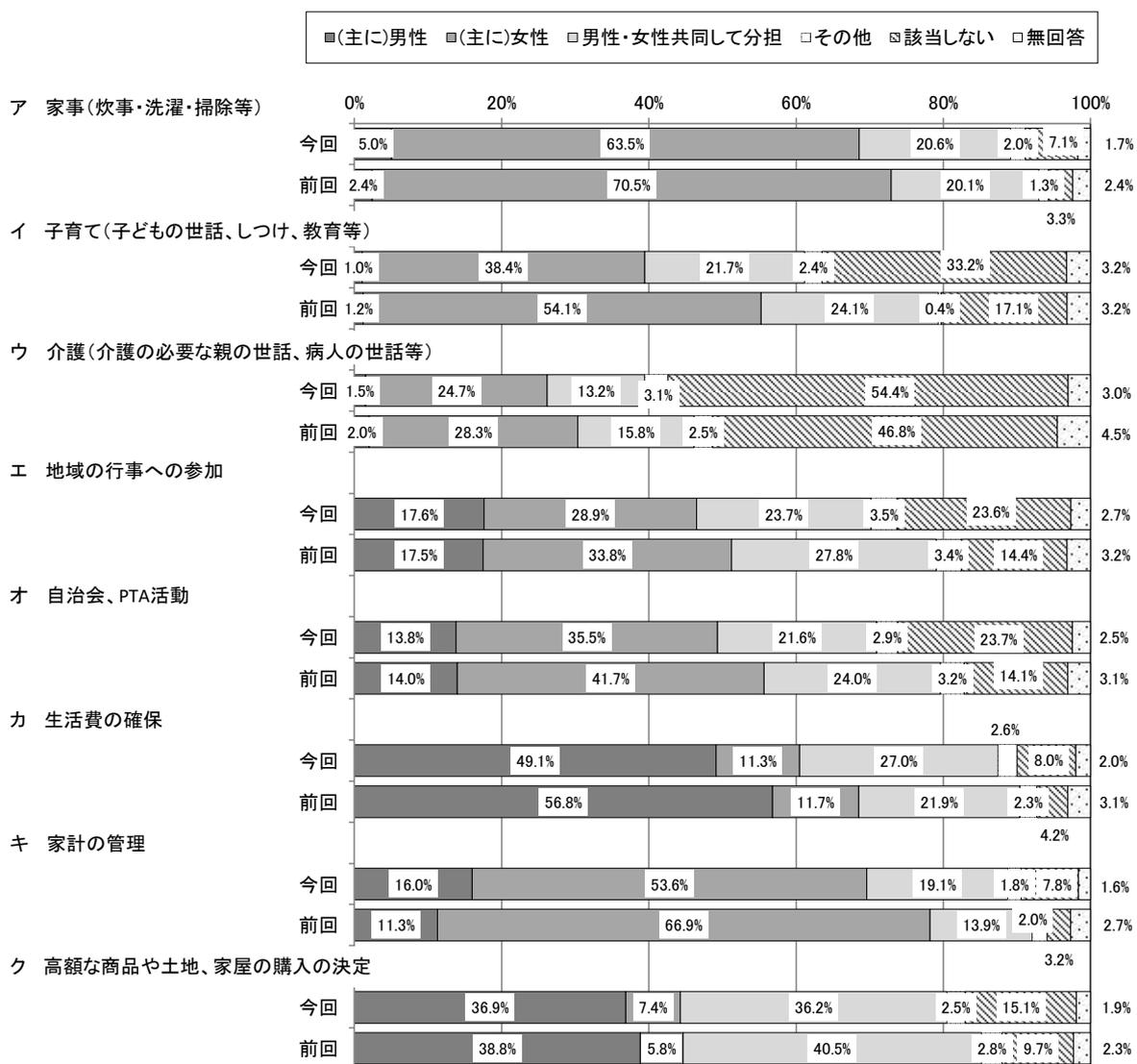
4 家庭生活・子育てについて

(1) 主な担当者

問 11 今現在あなたの家庭では、次のア～クのことについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。それぞれ1つずつ選び、その番号に○をつけてください。

家庭生活や子育てについて主に担当している性別をたずねたところ、「生活費の確保」と「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」は「(主に) 男性」の割合が高く、他の項目は全て「(主に) 女性」の割合が高くなっています。

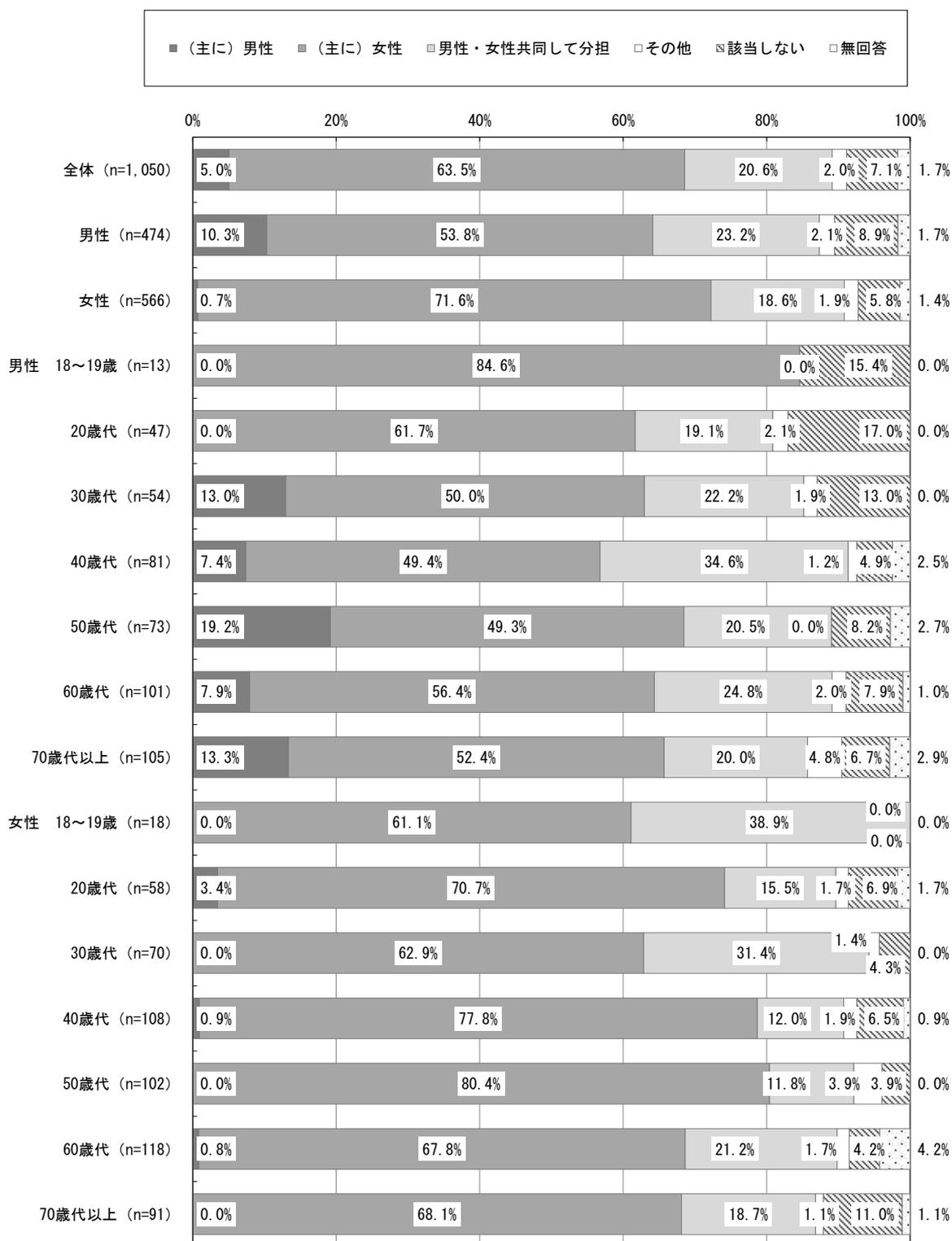
「男性・女性共同して分担」の割合が最も高いのは「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」となっています。



【前回調査(平成27年度)との比較】

前回との比較では、ほとんどの項目で「(主に) 女性」という回答が減少しています。また、「生活費の確保」では、「(主に) 男性」という回答が少なく、「男性・女性共同して分担」という回答が高くなっています。

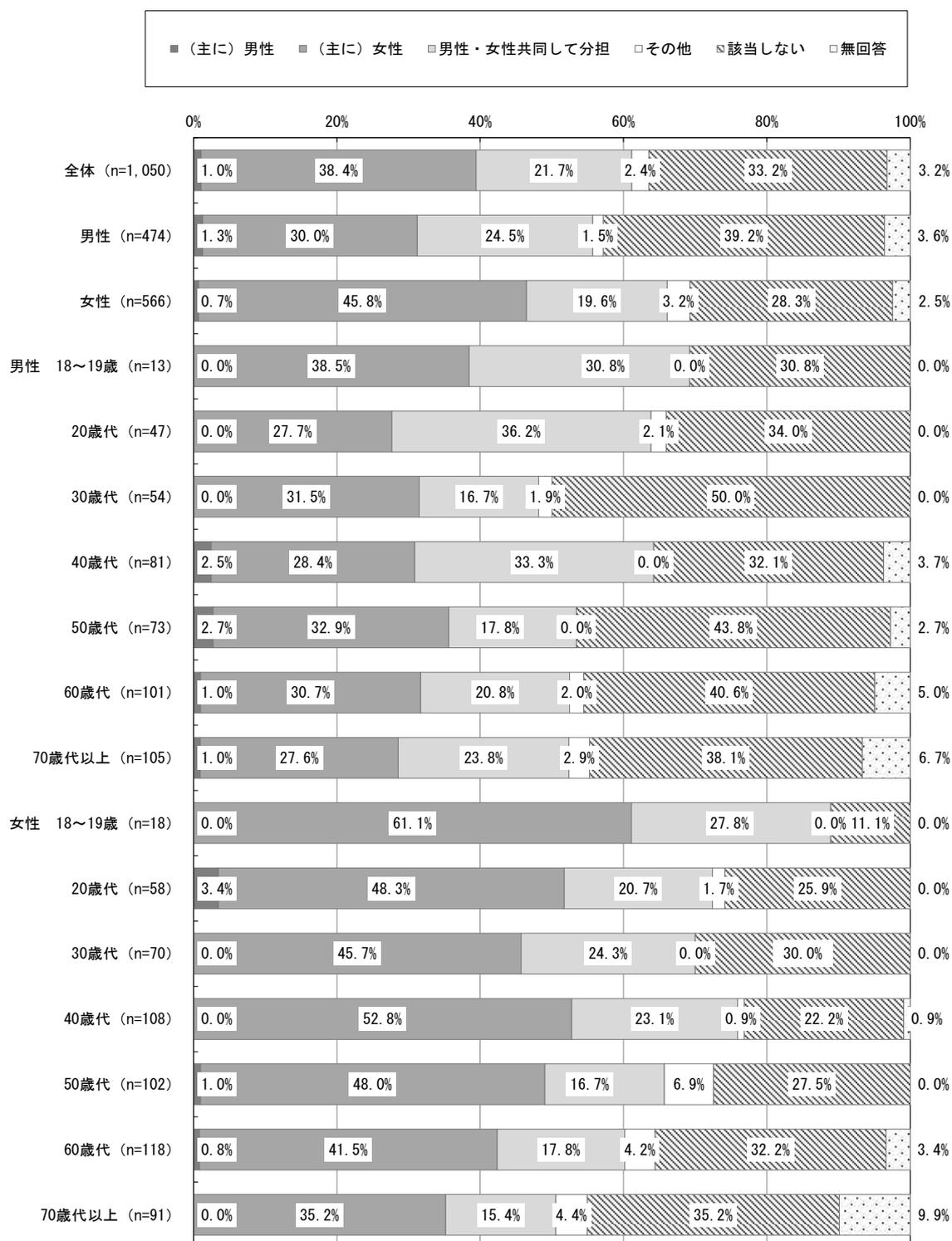
【ア 家事（炊事・洗濯・掃除等）：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性の約1割が「(主に) 男性」と回答しています。

年代別でみると、男性は「(主に) 男性」という回答が30歳以上の年代で、7%~19.2%ありますが、女性の回答では0%~3.4%となっています。

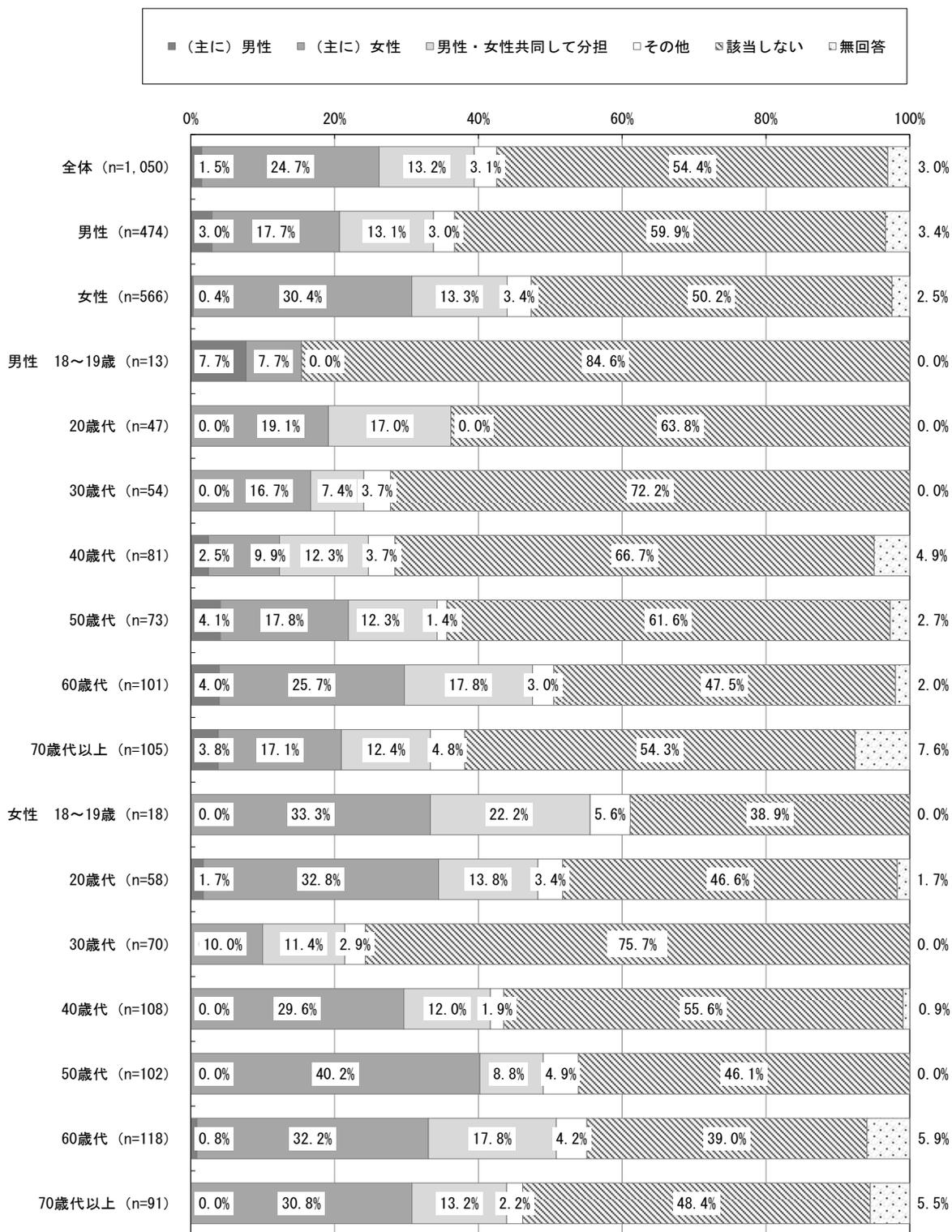
【イ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育等）：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は女性より、「男性・女性共同して分担」という回答が高く、女性は男性より「(主に) 女性」という回答が高くなっています。

年代別でみると、男性の18～19歳と20歳代及び40歳代で「男性・女性共同して分担」という回答が3割を超えています。一方、女性では、年齢が上がるに従い、「男性・女性共同して分担」という回答が低くなる傾向があります。

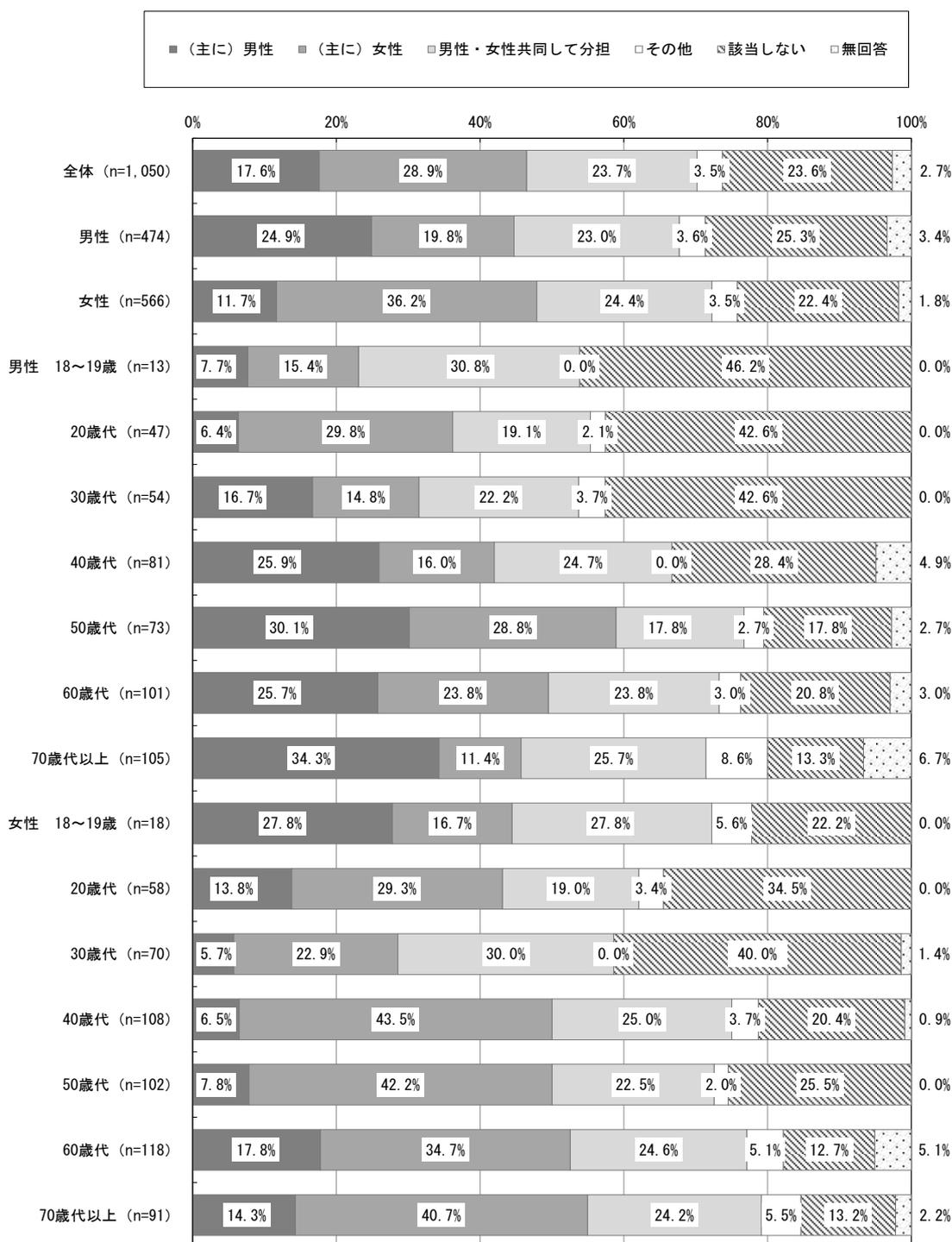
【ウ 介護（介護の必要な親の世話、病人の世話等）：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性は「(主に) 女性」という回答が3割以上となり、「(主に) 男性」という回答はほぼありませんでした。

年代別でみると、「(主に) 女性」という回答が、女性は30歳代を除く年代で3割以上となっており、男性より高くなっています。

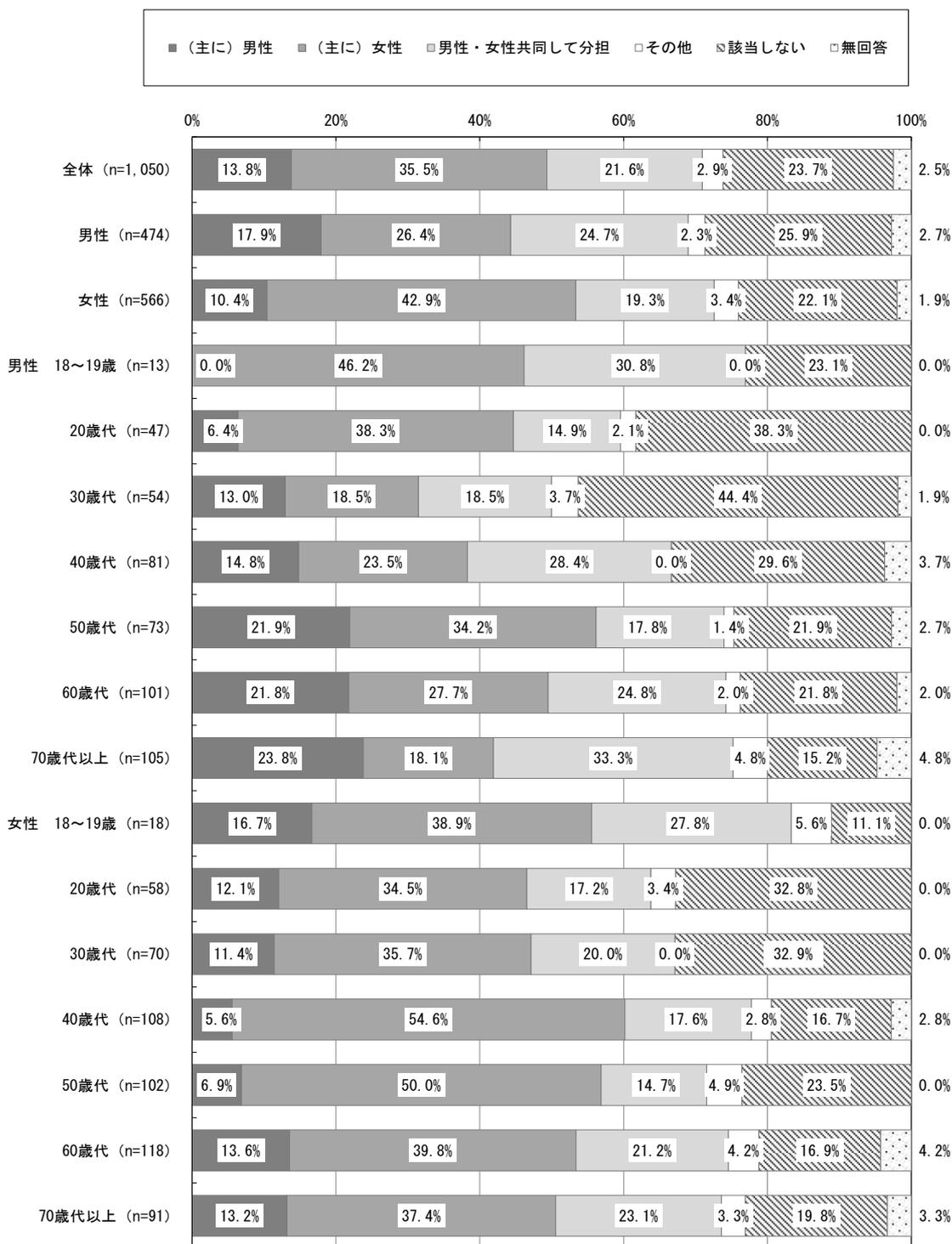
【エ 地域の行事への参加：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に) 男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に) 女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性は、年代が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が増加する傾向があります。女性は、年代が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が減少し、40歳代以上では、「(主に) 女性」という回答が3割以上となっています。

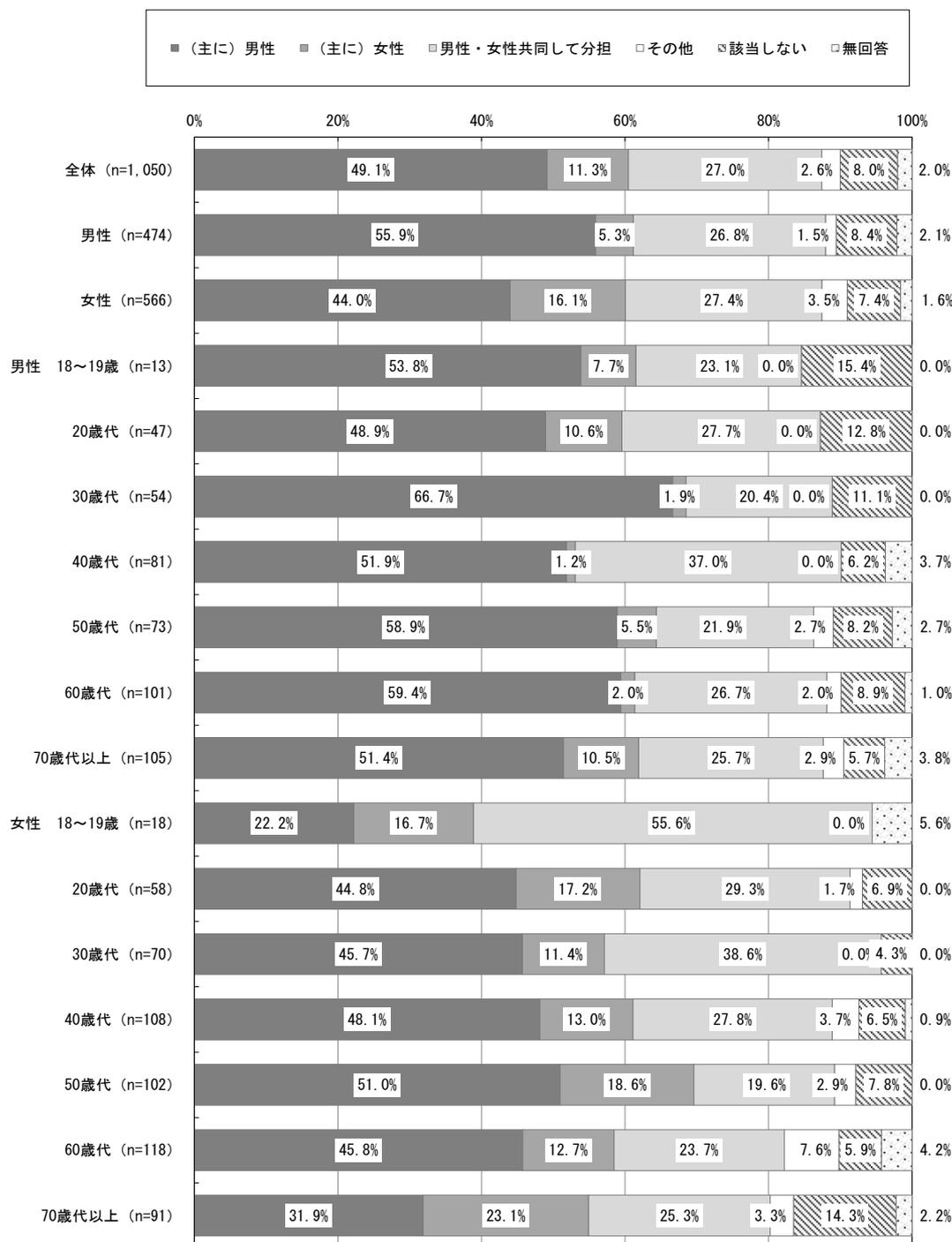
【オ 自治会、PTA 活動：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に) 男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に) 女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性は、年代が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が増加する傾向があります。女性は、年齢が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が減少し、全ての年代で「(主に) 女性」という回答が3割以上となっています。

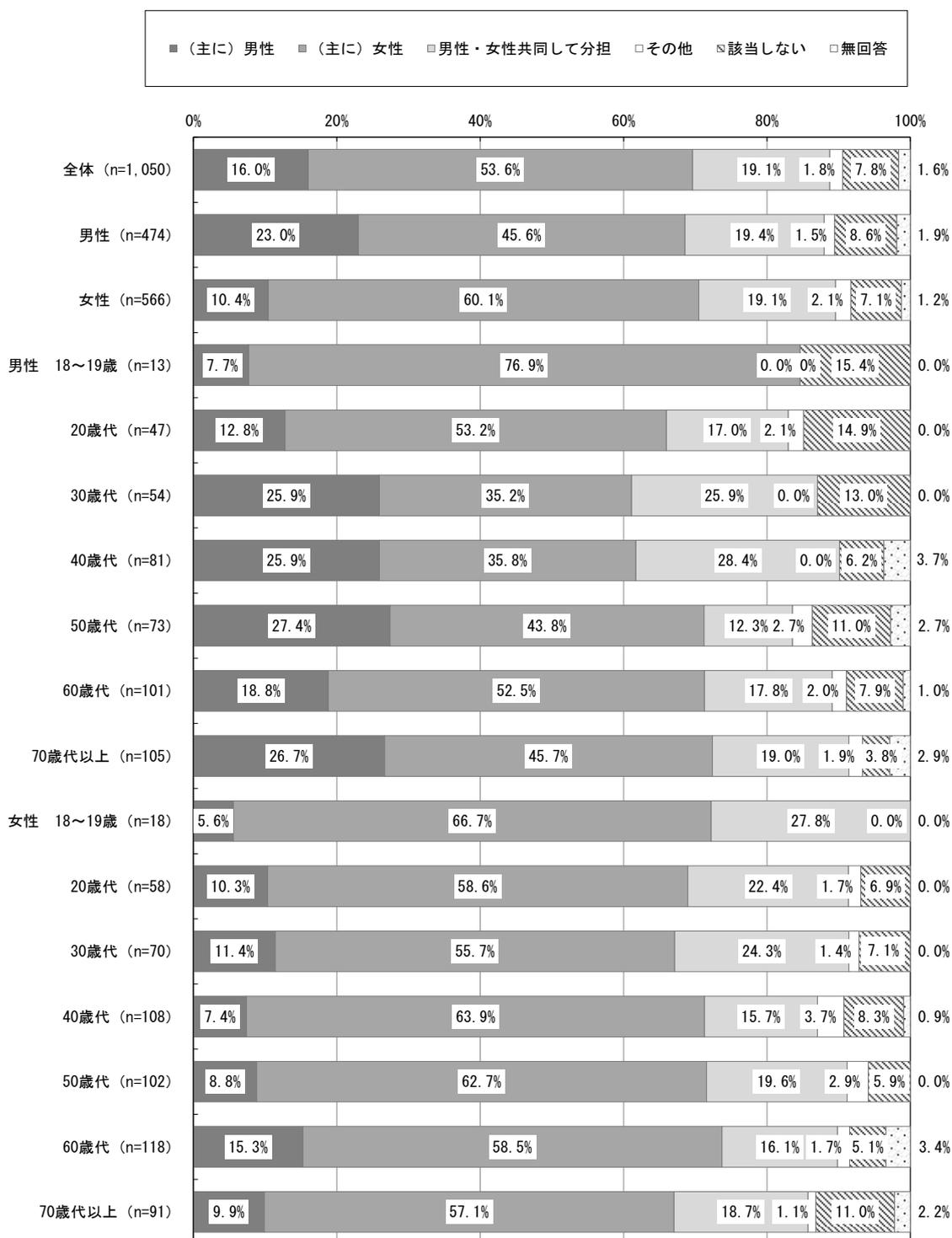
【カ 生活費の確保：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に) 男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に) 女性」、「男性・女性共同して分担」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男女ともに50歳代までは「(主に) 男性」という回答が高くなっていますが、60歳代以降はやや減少しています。男性では、年代が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が増加する傾向があります。女性は、50歳代をピークに「(主に) 男性」という回答が減少しています。

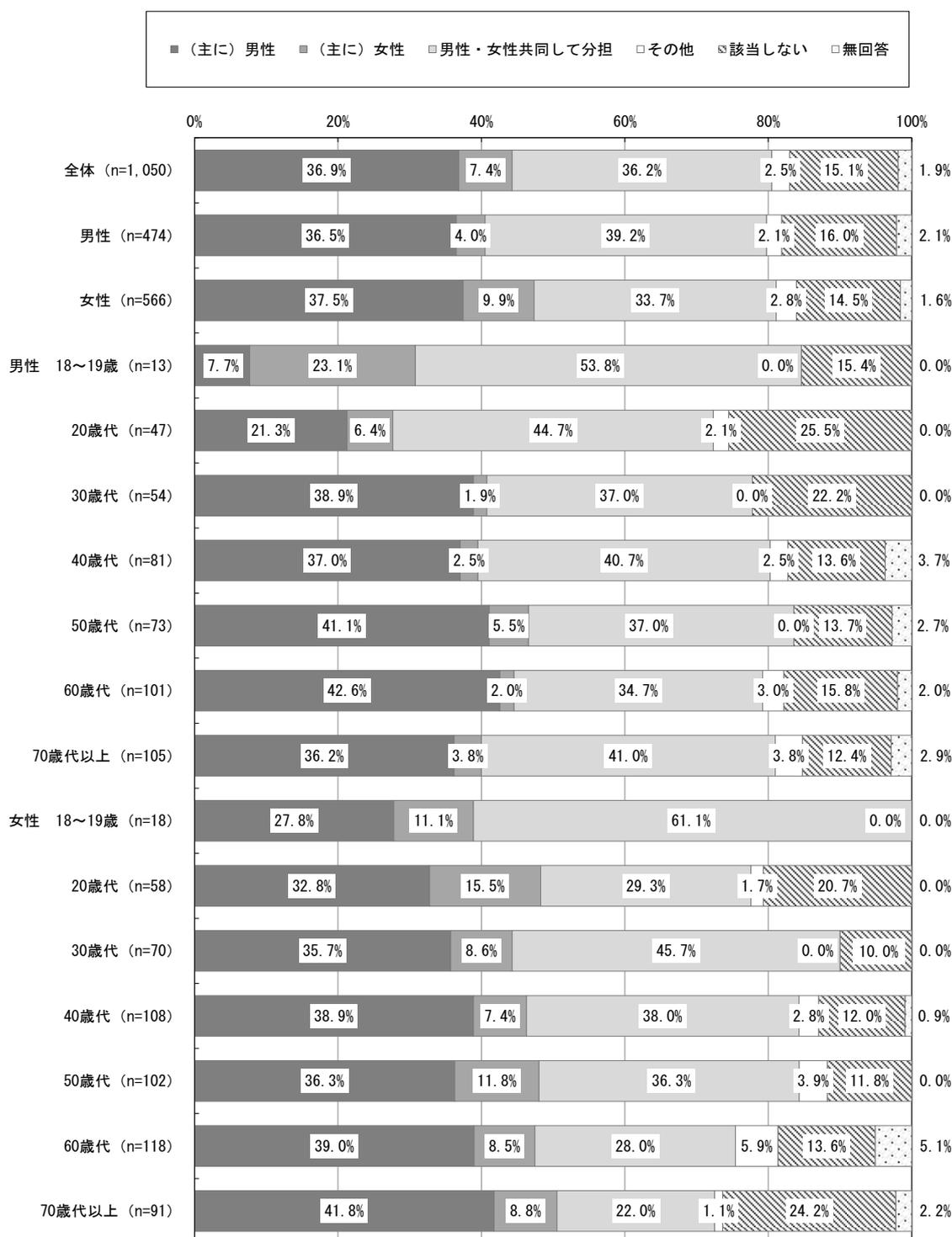
【キ 家計の管理：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「(主に) 男性」という回答が女性より高く、女性は、「(主に) 女性」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男性の30歳代以降では、「(主に) 男性」という回答が20%前後となっています。また、女性では、全ての年代で「(主に) 女性」という回答が約半数を占めています。

【ク 高額な商品や土地、家屋の購入の決定：男女別・年代別クロス表】



男女別では、女性は「(主に) 女性」という回答が男性よりやや高くなっています。

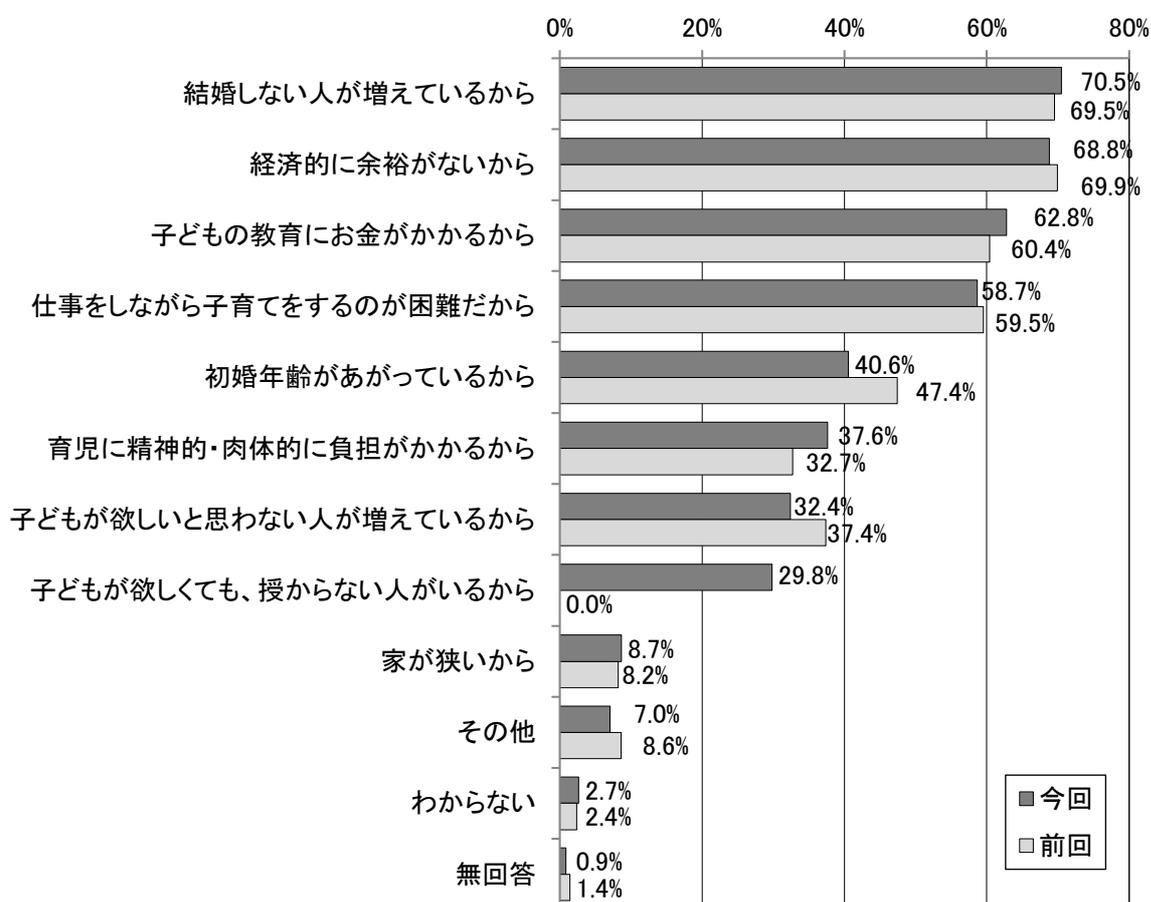
年代別でみると、男女ともに年代が上がるに従い「(主に) 男性」という回答が高くなる傾向があります。また、「男性・女性共同して分担」という回答は概ね女性より男性の方が高くなっています。

(2) 少子化の原因

問 12 最近、子どもの出生数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

少子化の原因については、「結婚しない人が増えているから」が70.5%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が68.8%、「子どもの教育にお金がかかるから」が62.8%、「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が58.7%の順になっています。

前回との比較では、第1位が「経済的に余裕がないから」から「結婚しない人が増えているから」に入れ替わりがみられます。

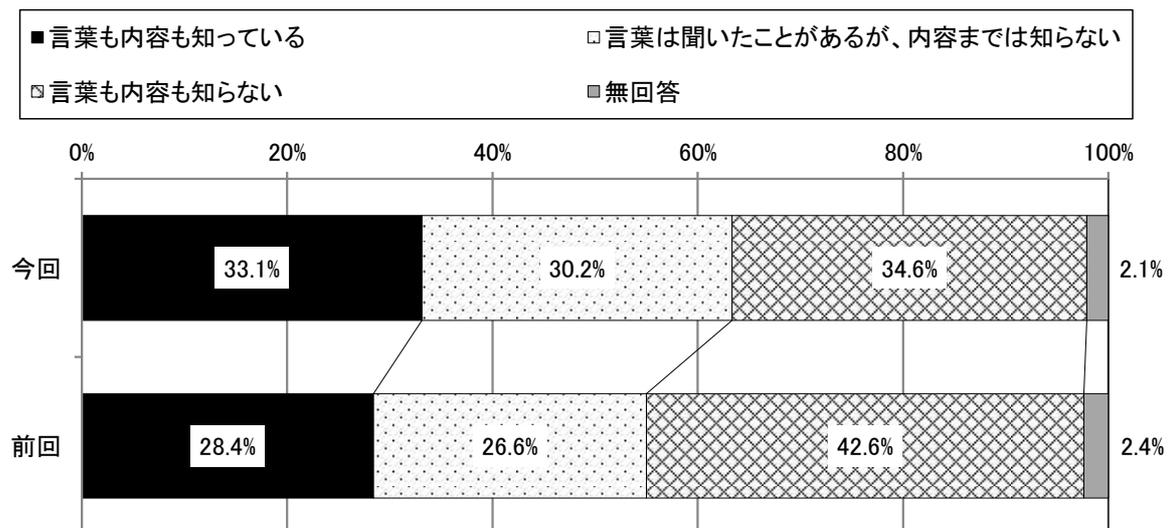


5 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度

問 13 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。
あてはまる番号を1つ選び○をつけてください。

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度をみると、知っている（「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の合計）は63.3%となっています。

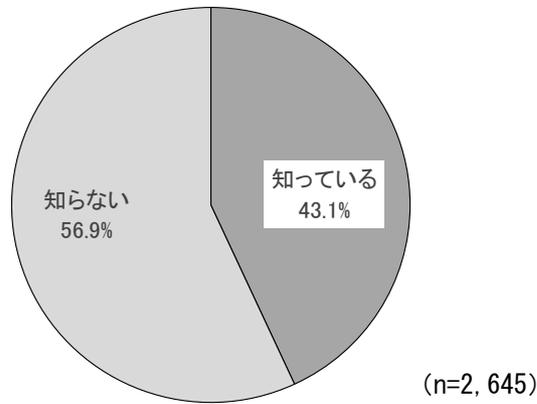


【前回調査（平成 27 年度）との比較】

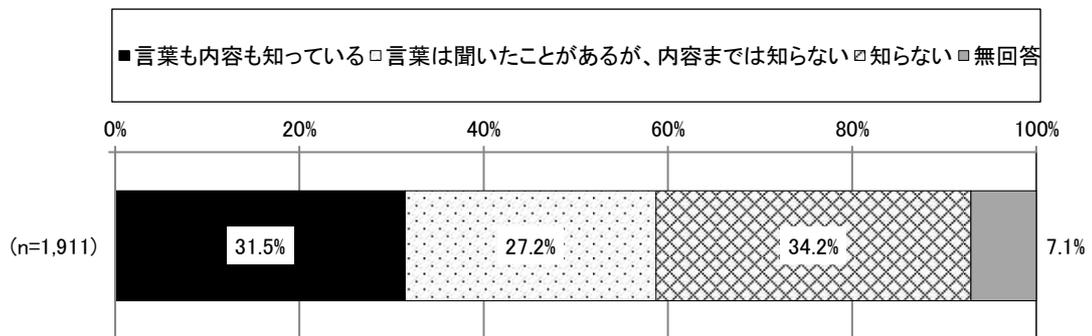
前回との比較では、知っている（「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の合計）という回答が8.3ポイント増加し、「言葉も内容も知らない」という回答が8ポイント減少しています。ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が高まっていることがわかります。

【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年調査）



埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」（平成30年調査）

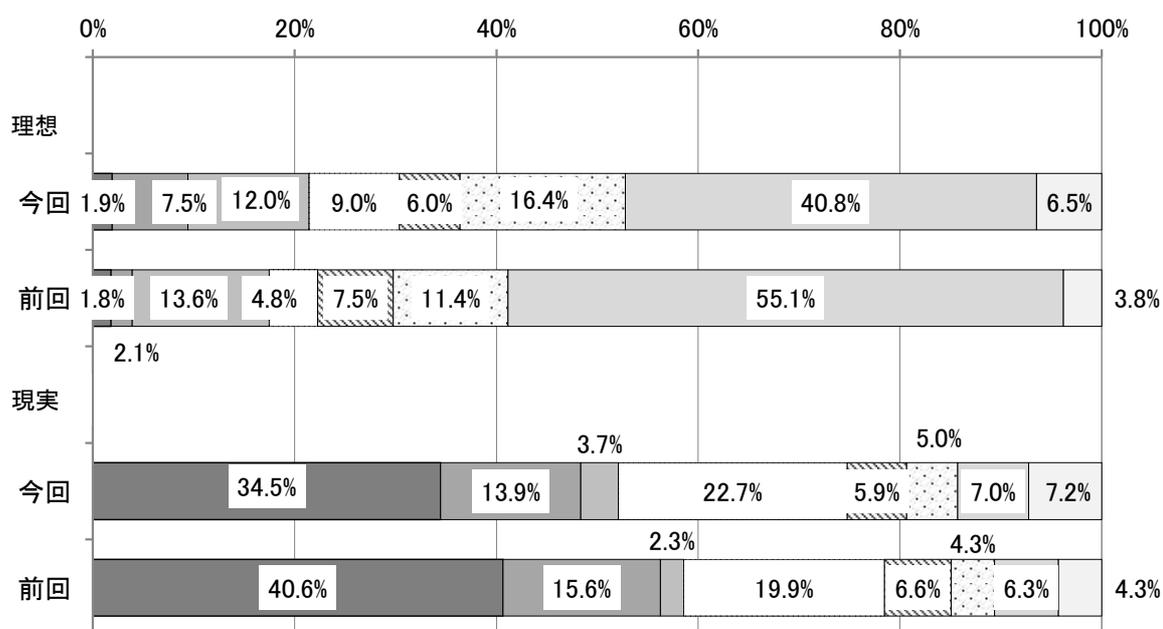


(2) 生活の中での優先度

問 14 生活の中での優先度についてでお伺いします。「理想」としての優先度と「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、それぞれ1つ選んで番号を記入してください。

生活の中での優先度について「理想」と「現実」を比較すると、理想では「仕事・家庭生活・プライベート（個人的）な時間を両立」が40.8%ですが、現実では「仕事を優先」が34.5%で最も高く、「仕事・家庭生活・プライベート（個人的）な時間を両立」は7.0%となっています。

■仕事を優先	■家庭生活を優先
□プライベート(個人的)な時間を優先	□仕事と家庭生活を優先
▨仕事とプライベート(個人的)な時間を優先	□家庭生活とプライベート(個人的)な時間を優先
□仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立	□無回答

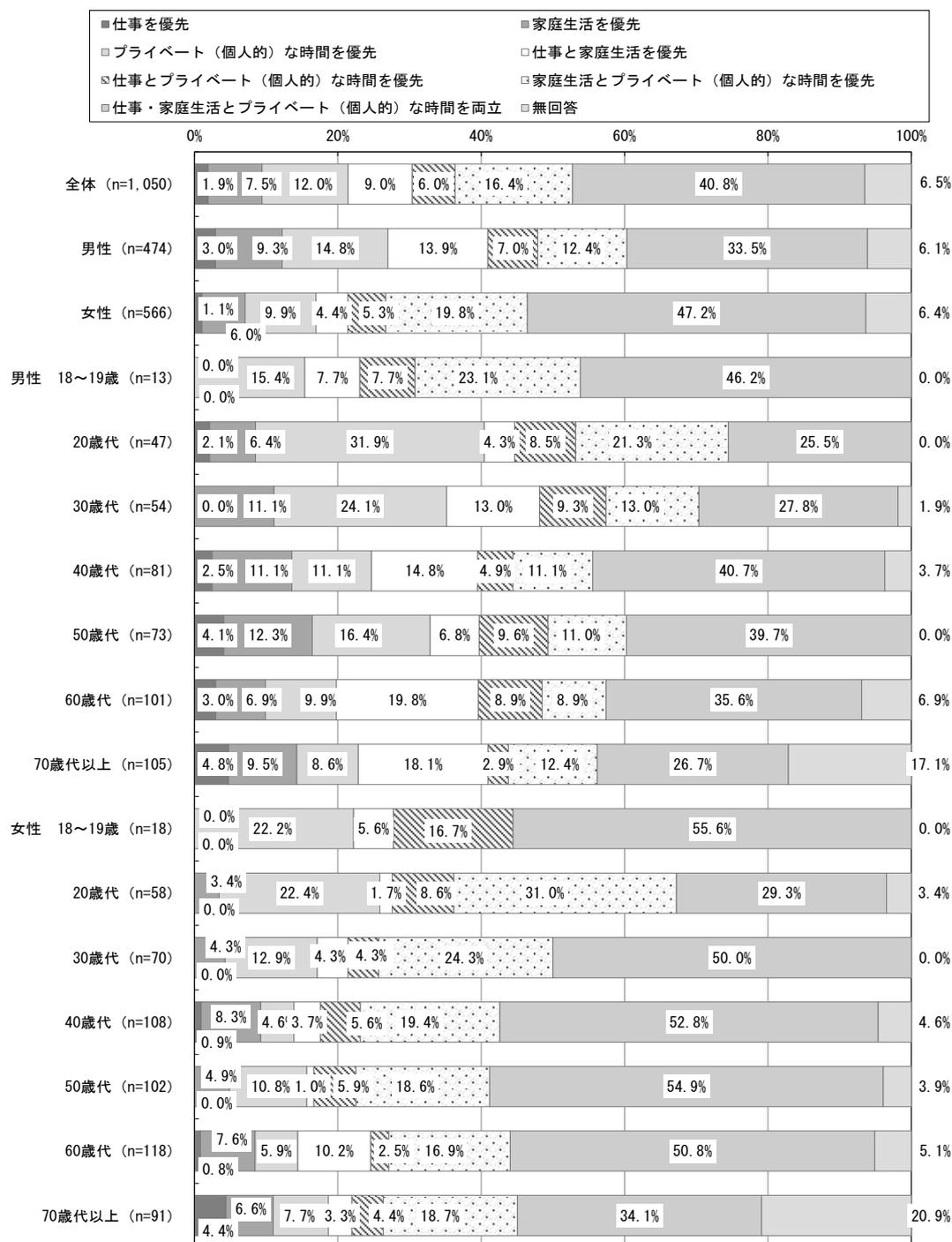


【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「理想」では、「仕事・家庭生活・プライベート（個人的）な時間を両立」という回答が減少しており、「家庭生活とプライベート（個人的）な時間を優先」という回答が増加しています。

「現実」では、「仕事を優先」という回答が減少し、「仕事と家庭生活を優先」という回答が増加しています。

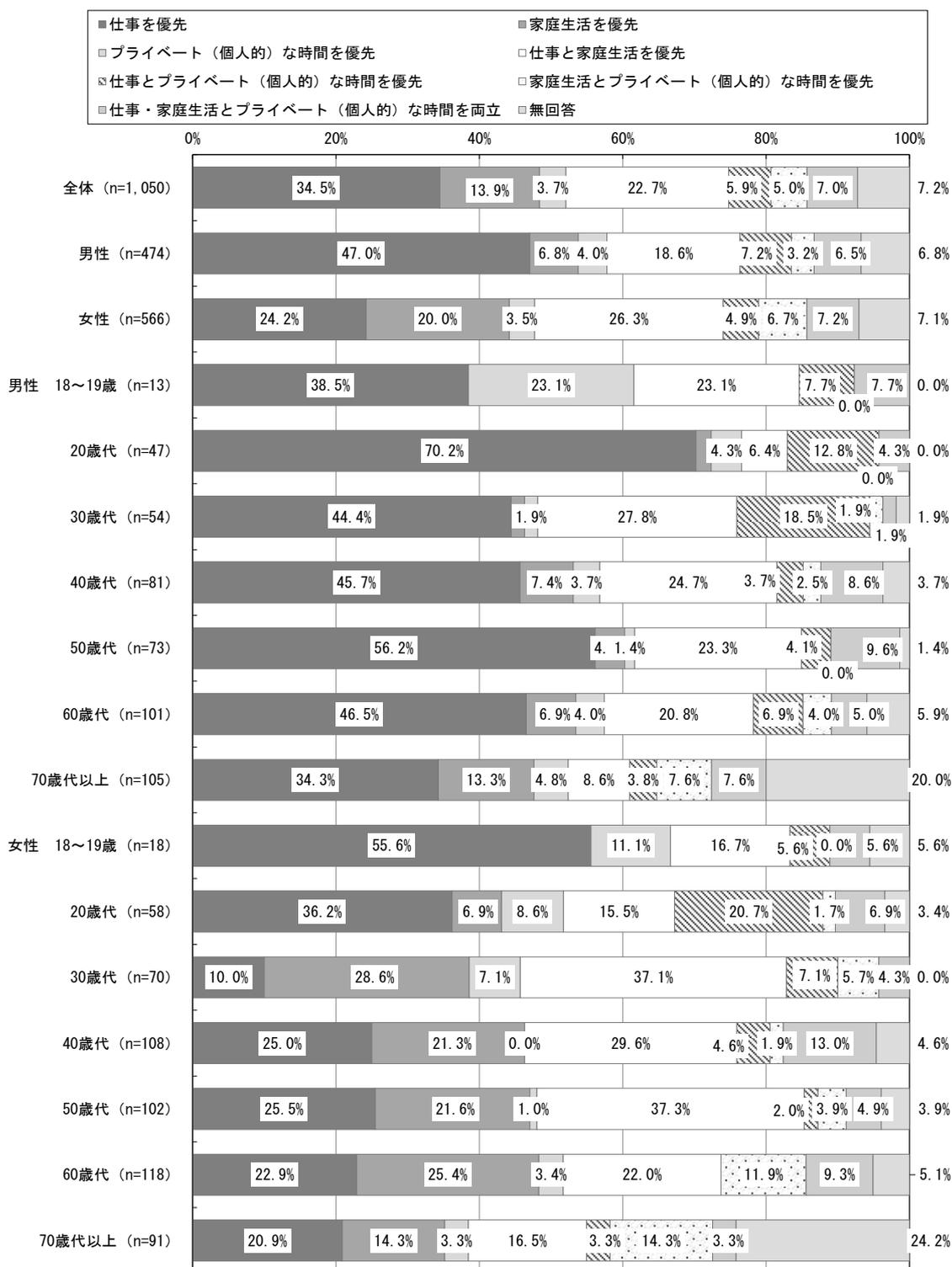
【理想：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は、「仕事と家庭生活を優先」という回答が女性より高く、女性は、「家庭生活とプライベート（個人的）な時間を優先」、「仕事・家庭生活とプライベート（個人的）な時間を両立」という回答が男性より高くなっています。

年代別でみると、男女ともに若年者は「プライベート（個人的）な時間を優先」という回答が高くなっており、年代が上がるに従い、「仕事・家庭生活とプライベート（個人的）な時間を両立」という回答が高くなっています。

【現実：男女別・年代別クロス表】

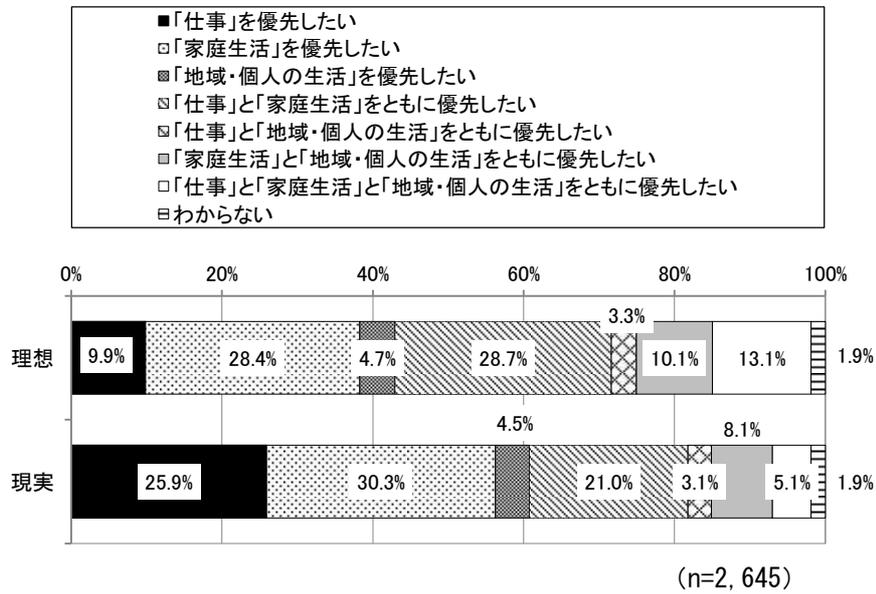


男女別では、男性は、「仕事を優先」の回答が女性より高く、女性は、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」という回答が男性より高くなっています。

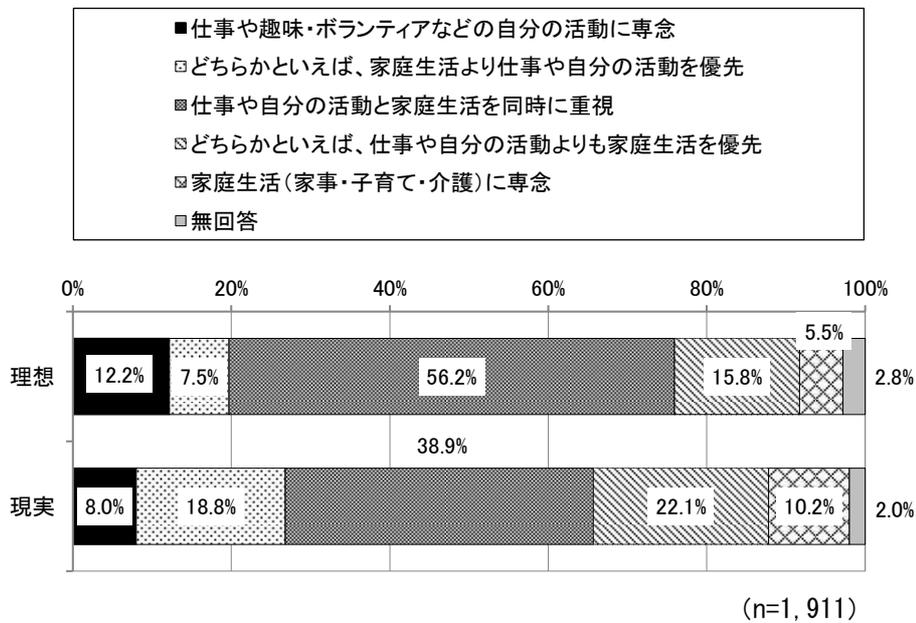
年代別でみると、男性はほぼ全ての年代で「仕事を優先」と「仕事と家庭生活を優先」という回答が高くなっています。一方、女性では、「仕事を優先」と「仕事と家庭生活を優先」と「家庭生活を優先」という回答が高くなっています。

【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年調査）



埼玉県：「男女共同参画に関する意識・実態調査」（平成 30 年調査）



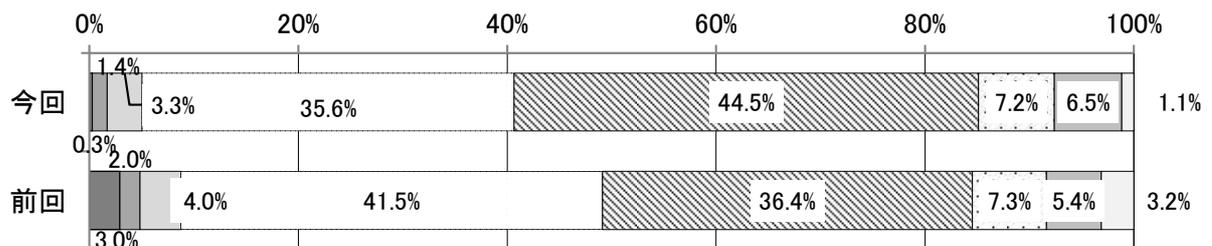
6 男女の就業・仕事について

(1) 女性の社会参加

問 15 あなたは女性が職業につくことについてどう思いますか。1つだけ選び○をつけてください。

「職業をもち続けたほうがよい」が 44.5%と最も高く、次いで「子どもができたらやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい」が 35.6%と高くなっています。

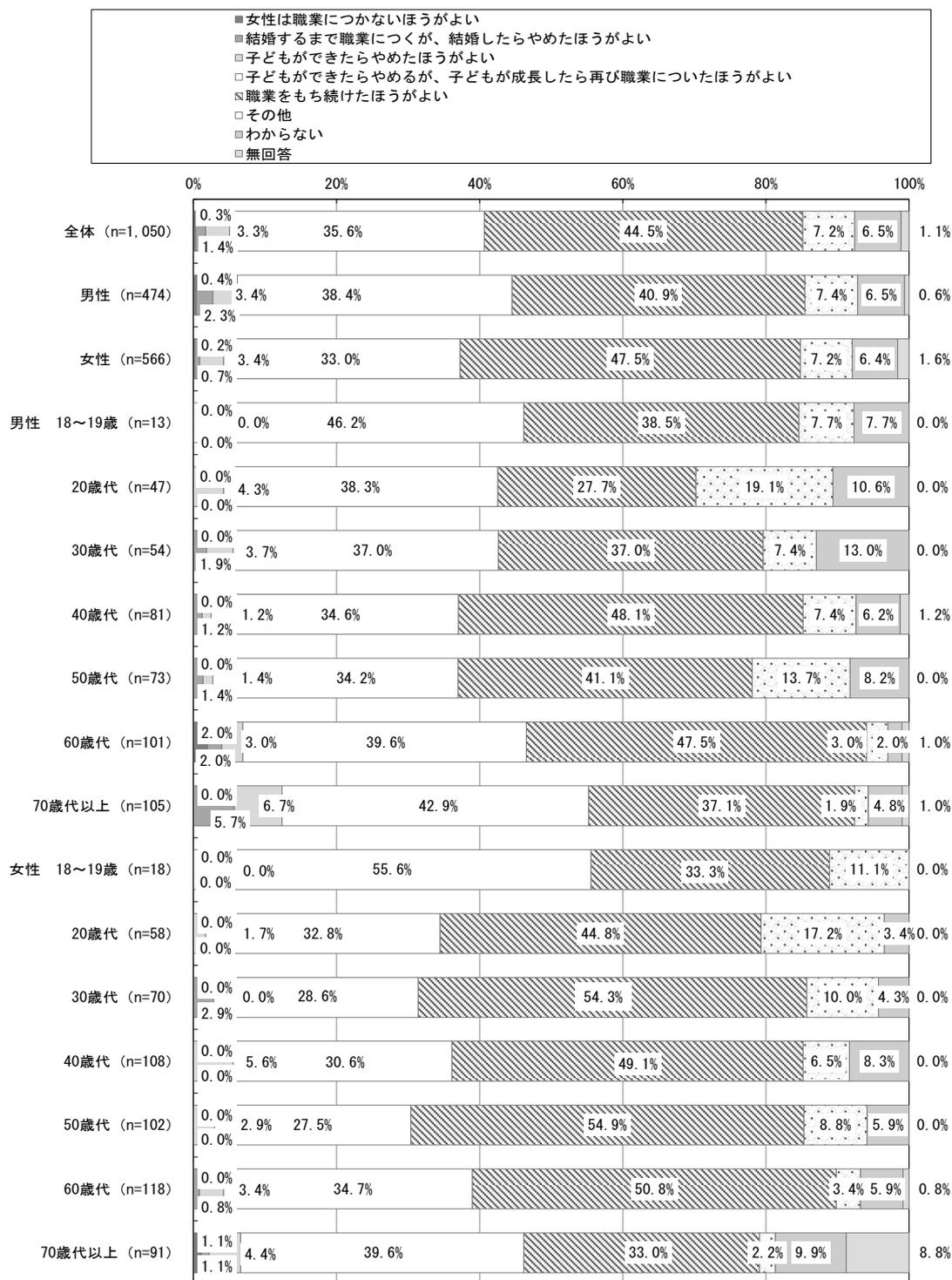
- 女性は職業につかないほうがよい
- 結婚するまで職業につくが、結婚したらやめたほうがよい
- 子どもができたらやめたほうがよい
- 子どもができたらやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい
- 職業をもち続けたほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「子どもができたらやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい」という回答が 5.9 ポイント減少しており、「職業をもち続けたほうがよい」という回答は 8.1 ポイント増加しています。

【女性が職業につくことについて：男女別・年代別クロス表】



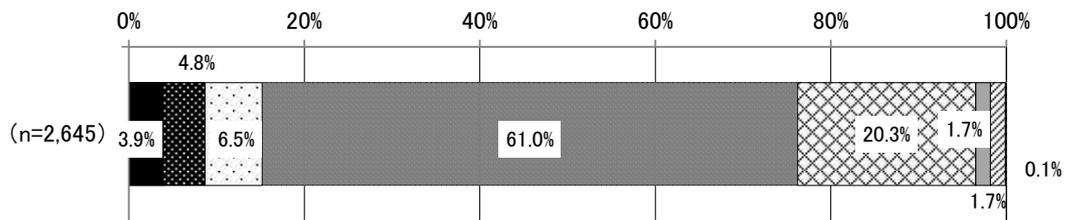
男女別では、大きな差はありませんが、女性は、「職業をもち続けたほうがよい」という回答が男性よりやや高くなっています。

年代別でみると、男女ともに、年代が上がるに従い「子どもができたらやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい」という回答が増加する傾向にあります。また、女性の50歳代、60歳代では、「職業をもち続けたほうがよい」という回答が5割を超えています。

【参考】

内閣府：「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年調査）

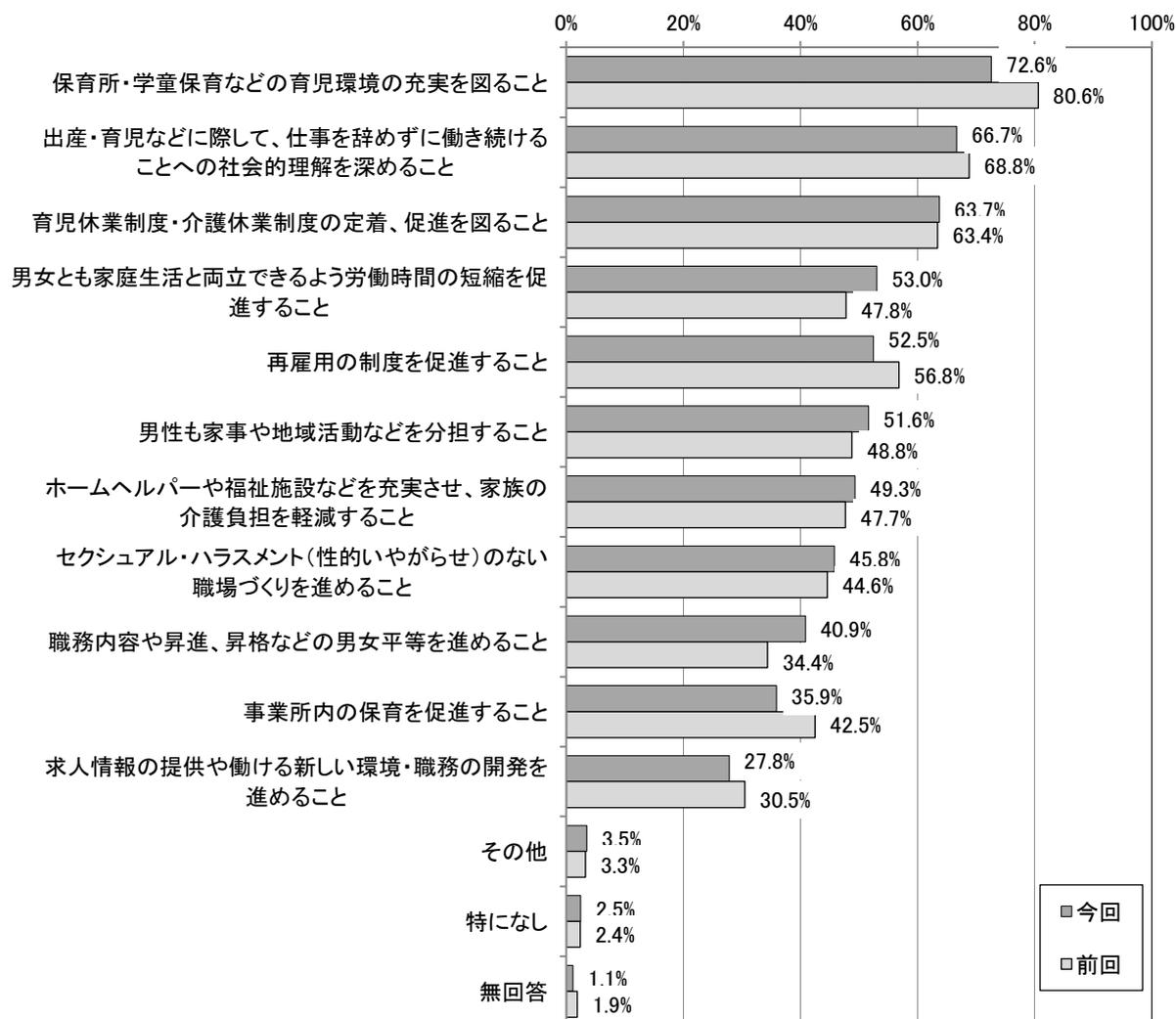
- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい
- ☒ 子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- ☒ わからない
- 無回答



(2) 働きやすい環境の構築

問 16 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」が72.6%と最も高く、次いで「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」が66.7%、「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」が63.7%となっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が8ポイント減少しています。上位の順位に変動はなく、育児への支援に関することが上位を占めていることがわかります。

【男女別・年代別クロス表】

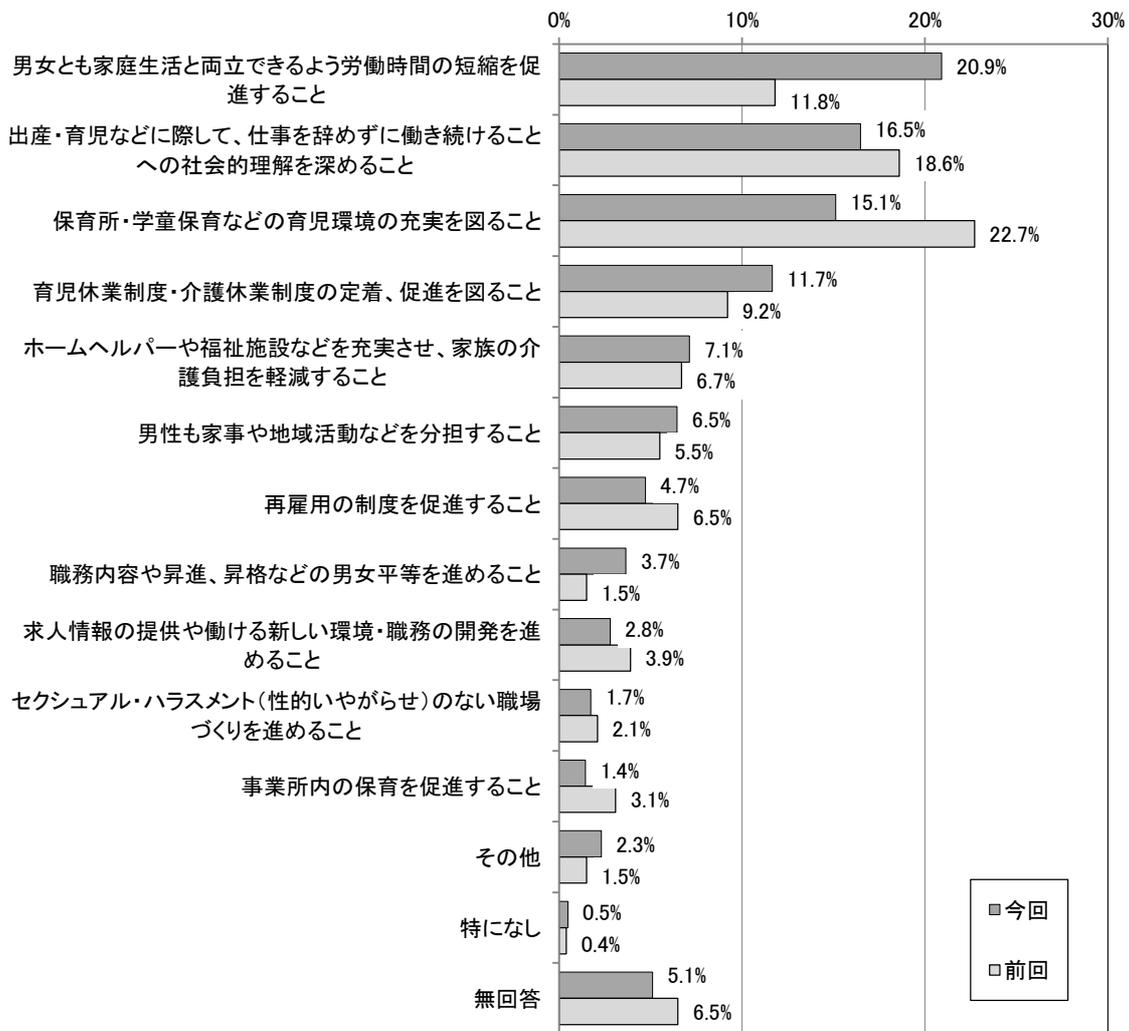
	回答者数	100.0% :1位		100.0% :2位		100.0% :3位		再雇用の制度を促進すること	求人情報の提供や働ける新しい環境・職務の開発を進めること	男性も家事や地域活動などを分担すること	その他	特になし	無回答		
		男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること	保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること	事業所内の保育を促進すること	育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること	出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること	ホームヘルパーや福祉施設などを充実に実させ、家族の介護負担を軽減すること							職務内容や昇進、昇格などの男女平等を進めること	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場づくりを進めること
全体	1,050	53.0%	72.6%	35.9%	63.7%	66.7%	49.3%	40.9%	45.8%	52.5%	27.8%	51.6%	3.5%	2.5%	1.1%
男性	474	51.3%	73.4%	33.3%	61.2%	63.9%	44.1%	40.5%	44.1%	53.8%	27.2%	40.1%	3.6%	3.0%	1.3%
女性	566	54.2%	72.4%	37.8%	66.1%	68.9%	53.7%	41.0%	46.6%	51.4%	28.3%	60.8%	3.5%	1.8%	1.1%
男性 18~19歳	13	30.8%	76.9%	38.5%	76.9%	61.5%	30.8%	53.8%	46.2%	30.8%	30.8%	61.5%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	47	72.3%	66.0%	36.2%	61.7%	61.7%	38.3%	40.4%	55.3%	44.7%	23.4%	53.2%	4.3%	0.0%	0.0%
30歳代	54	72.2%	68.5%	27.8%	57.4%	70.4%	29.6%	35.2%	40.7%	40.7%	20.4%	46.3%	5.6%	3.7%	0.0%
40歳代	81	49.4%	75.3%	38.3%	60.5%	59.3%	35.8%	40.7%	40.7%	50.6%	29.6%	40.7%	4.9%	4.9%	2.5%
50歳代	73	39.7%	76.7%	41.1%	56.2%	71.2%	43.8%	38.4%	39.7%	53.4%	24.7%	31.5%	2.7%	1.4%	0.0%
60歳代	101	50.5%	78.2%	25.7%	64.4%	69.3%	54.5%	42.6%	42.6%	68.3%	31.7%	38.6%	3.0%	2.0%	1.0%
70歳代以上	105	43.8%	70.5%	32.4%	61.9%	55.2%	52.4%	41.0%	47.6%	56.2%	27.6%	35.2%	2.9%	4.8%	2.9%
女性 18~19歳	18	38.9%	72.2%	27.8%	77.8%	72.2%	22.2%	66.7%	88.9%	38.9%	22.2%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%
20歳代	58	67.2%	77.6%	36.2%	69.0%	77.6%	34.5%	55.2%	58.6%	43.1%	20.7%	46.6%	5.2%	0.0%	0.0%
30歳代	70	71.4%	91.4%	42.9%	71.4%	84.3%	51.4%	50.0%	57.1%	52.9%	31.4%	74.3%	2.9%	0.0%	0.0%
40歳代	108	63.0%	67.6%	40.7%	64.8%	71.3%	50.9%	44.4%	41.7%	50.9%	33.3%	63.0%	4.6%	1.9%	0.0%
50歳代	102	44.1%	70.6%	35.3%	66.7%	62.7%	55.9%	33.3%	38.2%	58.8%	22.5%	52.9%	5.9%	2.0%	0.0%
60歳代	118	50.0%	72.0%	39.8%	66.1%	66.9%	64.4%	34.7%	48.3%	52.5%	32.2%	60.2%	0.8%	2.5%	0.0%
70歳代以上	91	41.8%	63.7%	34.1%	58.2%	58.2%	60.4%	33.0%	35.2%	49.5%	27.5%	64.8%	0.0%	3.3%	6.6%

男女別では、男女ともに、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が最も高く、次いで「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」となっています。

年代別でみると、男性の20歳代と30歳代で、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」という回答が最も高くなっています。また、男性の60歳代以上では、「再雇用の制度を促進すること」という回答が第3位となっています。女性では、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」、「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」という回答が上位を占めていますが、70歳代以上では、「男性も家事や地域活動などを分担すること」という回答が最も高くなっています。

問 17 問 16 で○をつけた中で、あなたがもっとも重要だと思うことを1つだけ選び、番号を記入してください。

「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」が20.9%と最も高く、次いで「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」が16.5%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」という回答が7.6ポイント減少し、一方で、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」という回答が9.1ポイント増加し、今回では最も高くなっています。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0%													
		:1位	:2位	:3位											
		男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること	保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること	事業所内の保育を促進すること	育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること	出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること	ホームヘルパーや福祉施設などを充実させ、家族の介護負担を軽減すること	職務内容や昇進、異格などの男女平等を進めること	セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらない職場づくりを進めること)	再雇用の制度を促進すること	求人情報の提供や働ける新しい環境・職務の開発を進めること	男性も家事や地域活動などを分担すること	その他	特になし	無回答
全体	1,050	20.9%	15.1%	1.4%	11.7%	16.5%	7.1%	3.7%	1.7%	4.7%	2.8%	6.5%	2.3%	0.5%	5.1%
男性	474	22.6%	19.9%	1.5%	11.5%	16.9%	5.1%	3.6%	2.1%	4.7%	1.9%	1.9%	2.4%	0.6%	5.1%
女性	566	19.5%	11.4%	1.4%	12.0%	16.3%	8.6%	3.8%	1.3%	4.6%	3.6%	10.2%	2.3%	0.4%	4.8%
男性 18～19歳	13	15.4%	15.4%	7.7%	7.7%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	47	34.0%	10.6%	0.0%	14.9%	14.9%	6.4%	2.1%	6.4%	0.0%	2.1%	6.4%	2.1%	0.0%	0.0%
30歳代	54	33.3%	22.2%	1.9%	7.4%	13.0%	0.0%	5.6%	0.0%	3.7%	1.9%	1.9%	1.9%	3.7%	3.7%
40歳代	81	26.6%	24.1%	3.8%	8.9%	11.4%	0.0%	6.3%	1.3%	5.1%	2.5%	2.5%	1.3%	1.3%	5.1%
50歳代	73	20.5%	17.8%	2.7%	12.3%	20.5%	4.1%	4.1%	5.5%	4.1%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%
60歳代	101	18.0%	25.0%	0.0%	12.0%	17.0%	6.0%	2.0%	2.0%	8.0%	3.0%	0.0%	2.0%	0.0%	5.0%
70歳代以上	105	15.7%	16.7%	0.0%	13.7%	17.6%	11.8%	2.9%	0.0%	4.9%	2.0%	2.0%	2.9%	0.0%	9.8%
女性 18～19歳	18	11.1%	16.7%	0.0%	16.7%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	5.6%	11.1%	0.0%	5.6%
20歳代	58	24.1%	17.2%	0.0%	13.8%	13.8%	0.0%	8.6%	0.0%	1.7%	1.7%	12.1%	5.2%	0.0%	1.7%
30歳代	70	25.7%	12.9%	1.4%	4.3%	27.1%	0.0%	5.7%	2.9%	0.0%	2.9%	14.3%	2.9%	0.0%	0.0%
40歳代	108	28.7%	8.3%	0.9%	13.0%	16.7%	3.7%	2.8%	0.0%	3.7%	4.6%	13.9%	0.9%	0.9%	1.9%
50歳代	102	16.7%	7.8%	2.0%	11.8%	15.7%	7.8%	3.9%	3.9%	8.8%	3.9%	10.8%	3.9%	1.0%	2.0%
60歳代	118	13.6%	11.9%	0.0%	13.6%	16.1%	18.6%	1.7%	0.0%	5.1%	4.2%	5.9%	0.8%	0.0%	8.5%
70歳代以上	91	12.9%	12.9%	4.7%	12.9%	10.6%	16.5%	1.2%	0.0%	4.7%	3.5%	7.1%	0.0%	0.0%	12.9%

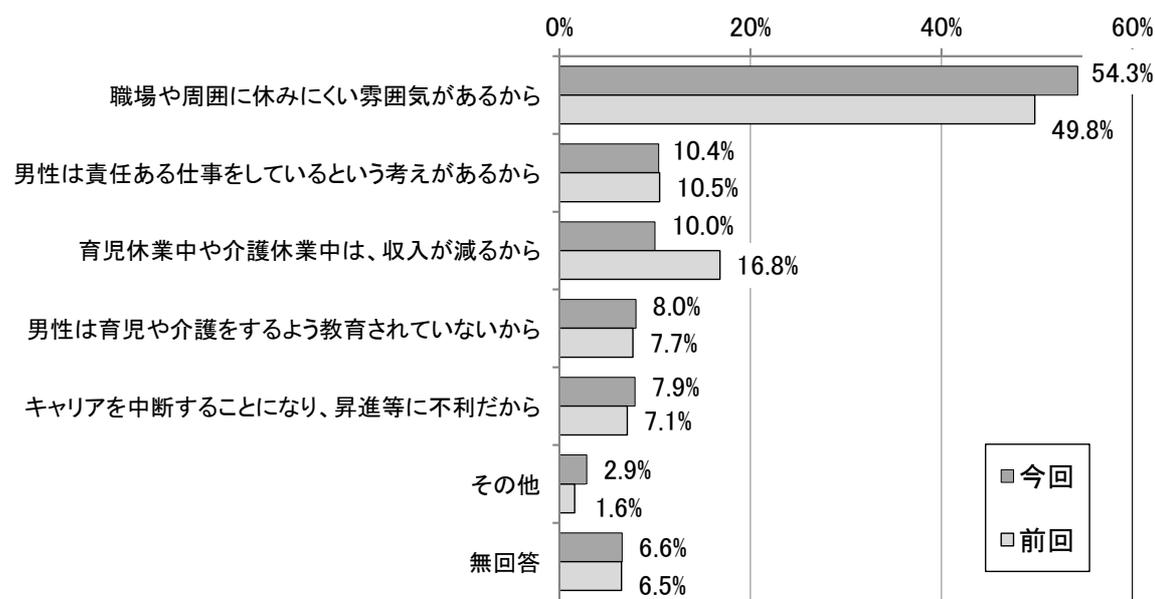
男女別では、男女ともに、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」という回答が最も高くなっていますが、男性では、第2位に「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」、女性は「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」となっています。

年代別でみると、男女ともに、「男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること」、「保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること」、「育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること」、「出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること」という回答が高くなっていますが、女性の60歳代以上では、「ホームヘルパーや福祉施設などを充実させ、家族の介護負担を軽減すること」という回答が最も高くなっています。

(3) 男性の育児休業・介護休業について

問 18 男性の育児休業・介護休業の取得はきわめて少ない状況ですが、その理由は何だと思えますか。1つだけ選び○をつけてください。

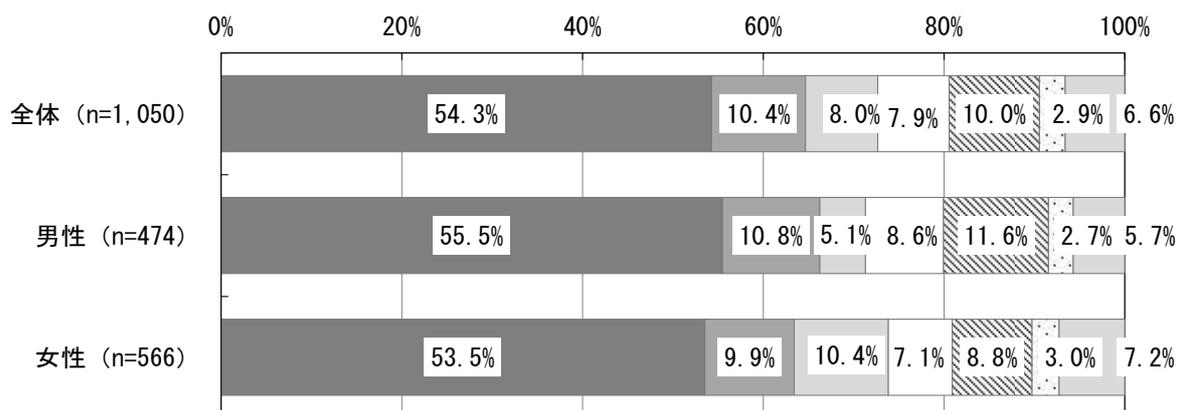
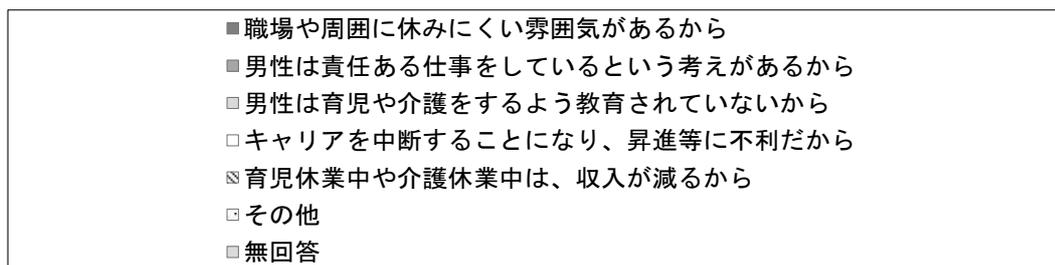
「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が 54.3%と最も高く、次いで「男性は責任ある仕事をしているという考えがあるから」が 10.4%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、前回と同様に「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」という回答が最も高くなっており、4.5ポイント増加しています。一方「育児休業中や介護休業中は、収入が減るから」という回答は6.8ポイント減少しています。

【男女別クロス表】



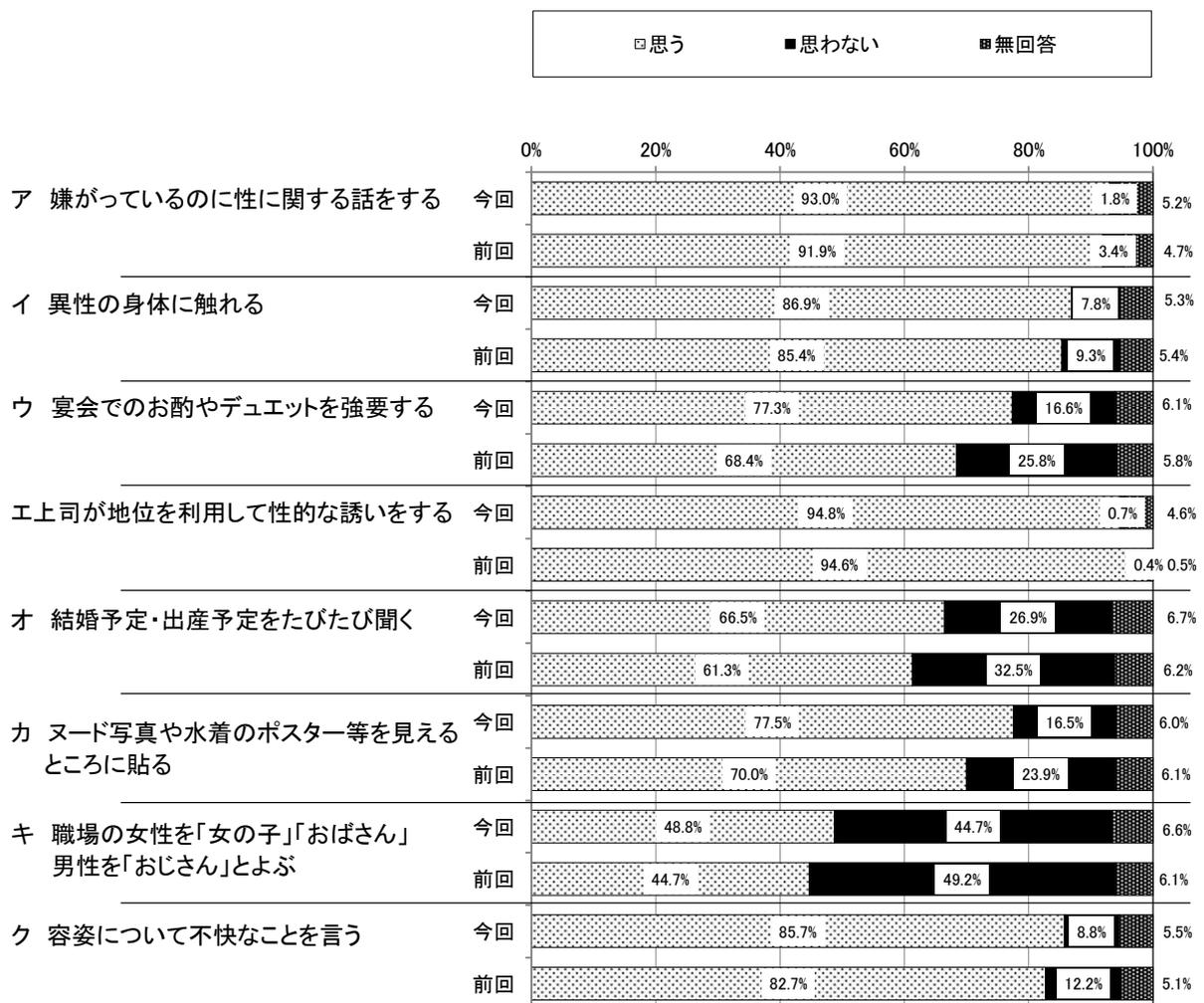
男女別では、性別による回答に大きな差はありませんが、男性は「育児休業中や介護休業中は、収入が減るから」という回答が女性より高く、女性は「男性は育児や介護をするよう教育されていないから」という回答が男性より高くなっています。

7 人権・DV（ドメスティック・バイオレンス）について

（1）セクシュアル・ハラスメントの認知度

問 19 あなたは次のようなことをセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）だと思いませんか。「どちらかと言えば思う（思わない）」を含めて、あてはまる番号を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

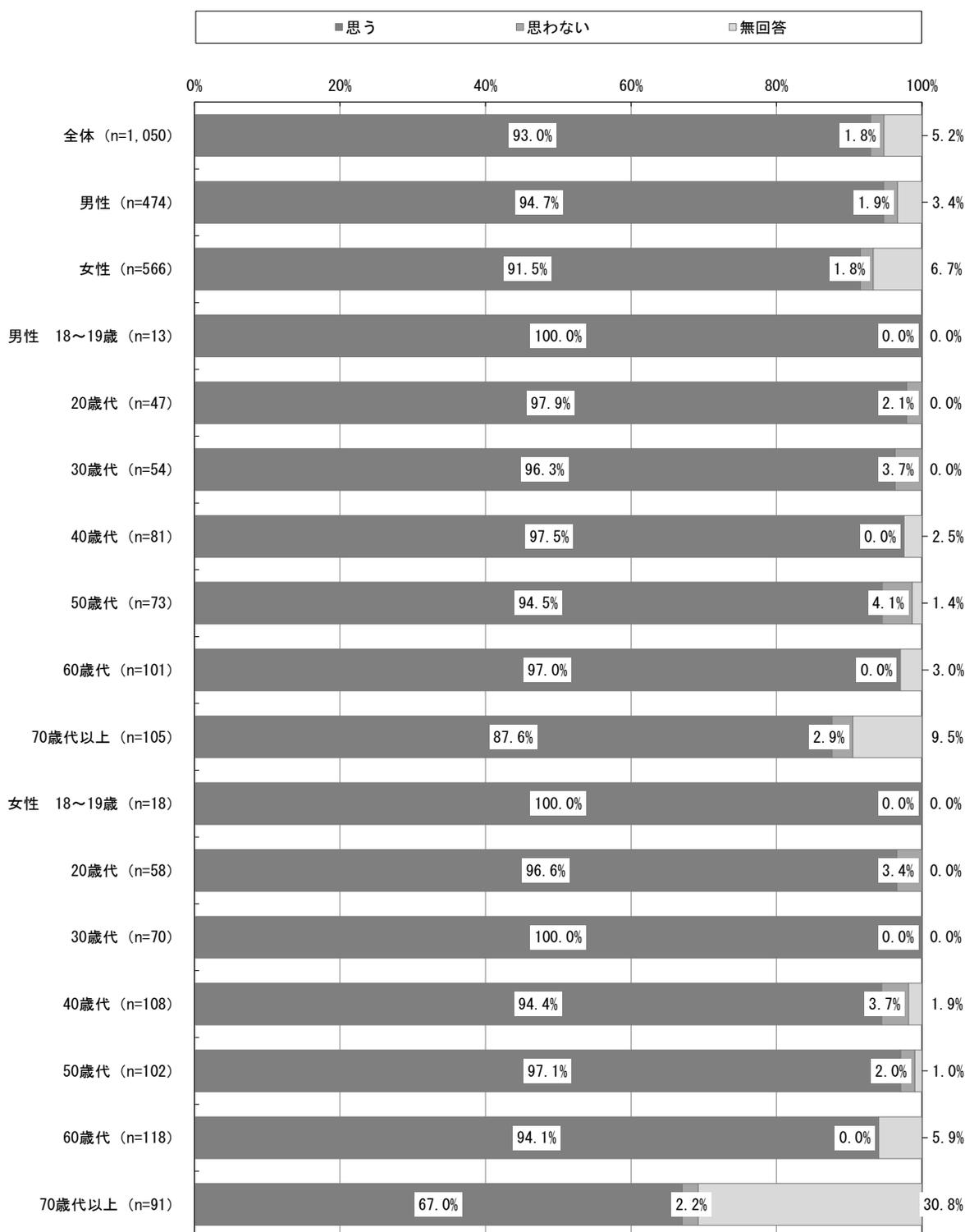
セクシュアル・ハラスメントの認知度については、「上司が地位を利用して性的な誘いをする」が94.8%、「嫌がっているのに性に関する話をする」が93.0%、「異性の身体に触れる」が86.9%と高い認知度となっています。反対に、「職場の女性を「女の子」「おばさん」男性を「おじさん」とよぶ」では48.8%と認知度が回答者の半数を下回っており、低い認知度となっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「上司が地位を利用して性的な誘いをする」、「嫌がっているのに性に関する話をする」、「異性の身体に触れる」で高い認知度となっていることに変化はありませんでした。「職場の女性を「女の子」「おばさん」男性を「おじさん」とよぶ」では前回より4.1ポイント増加していますが認知度は最も低くなっています。

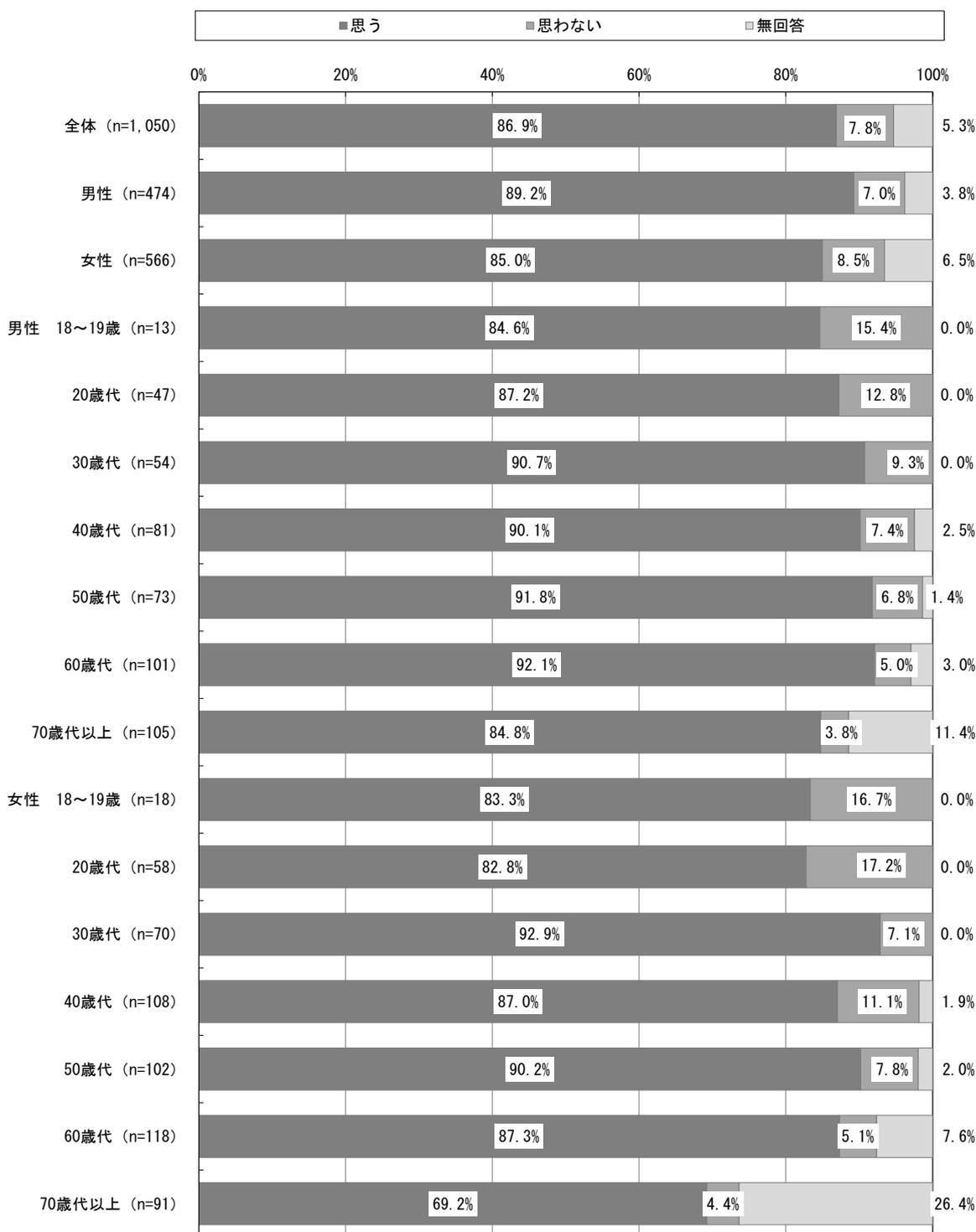
【ア 嫌がっているのに性に関する話をする：男女別・年代別クロス表】



男女別ともに、「思う」という回答が9割以上となっています。

年代別でみると、男女ともに60歳代までは、「思う」という回答が9割以上となっていますが、70歳代では、やや減少しています。

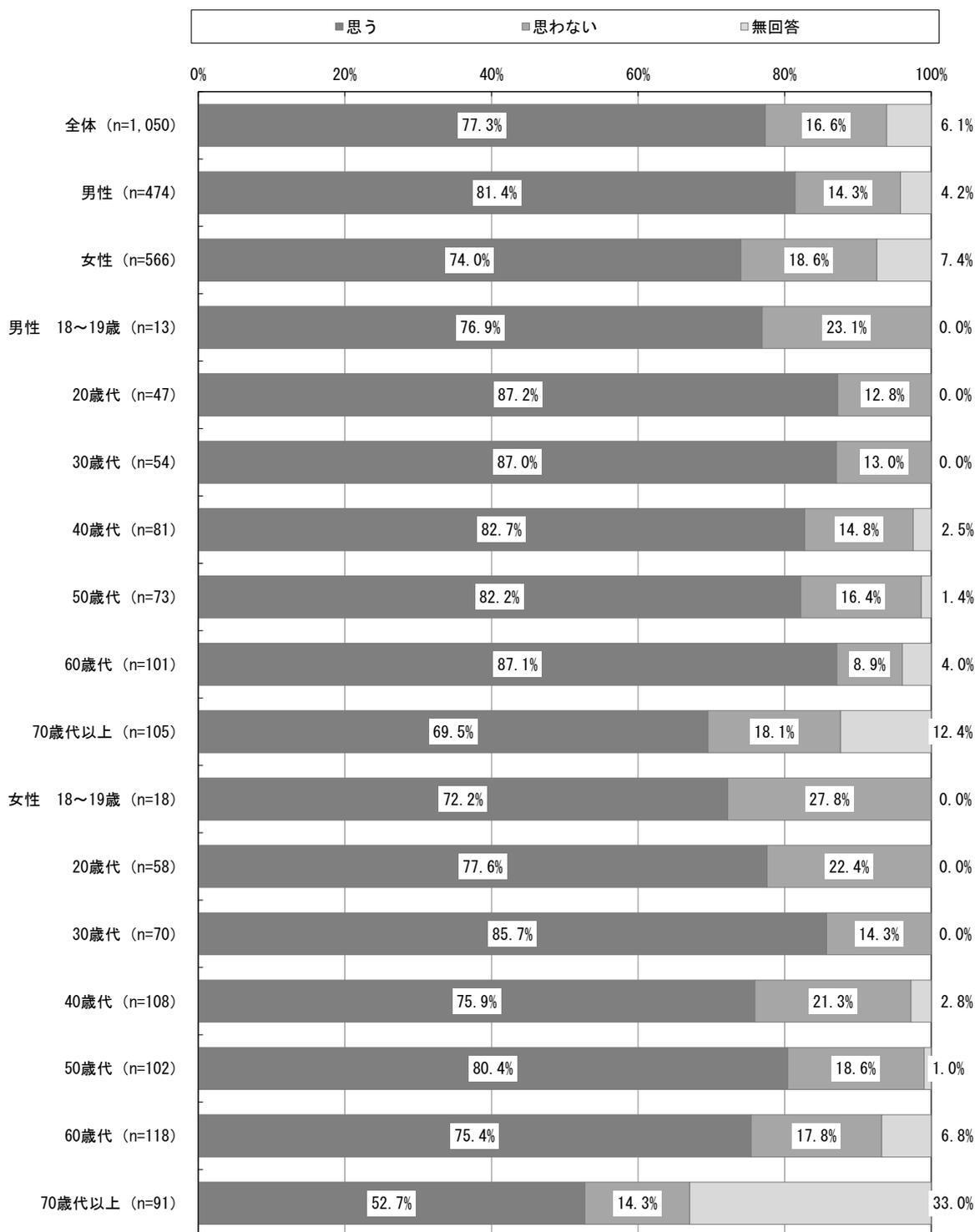
【イ 異性の身体に触れる：男女別・年代別クロス表】



男女別ともに概ね「思う」という回答が8割以上となっています。

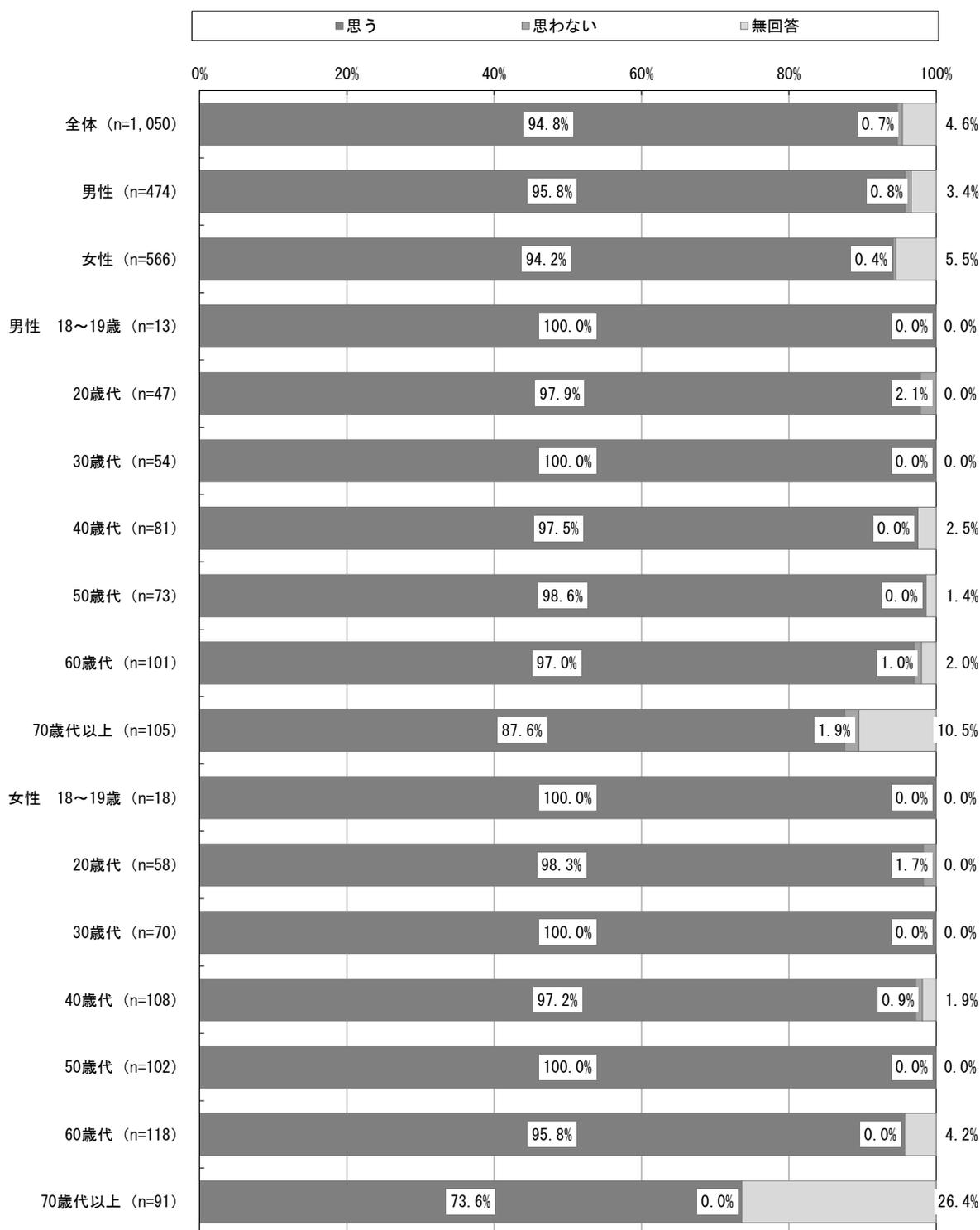
年代別でみると、男女ともに、20歳代以下と70歳代以上では「思う」という回答が他の年代よりやや減少しています。

【ウ 宴会でのお酌やデュエットを強要する：男女別・年代別クロス表】



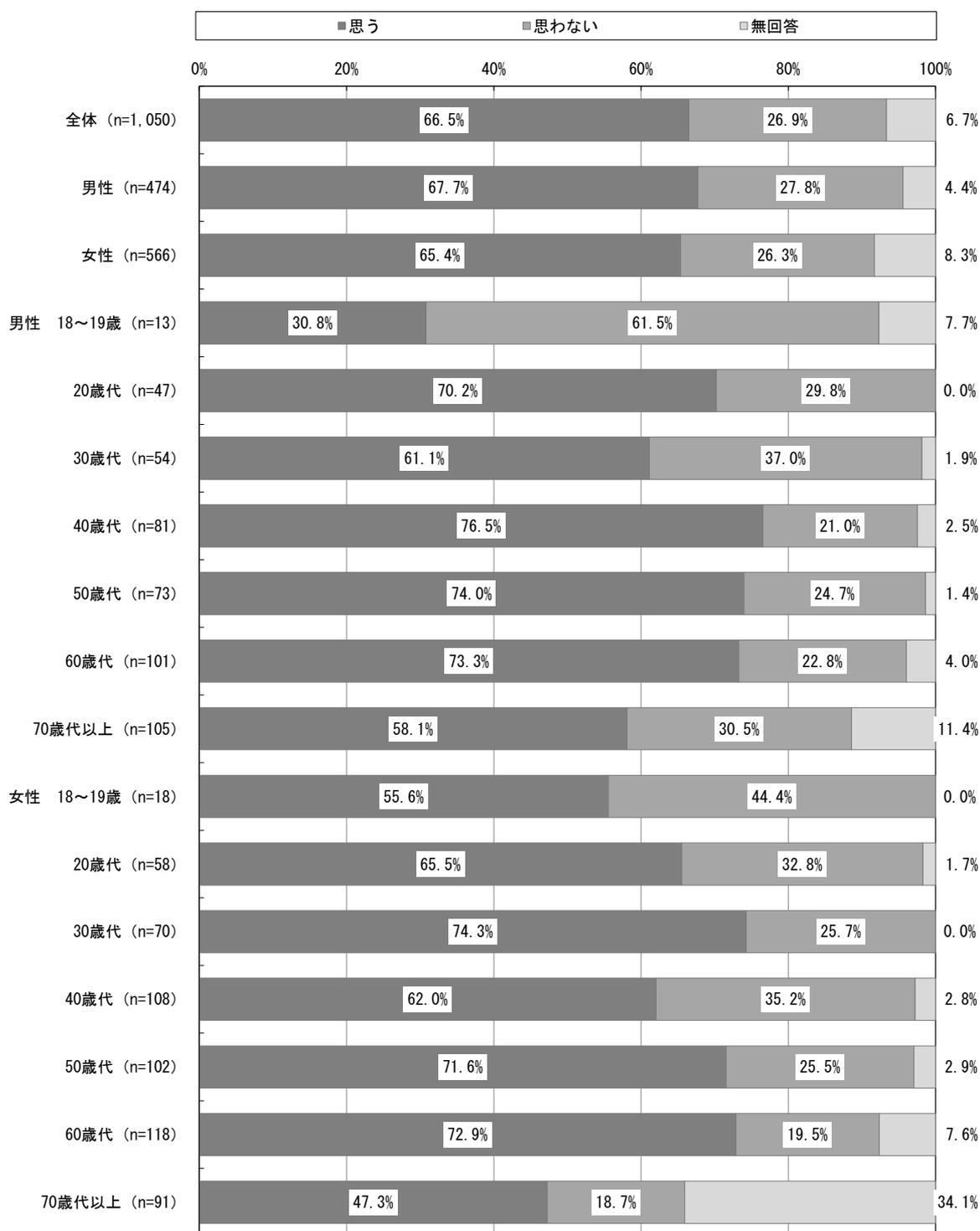
男女別では、男性は「思う」という回答が女性よりもやや高くなっています。年代別でみると、男性は18～19歳と70歳代以上の男性を除いて、「思う」という回答が8割を超えているのに対し、女性では30歳代と50歳代を除いて、「思う」という回答は7割以下と低くなっています。

【エ 上司が地位を利用して性的な誘いをする：男女別・年代別クロス表】



男女別及び年代別ともに、70歳代以上を除いて、「思う」という回答が9割以上となっています。また、18～19歳と30歳代の男女、及び50歳代の女性の回答では「思う」が100%となっています。

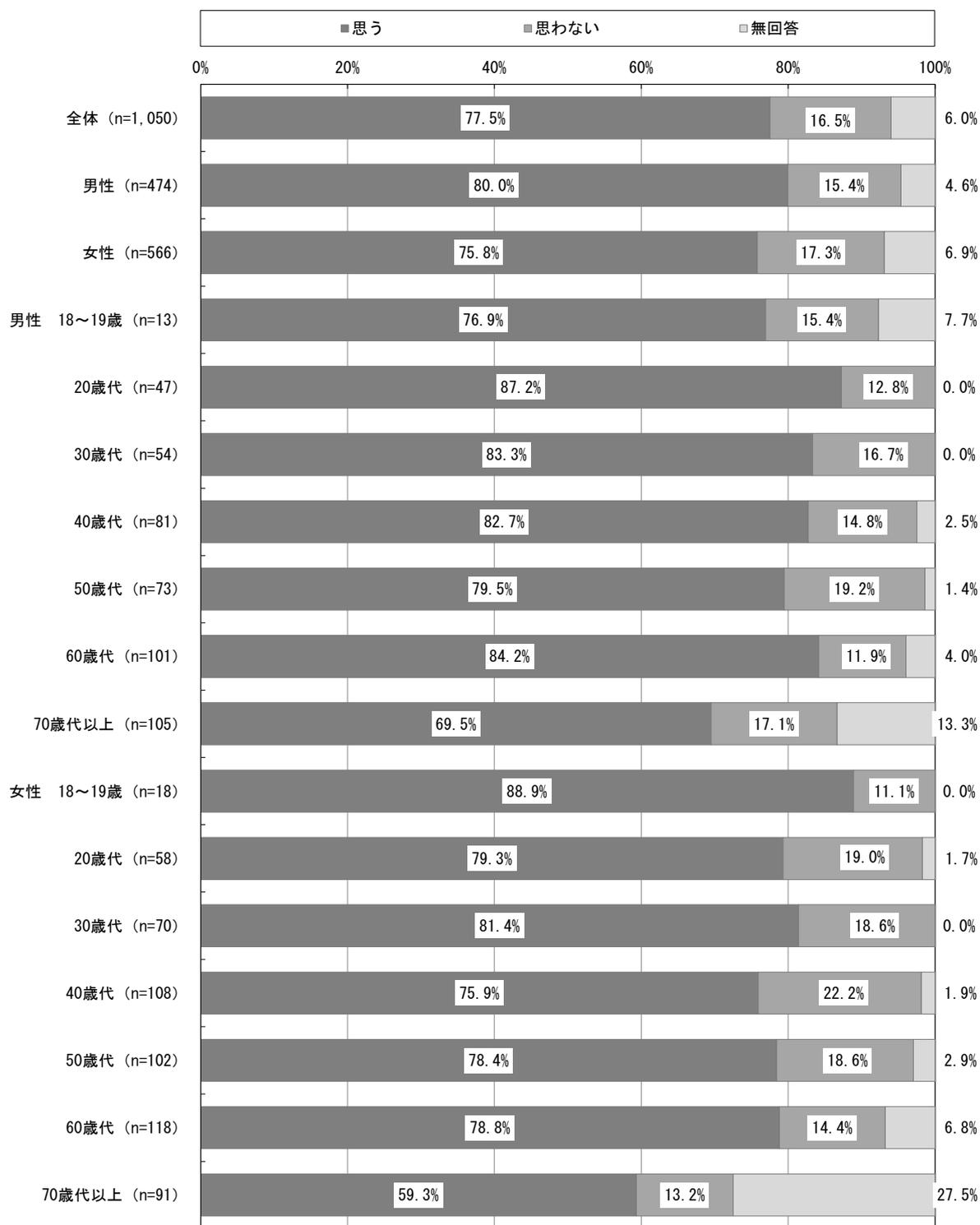
【オ 結婚予定・出産予定をたびたび聞く：男女別・年代別クロス表】



男女別では、大きな差はみられませんでした。

年代別で見ると、男女ともに年代が上がるに従い「思う」という回答が増加する傾向があります。なお、男性の30歳代以下、女性の40歳代以下では「思わない」という回答が3割強となっています。

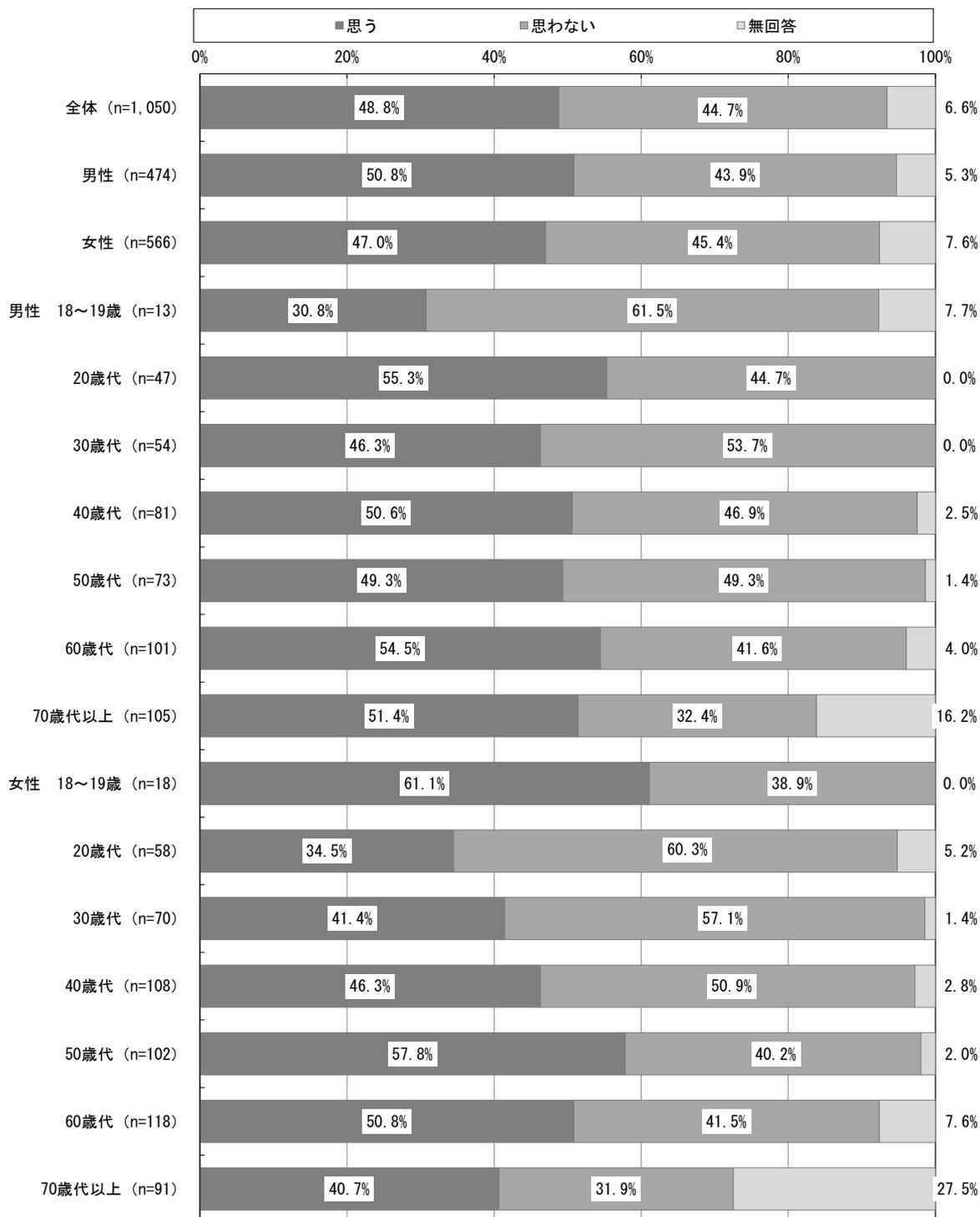
【カ ノード写真や水着のポスター等を見えるところに貼る：男女別・年代別クロス表】



男女別では、大きな差はみられませんが、男性の方が「思う」という回答が女性よりやや多くなっています。

年代別でみると、男女ともに年代が上がるに従い「思う」という回答がやや減少する傾向にあります。

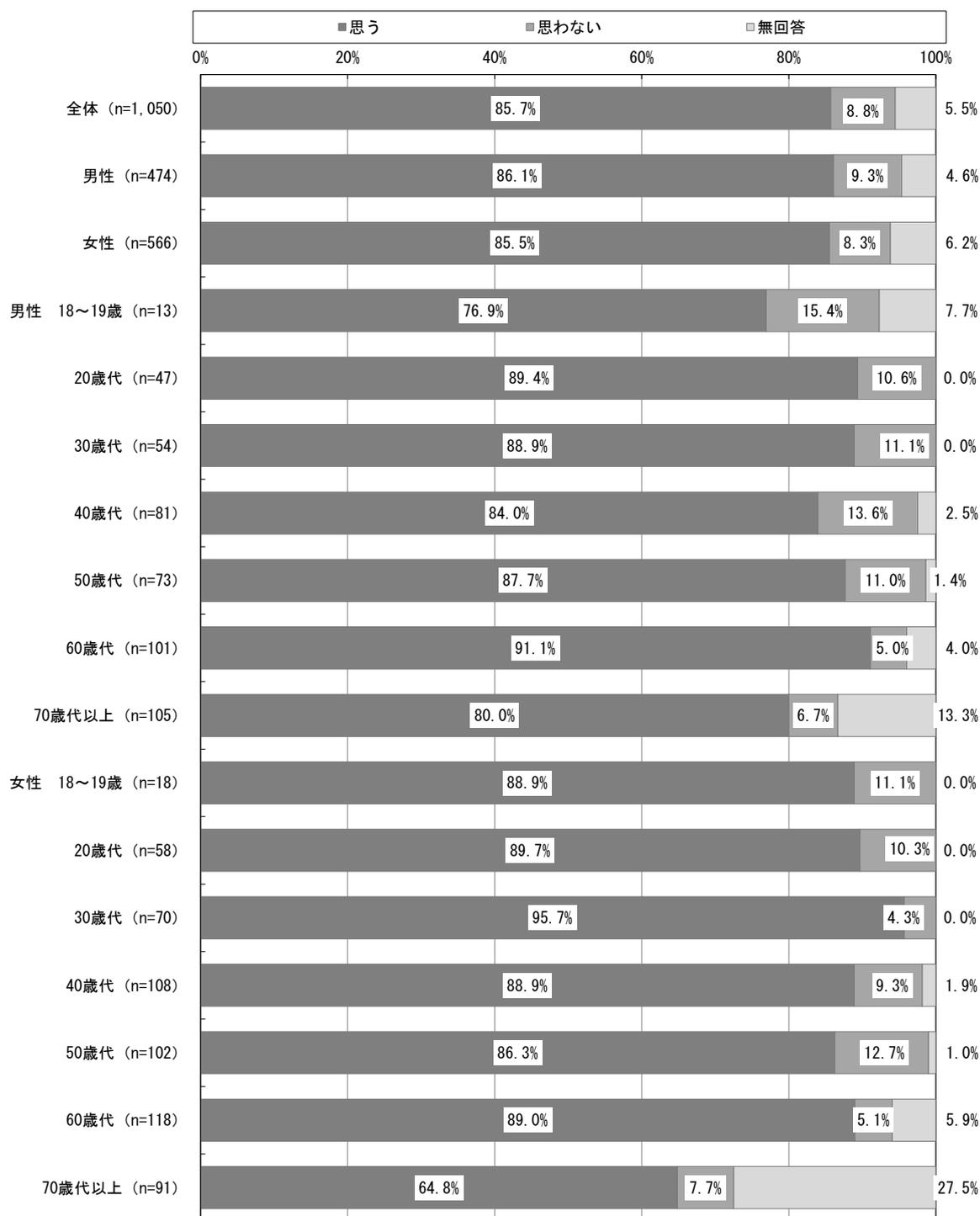
【キ 職場の女性を「女の子」「おばさん」男性を「おじさん」とよぶ：男女別・年代別クロス表】



男女別では、大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに年代が上がるに従い「思う」という回答が増加する傾向がありますが、男性の18~19歳と女性の20歳代では、「思わない」という回答が約6割となっています。

【ク 容姿について不快なことを言う：男女別・年代別クロス表】



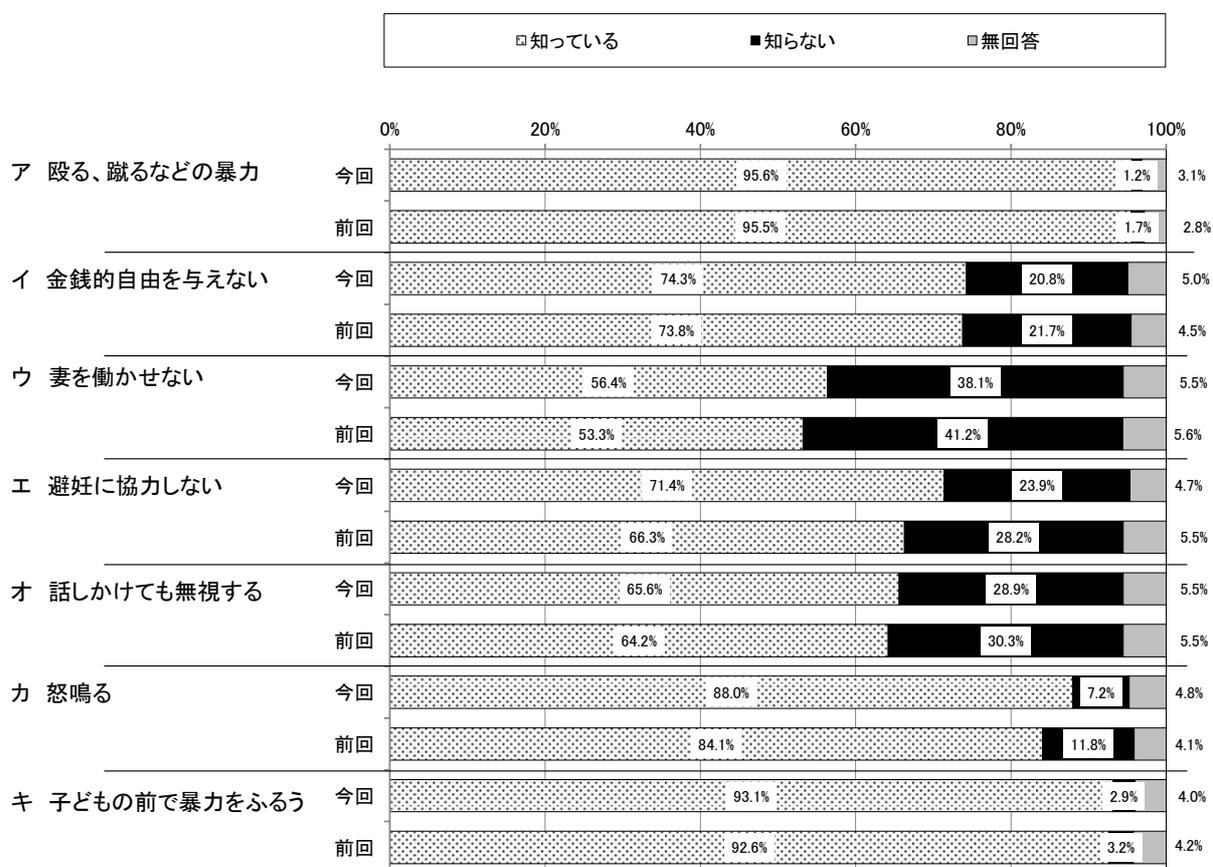
男女別では、大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに60歳代までは「思う」という回答が8割を超えていますが、女性の70歳代以上では約6割と低くなっています。

(2) ドメスティック・バイオレンスの認知度

問 20 あなたは次のようなことが、DV（ドメスティック・バイオレンス）と知っていますか。あてはまる番号を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

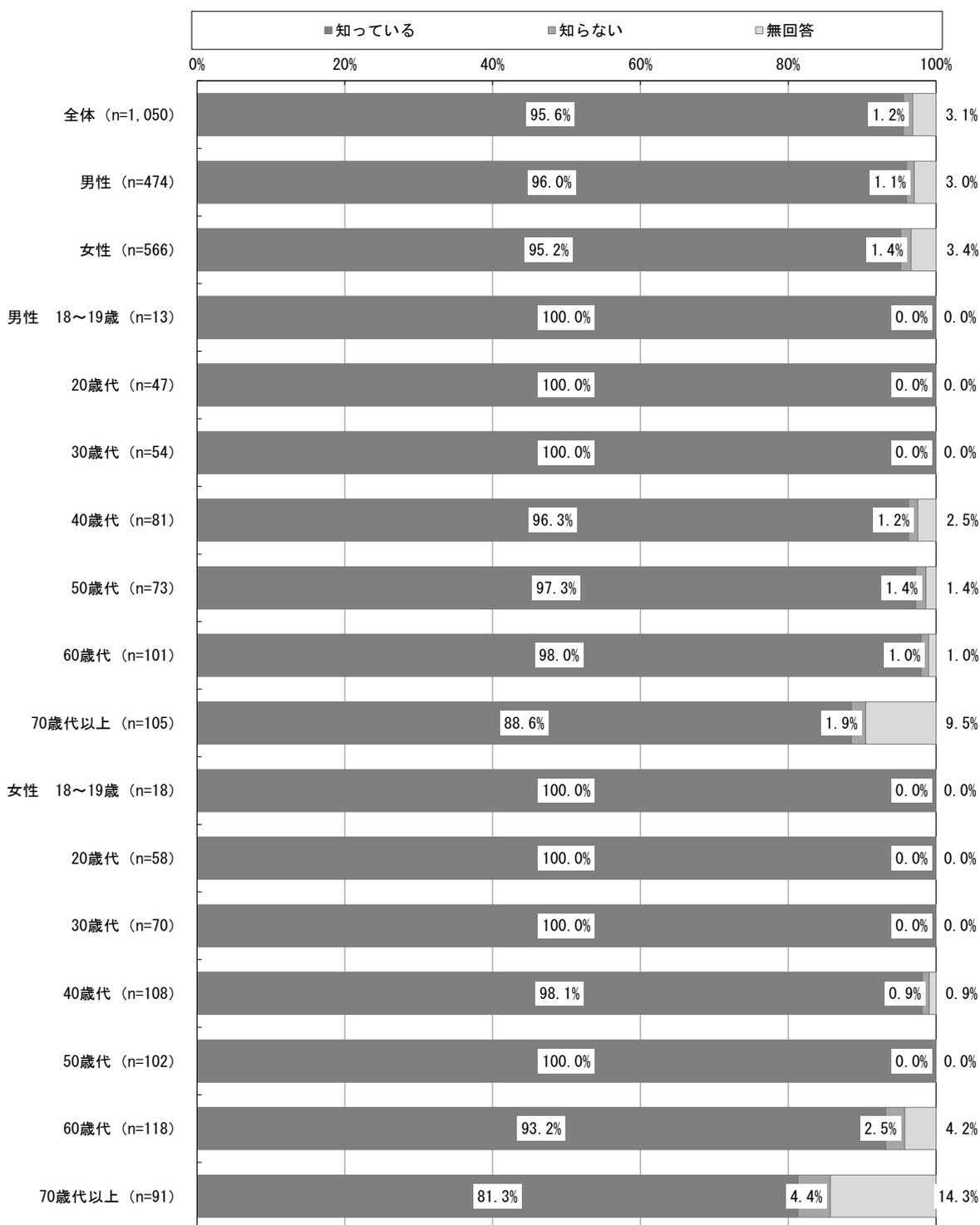
ドメスティック・バイオレンス（以下、「DV」）の行為についての認知度では、「殴る、蹴るなどの暴力」が95.6%、「子どもの前で暴力をふるう」93.1%、「怒鳴る」88.0%は8割以上の認知度となっています。一方で、「妻を働かせない」は56.4%、「話しかけても無視する」は65.6%と認知度が7割を下回っています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

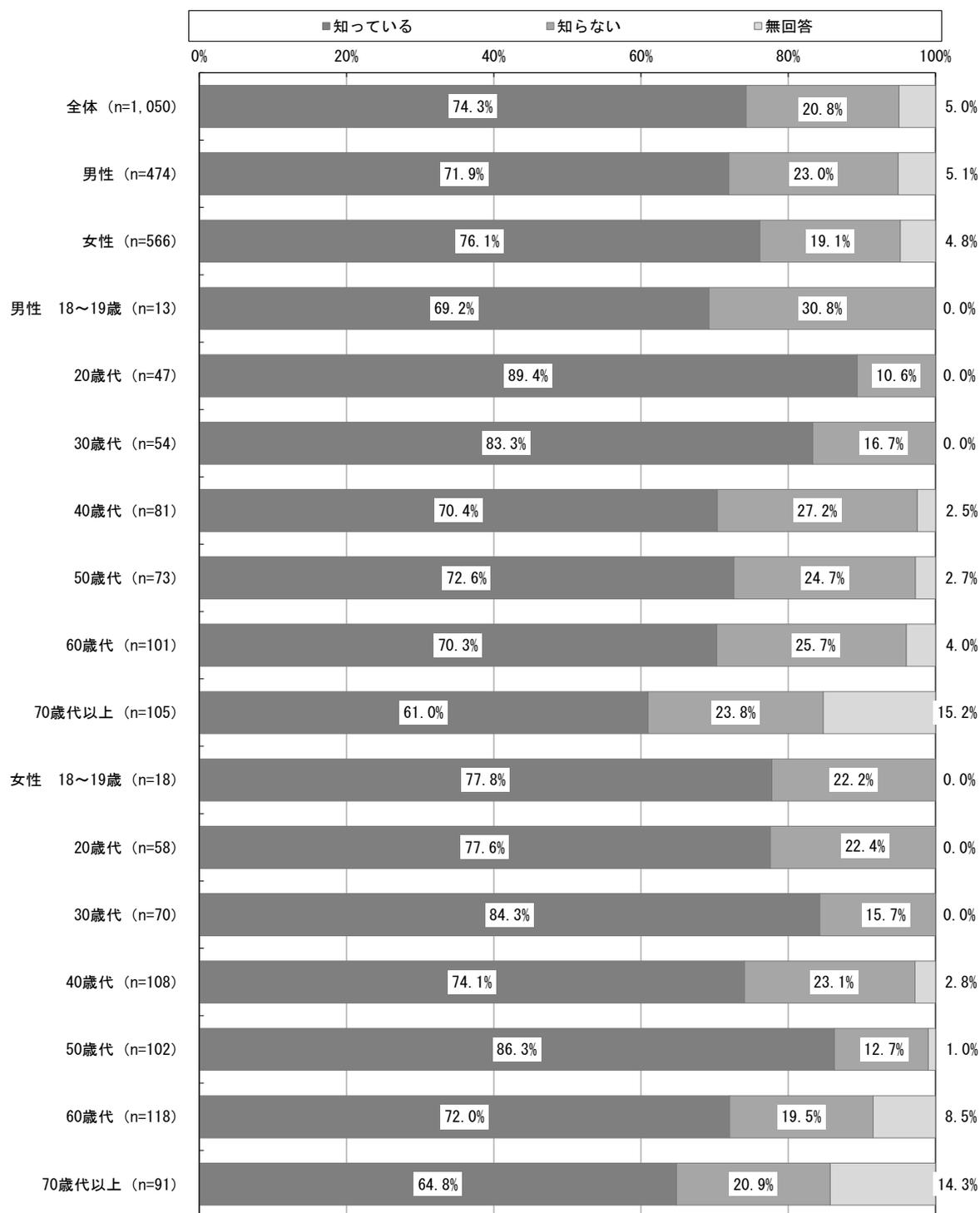
前回との比較では、「殴る、蹴るなどの暴力」や「子どもの前で暴力をふるう」、「怒鳴る」などで8～9割以上の認知度となっていることに変化はありませんでした。「避妊に協力しない」が前回より5.1ポイント増加しています。

【ア 殴る、蹴るなどの暴力：男女別・年代別クロス表】



男女別及び年代別ともに、70歳代以上を除いて、「知っている」という回答が9割以上となっています。また、18～19歳と20歳～30歳代の男女、及び50歳代の女性の回答では「知っている」という回答が100%となっています。

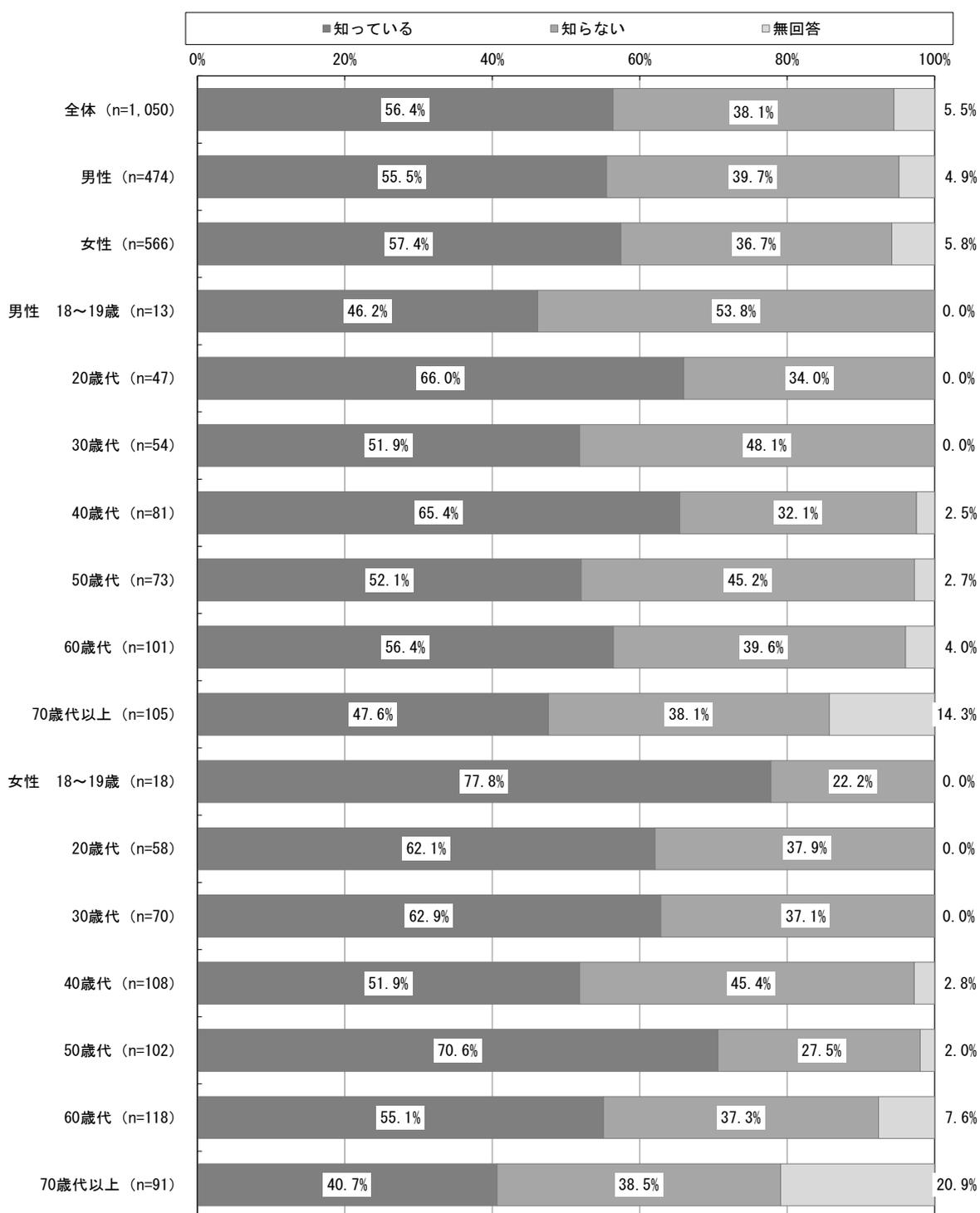
【イ 金銭的自由を与えない：男女別・年代別クロス表】



男女別では大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知っている」という回答が減少する傾向があります。

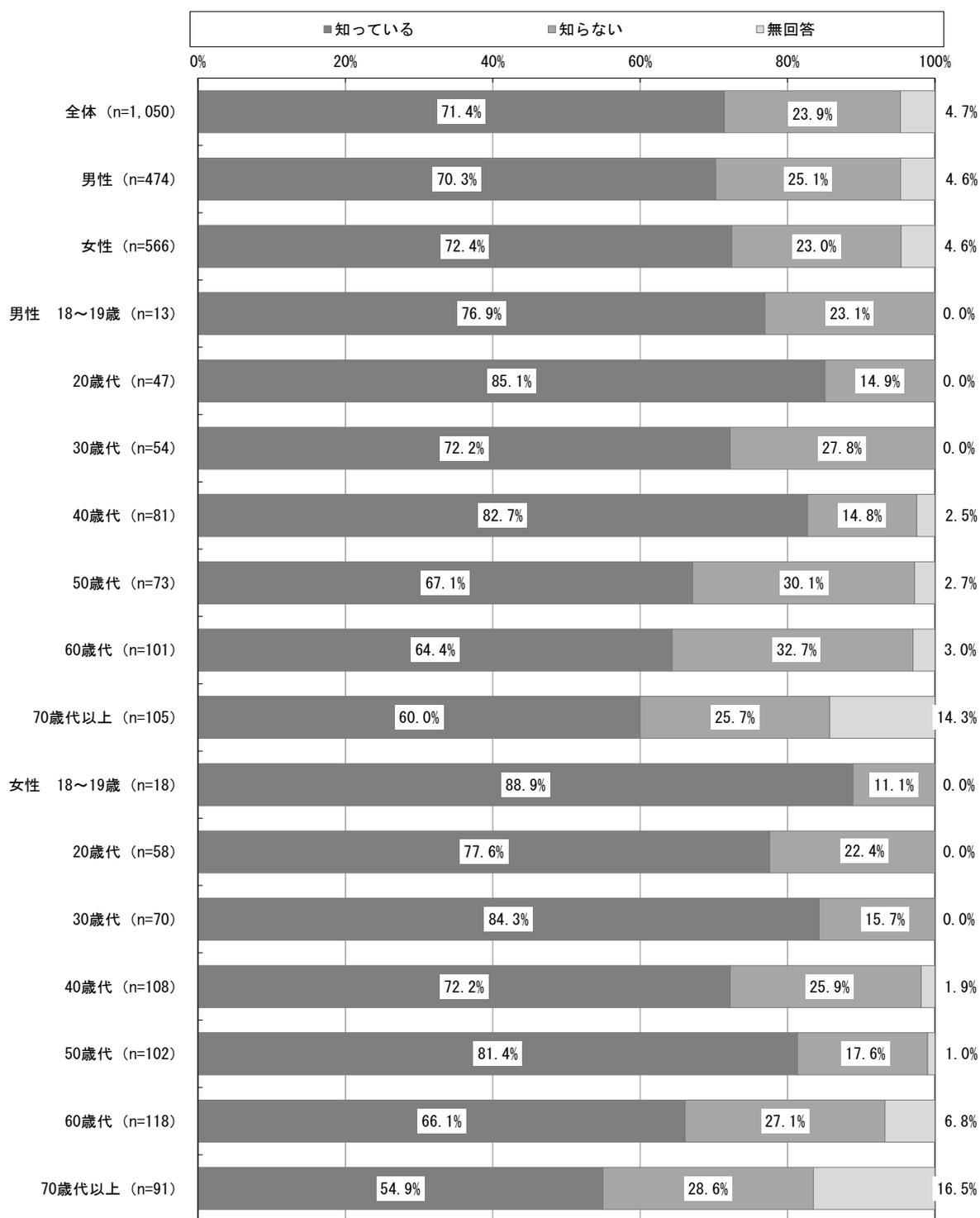
【ウ 妻を働かせない：男女別・年代別クロス表】



男女別では大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知っている」という回答が減少する傾向にあります。

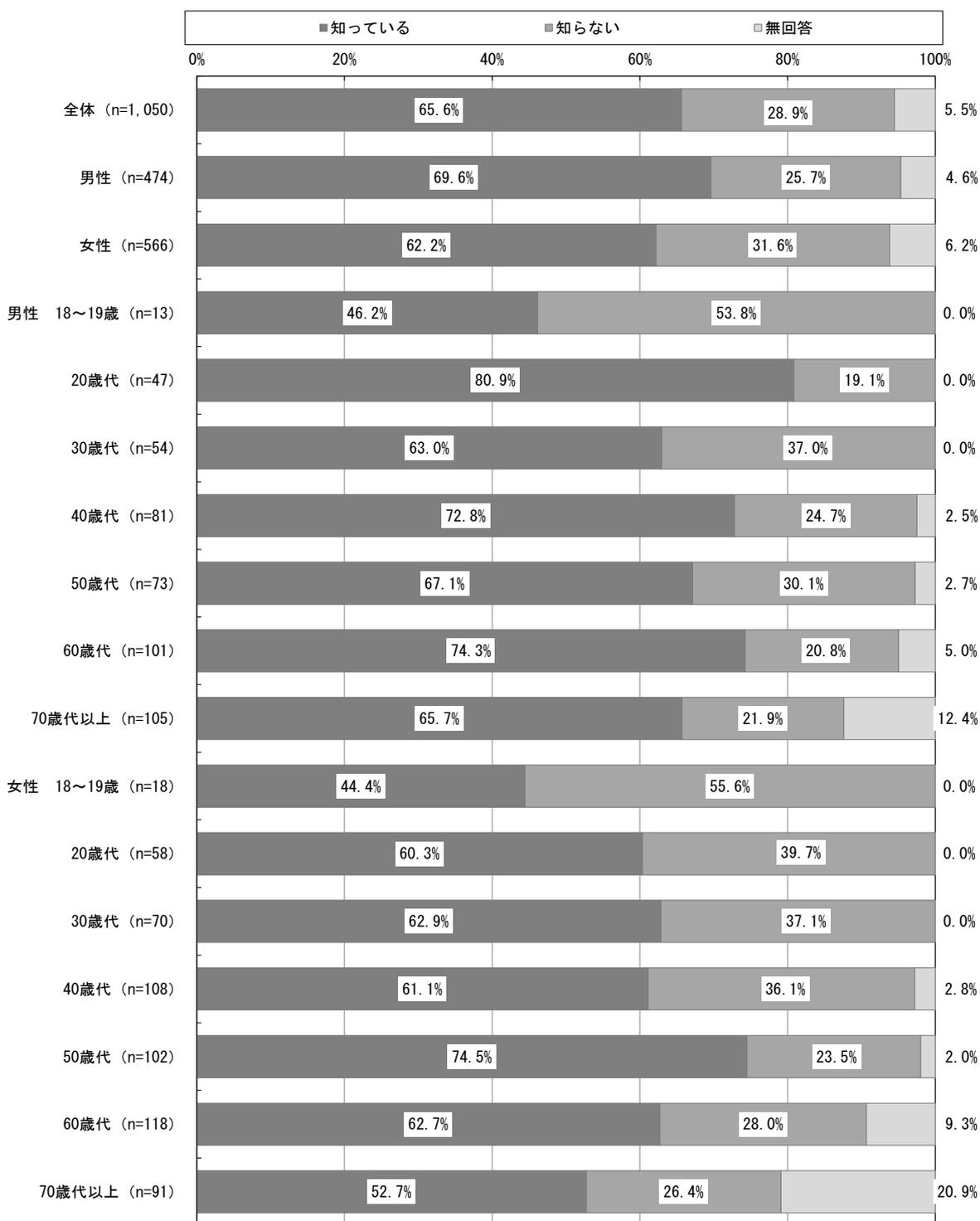
【エ 避妊に協力しない：男女別・年代別クロス表】



男女別では大きな差はみられませんでした。

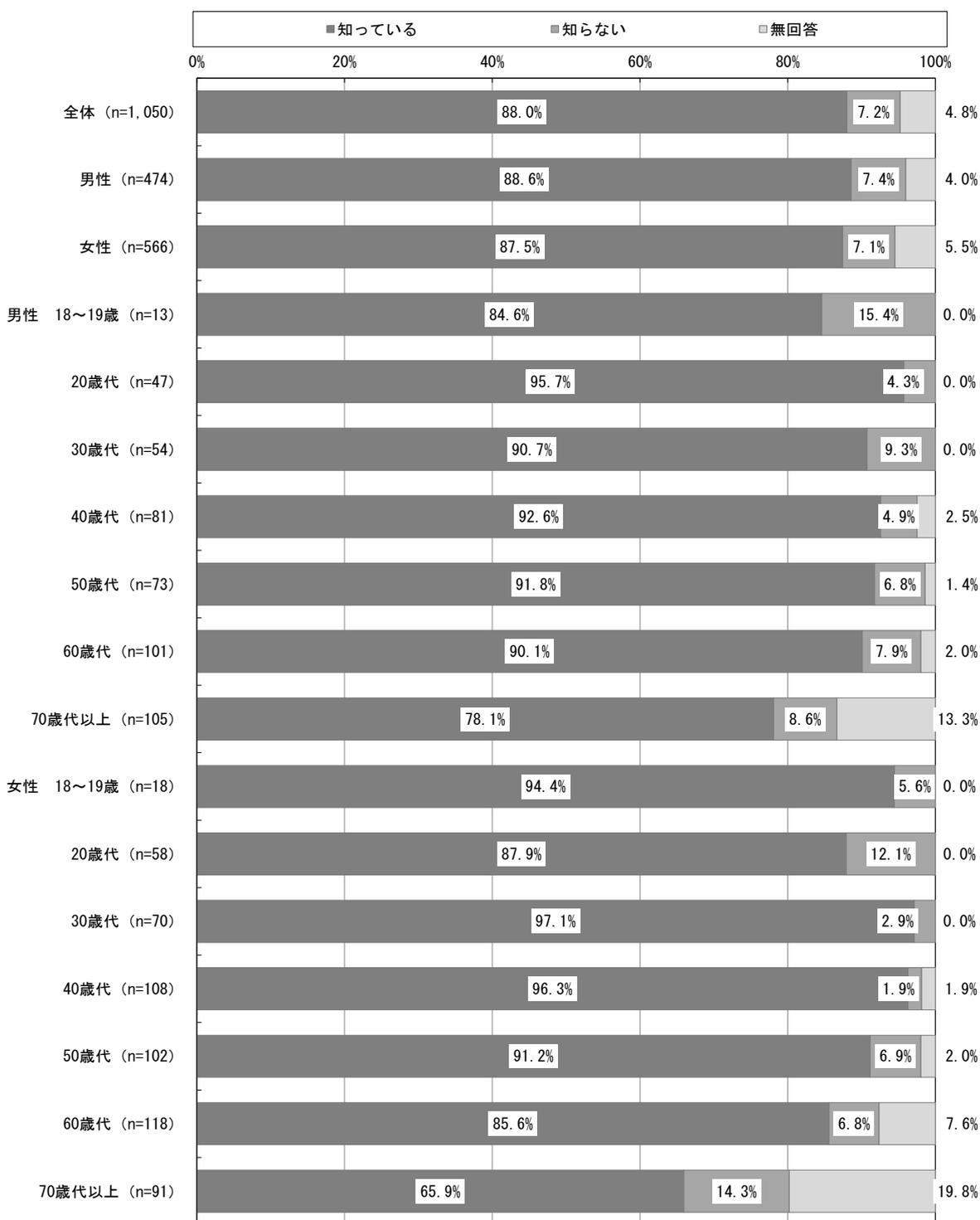
年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知っている」という回答が減少する傾向にあります。

【オ 話しかけても無視する：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「知っている」という回答が女性より高くなっています。
 年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知らない」という回答が減少する傾向にあります。

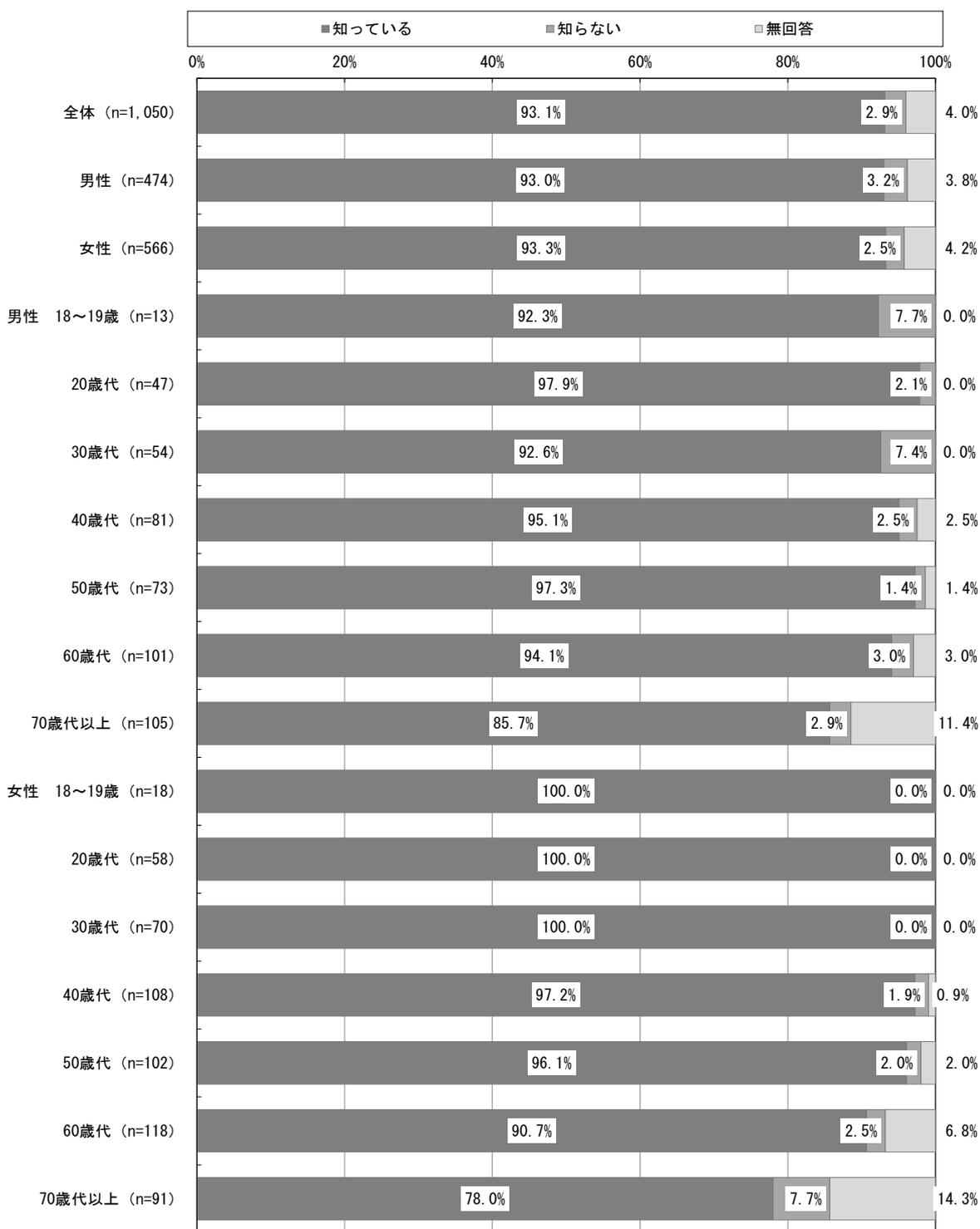
【カ 怒鳴る：男女別・年代別クロス表】



男女別では大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知っている」という回答が減少する傾向にあります。

【キ 子どもの前で暴力をふるう：男女別・年代別クロス表】



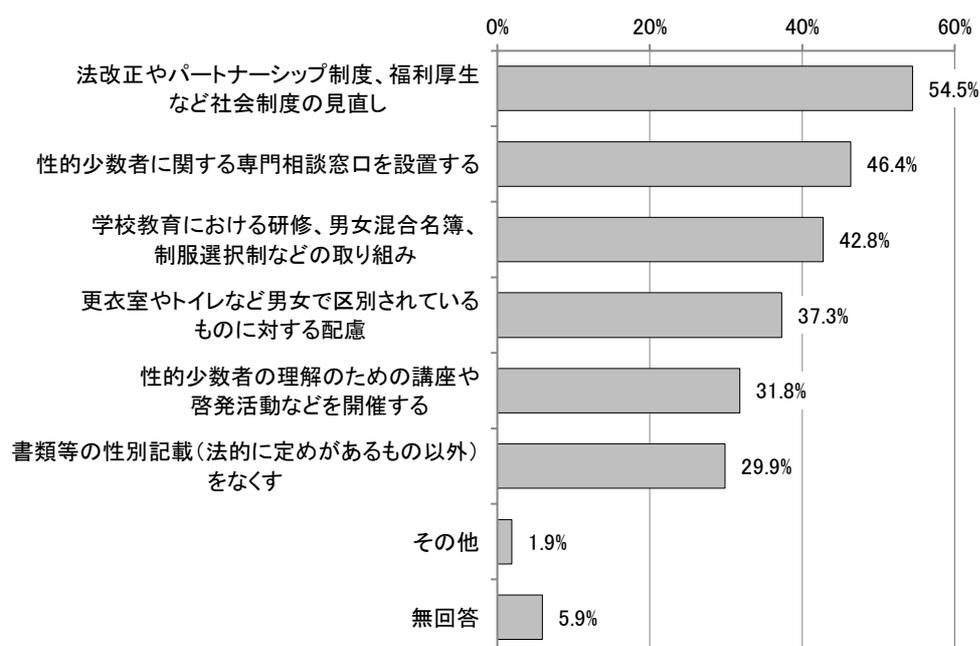
男女別では大きな差はみられませんでした。

年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「知っている」という回答が減少する傾向にあります。

(3) 性的少数者への理解・配慮

問 21 性的少数者の方への理解や配慮すべきことについて、次の中から特に重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」が54.5%と最も高く、次いで「性的少数者に関する専門相談窓口を設置する」が46.4%となっています。



【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位	100.0% : 2位	100.0% : 3位	その他	無回答			
		書類等の性別記載(法的に定めがあるもの以外)をなくす	性的少数者の理解のための講座や啓発活動などを開催する	性的少数者に関する専門相談窓口を設置する			法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し	学校教育における研修、男女混合名簿、制服選択制などの取り組み	更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮
全体	1,050	29.9%	31.8%	46.4%	54.5%	42.8%	37.3%	1.9%	5.9%
男性	474	29.3%	34.6%	48.7%	50.8%	36.9%	35.4%	2.3%	6.3%
女性	566	30.4%	29.7%	44.2%	57.4%	47.9%	38.3%	1.6%	5.5%
男性 18～19歳	13	23.1%	30.8%	53.8%	38.5%	61.5%	53.8%	0.0%	0.0%
20歳代	47	36.2%	29.8%	40.4%	53.2%	48.9%	38.3%	0.0%	2.1%
30歳代	54	29.6%	16.7%	53.7%	55.6%	42.6%	25.9%	5.6%	1.9%
40歳代	81	32.1%	27.2%	40.7%	59.3%	30.9%	35.8%	3.7%	8.6%
50歳代	73	21.9%	32.9%	43.8%	53.4%	46.6%	31.5%	2.7%	5.5%
60歳代	101	35.6%	47.5%	53.5%	46.5%	38.6%	34.7%	2.0%	3.0%
70歳代以上	105	23.8%	41.0%	54.3%	44.8%	21.9%	40.0%	1.0%	13.3%
女性 18～19歳	18	50.0%	0.0%	38.9%	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%
20歳代	58	39.7%	22.4%	44.8%	67.2%	58.6%	39.7%	1.7%	0.0%
30歳代	70	41.4%	34.3%	38.6%	57.1%	65.7%	30.0%	2.9%	0.0%
40歳代	108	34.3%	34.3%	37.0%	72.2%	53.7%	33.3%	0.9%	3.7%
50歳代	102	28.4%	23.5%	46.1%	52.0%	53.9%	41.2%	2.0%	1.0%
60歳代	118	21.2%	32.2%	47.5%	56.8%	36.4%	41.5%	0.8%	7.6%
70歳代以上	91	22.0%	35.2%	50.5%	38.5%	25.3%	36.3%	2.2%	18.7%

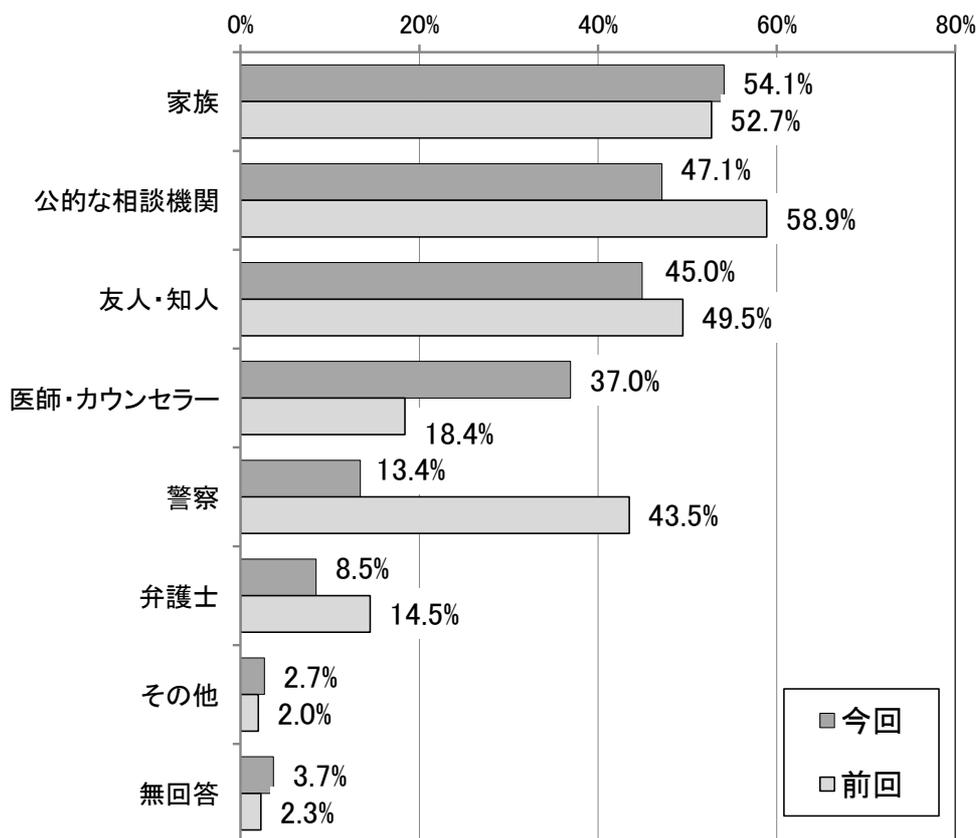
男女別では、男女ともに、「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」という回答が最も高くなっています。男性の第2位は「性的少数者に関する専門相談窓口を設置する」、女性の第2位は「学校教育における研修、男女混合名簿、制服選択制などの取り組み」となっています。

年代別をみると、男性は概ね、「法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し」や「性的少数者に関する専門相談窓口を設置する」という回答が高くなっているのに対し、女性では、「学校教育における研修、男女混合名簿、制服選択制などの取り組み」、女性の60歳代以上では「更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮」という回答が高くなっています。

(4) 相談先について

問 22 あなたは、これらの相談をするとしたら、次のだれ（どこ）に相談しようと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

相談する相手は、「家族」が 54.1%と最も高く、次いで「公的な相談機関」が 47.1%、「友人・知人」が 45.0%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「公的な相談機関」が 11.8 ポイント、「警察」が 30.1 ポイント減少しています。一方で、「医師・カウンセラー」が 18.6 ポイント増加しています。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位		100.0% : 2位		100.0% : 3位			無回答
		家族	友人・知人	警察	医師・カウンセラー	弁護士	公的な相談機関	その他	
全体	1,050	54.1%	45.0%	13.4%	37.0%	8.5%	47.1%	2.7%	3.7%
男性	474	51.5%	41.1%	13.5%	35.0%	10.5%	48.5%	2.7%	4.4%
女性	566	56.2%	48.6%	13.4%	38.9%	6.9%	45.6%	2.7%	3.0%
男性 18～19歳	13	46.2%	69.2%	7.7%	30.8%	0.0%	15.4%	23.1%	0.0%
20歳代	47	51.1%	57.4%	14.9%	21.3%	8.5%	25.5%	2.1%	4.3%
30歳代	54	61.1%	53.7%	18.5%	31.5%	7.4%	44.4%	5.6%	1.9%
40歳代	81	59.3%	40.7%	13.6%	32.1%	12.3%	37.0%	3.7%	2.5%
50歳代	73	43.8%	38.4%	9.6%	39.7%	15.1%	50.7%	1.4%	6.8%
60歳代	101	46.5%	36.6%	9.9%	41.6%	10.9%	58.4%	1.0%	3.0%
70歳代以上	105	51.4%	30.5%	17.1%	36.2%	9.5%	62.9%	1.0%	7.6%
女性 18～19歳	18	61.1%	61.1%	11.1%	44.4%	0.0%	22.2%	5.6%	0.0%
20歳代	58	56.9%	58.6%	15.5%	32.8%	6.9%	37.9%	5.2%	0.0%
30歳代	70	61.4%	60.0%	10.0%	28.6%	2.9%	41.4%	0.0%	0.0%
40歳代	108	64.8%	56.5%	13.0%	30.6%	7.4%	39.8%	2.8%	0.9%
50歳代	102	53.9%	51.0%	12.7%	43.1%	8.8%	49.0%	2.9%	1.0%
60歳代	118	55.1%	42.4%	16.9%	43.2%	6.8%	45.8%	1.7%	3.4%
70歳代以上	91	44.0%	27.5%	12.1%	48.4%	8.8%	60.4%	3.3%	12.1%

男女別では、男女ともに、「家族」という回答が最も高くなっています。男性の第2位は「公的な相談機関」、女性の第2位は「友人・知人」となっています。

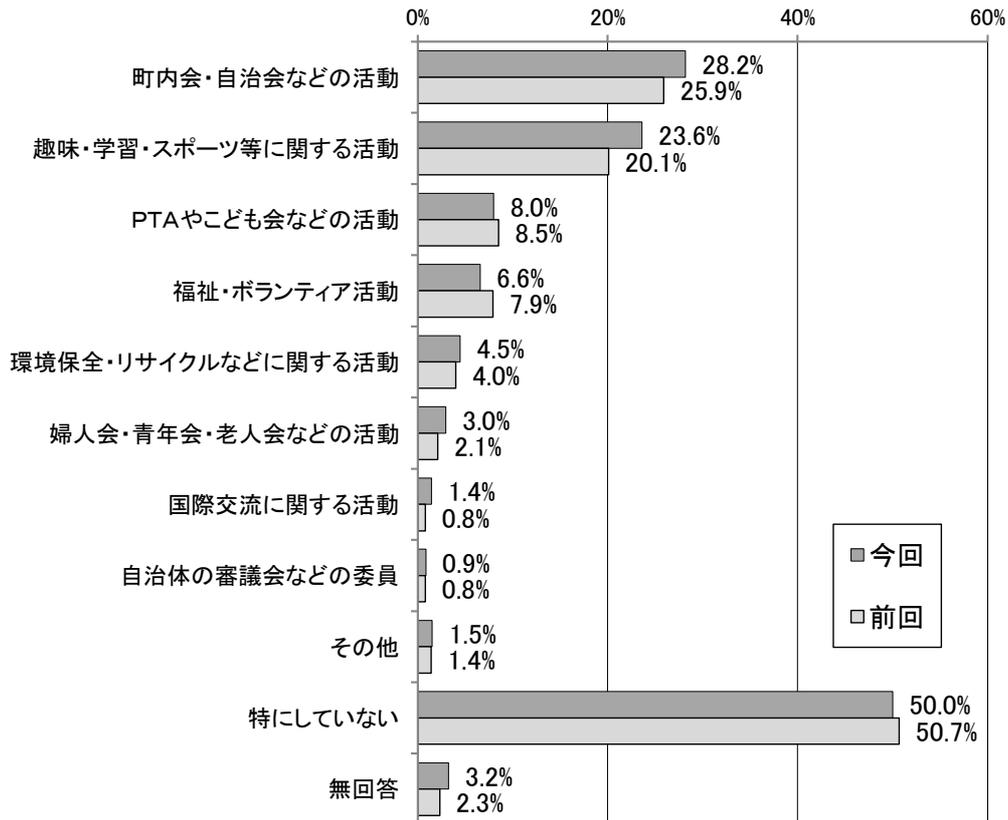
年代別をみると、男女ともに、20歳代以下では「友人・知人」が最も高く、男性の30歳代～40歳代、女性の30歳代～60歳代では、「家族」が最も高くなっています。なお、男性の50歳代以上及び女性の70歳代以上では、「公的な相談機関」が最も高くなっています。

8 地域活動・社会参加について

(1) 現在行っている地域活動等

問 23 あなたは現在どのような地域活動・社会活動をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

現在行っている地域活動に関しては、「特にしていない」が50.0%と最も高く、次いで「町内会・自治会などの活動」が28.2%、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」が23.6%となっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「特にしていない」という回答が最も高く、行っている地域活動は、「町内会・自治会などの活動」、「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」との回答が約2割であり、前回と大きな違いはありませんでした。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% :1位		100.0% :2位		100.0% :3位		国際交流に関する活動	趣味・学習・スポーツ等に関する活動	その他	特にしていない	無回答
		町内会・自治会などの活動	婦人会・青年会・老人会などの活動	福祉・ボランティア活動	PTAや子ども会などの活動	環境保全・リサイクルなどに関する活動	自治体の審議会などの委員					
全体	1,050	28.2%	3.0%	6.6%	8.0%	4.5%	0.9%	1.4%	23.6%	1.5%	50.0%	3.2%
男性	474	27.0%	3.6%	7.0%	3.8%	3.6%	1.5%	1.7%	23.6%	2.3%	54.2%	2.3%
女性	566	29.0%	2.3%	6.4%	11.5%	5.1%	0.4%	1.2%	23.5%	0.9%	46.8%	3.9%
男性 18～19歳	13	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%	0.0%	76.9%	0.0%
20歳代	47	14.9%	2.1%	8.5%	4.3%	2.1%	0.0%	2.1%	34.0%	2.1%	59.6%	0.0%
30歳代	54	18.5%	1.9%	1.9%	3.7%	1.9%	1.9%	1.9%	20.4%	0.0%	70.4%	0.0%
40歳代	81	25.9%	4.9%	9.9%	12.3%	4.9%	1.2%	2.5%	18.5%	1.2%	53.1%	3.7%
50歳代	73	34.2%	0.0%	6.8%	2.7%	2.7%	0.0%	0.0%	13.7%	1.4%	56.2%	0.0%
60歳代	101	34.7%	2.0%	5.9%	2.0%	5.0%	3.0%	2.0%	19.8%	1.0%	51.5%	1.0%
70歳代以上	105	28.6%	8.6%	7.6%	0.0%	3.8%	1.9%	1.0%	35.2%	6.7%	42.9%	6.7%
女性 18～19歳	18	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	72.2%	5.6%
20歳代	58	5.2%	0.0%	6.9%	3.4%	6.9%	0.0%	5.2%	15.5%	0.0%	72.4%	1.7%
30歳代	70	17.1%	0.0%	1.4%	20.0%	5.7%	0.0%	0.0%	12.9%	1.4%	58.6%	1.4%
40歳代	108	38.0%	0.0%	3.7%	32.4%	2.8%	0.0%	0.0%	17.6%	1.9%	37.0%	2.8%
50歳代	102	39.2%	2.9%	6.9%	11.8%	5.9%	1.0%	2.9%	24.5%	0.0%	42.2%	0.0%
60歳代	118	37.3%	1.7%	6.8%	0.8%	3.4%	0.0%	0.0%	30.5%	0.0%	44.1%	2.5%
70歳代以上	91	26.4%	8.8%	13.2%	1.1%	8.8%	1.1%	1.1%	34.1%	2.2%	36.3%	14.3%

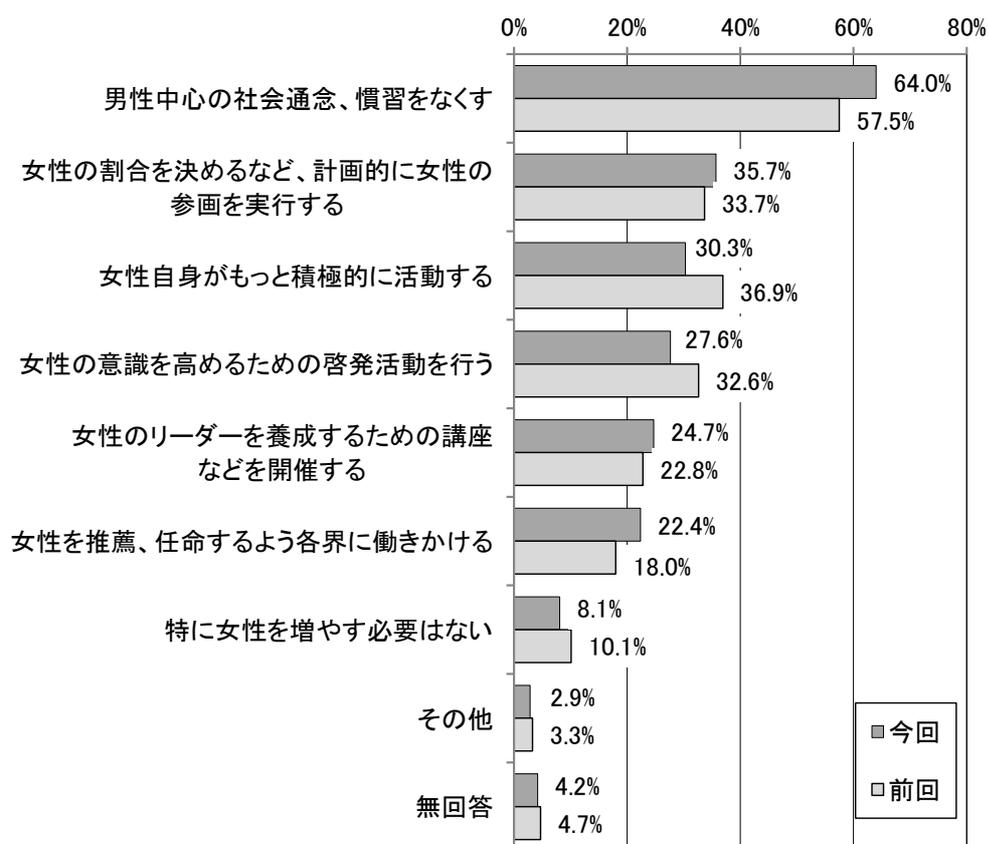
男女別では、男女ともに、「特にしていない」という回答が最も高く、次いで「町内会・自治会などの活動」となっています。

年代別をみると、同様にほとんどの年代で「特にしていない」という回答が最も高くなっていますが、女性の40歳代では、「町内会・自治会などの活動」という回答が最も高くなっています。なお、男女とも若年者ほど「趣味・学習・スポーツ等に関する活動」という回答も高くなっています。

(2) 政策決定への女性参画促進に必要なこと

問 24 政策決定への女性の参画をさらに、促進するにはどうしたらよいと思いますか。次の中から重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

政策決定への女性参画の促進に必要なことでは、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が64.0%と最も高く、次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」が35.7%、「女性自身がもっと積極的に活動する」が30.3%となっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」が前回より6.5ポイント増加しています。次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」が2ポイント増加し、「女性自身がもっと積極的に活動する」は6.6ポイント減少したため、この順の第2位と第3位が入れ替わっています。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0%	100.0%		100.0%		女性自身がもっと積極的に活動する	女性を推薦、任命するよう各界に働きかける	特に女性を増やす必要はない	その他	無回答
		: 1位	: 2位	: 2位	: 3位						
		男性中心の社会通念、慣習をなくす	女性のリーダーを養成するための講座などを開催する	女性の意識を高めるための啓発活動を行う	女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する						
全体	1,050	64.0%	24.7%	27.6%	35.7%	30.3%	22.4%	8.1%	2.9%	4.2%	
男性	474	64.1%	24.3%	27.4%	38.0%	28.1%	24.7%	10.1%	2.3%	3.6%	
女性	566	64.1%	25.3%	28.3%	34.1%	32.0%	20.3%	6.4%	3.4%	4.4%	
男性 18～19歳	13	76.9%	7.7%	7.7%	53.8%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
20歳代	47	76.6%	25.5%	10.6%	36.2%	21.3%	27.7%	6.4%	2.1%	0.0%	
30歳代	54	50.0%	27.8%	18.5%	29.6%	27.8%	16.7%	14.8%	3.7%	1.9%	
40歳代	81	64.2%	22.2%	22.2%	37.0%	29.6%	28.4%	12.3%	3.7%	3.7%	
50歳代	73	63.0%	23.3%	23.3%	38.4%	16.4%	16.4%	12.3%	1.4%	2.7%	
60歳代	101	65.3%	21.8%	39.6%	47.5%	30.7%	32.7%	5.9%	2.0%	1.0%	
70歳代以上	105	63.8%	28.6%	37.1%	32.4%	37.1%	22.9%	11.4%	1.9%	9.5%	
女性 18～19歳	18	77.8%	16.7%	16.7%	38.9%	38.9%	27.8%	0.0%	5.6%	0.0%	
20歳代	58	72.4%	31.0%	17.2%	34.5%	22.4%	29.3%	6.9%	5.2%	0.0%	
30歳代	70	74.3%	14.3%	21.4%	55.7%	28.6%	22.9%	7.1%	5.7%	0.0%	
40歳代	108	64.8%	34.3%	24.1%	36.1%	20.4%	18.5%	7.4%	5.6%	1.9%	
50歳代	102	65.7%	22.5%	33.3%	33.3%	30.4%	16.7%	4.9%	3.9%	0.0%	
60歳代	118	64.4%	22.9%	28.8%	28.8%	41.5%	19.5%	6.8%	0.8%	6.8%	
70歳代以上	91	45.1%	26.4%	41.8%	20.9%	42.9%	18.7%	6.6%	0.0%	16.5%	

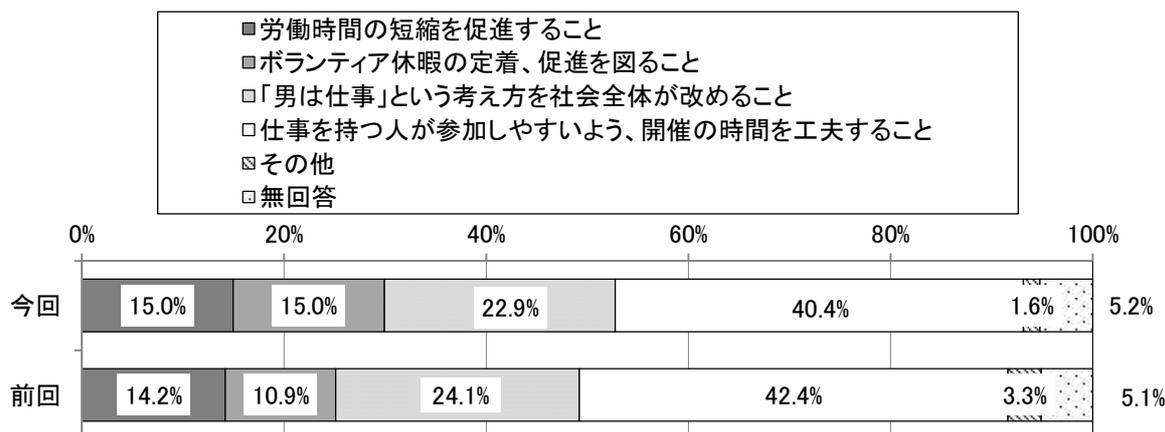
男女別では、男女ともに、「男性中心の社会通念、慣習をなくす」という回答が最も高く、次いで「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」となっています。

年代別をみると、同様に全ての年代で「男性中心の社会通念、慣習をなくす」という回答が最も高く、ほとんどの年代で、第2位が「女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する」となっていますが、男性の70歳代以上、女性の60歳代は「女性自身をもっと積極的に活動する」という回答が高くなっています。

(3) 男性の地域活動参画に必要なこと

問 25 男性が地域活動に参加しやすい環境づくりで必要と思うことを1つだけ選び○をつけてください。

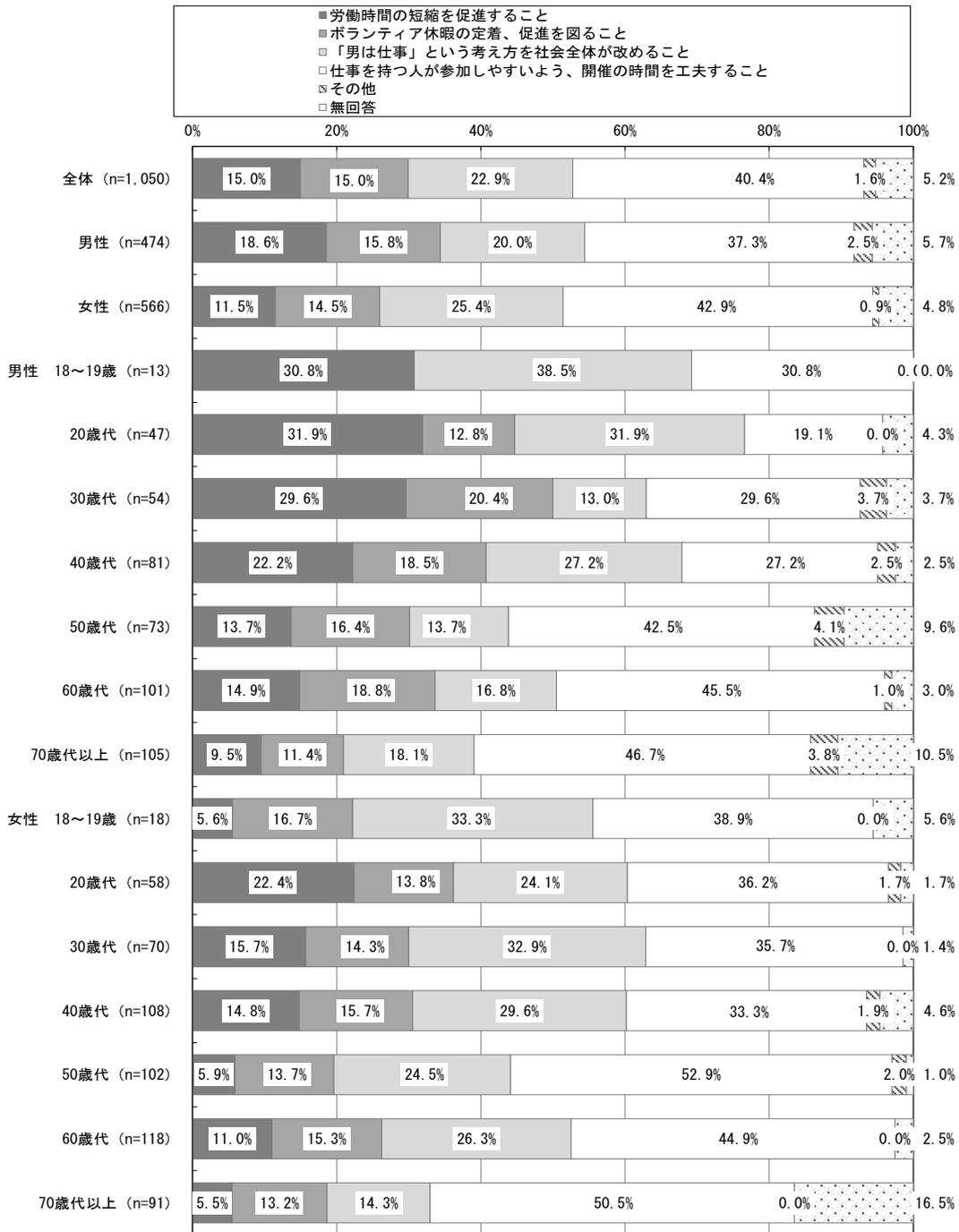
男性の地域活動参画に必要なことについては、「仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること」が40.4%と最も高く、次いで「男は仕事」という考え方を社会全体が改めること」が22.9%となっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること」という回答が最も高くなっていますが、今回は2ポイント減少しています。一方で、「ボランティア休暇の定着、促進を図ること」という回答は4.1ポイント増加してしています。

【男性が地域活動に参加しやすい環境づくりで必要と思うこと：男女別・年代別クロス表】



男女別では、男性は「労働時間の短縮を促進すること」という回答が女性より高く、女性は、「男は仕事」という考え方を社会全体が改めること、「仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること」という回答が男性より高くなっています。

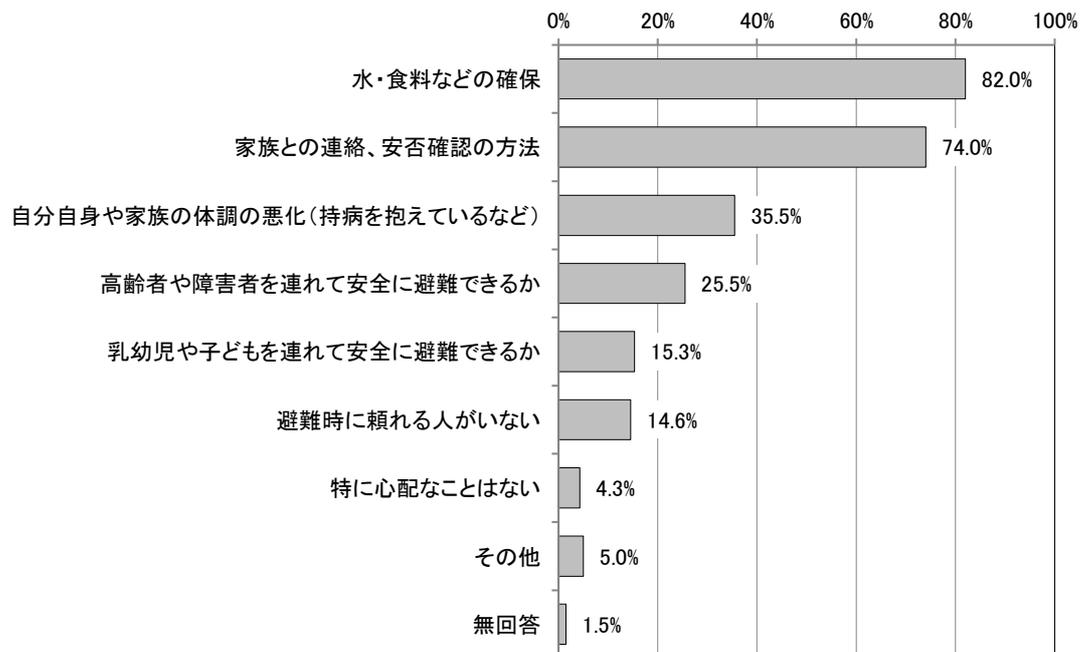
年代別にみると、男女ともに、年代が上がるに従い「労働時間の短縮を促進すること」という回答が減少し、「仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること」という回答が増加する傾向があります。

9 防災について

(1) 災害時の心配

問 26 災害が発生し避難が必要になった際、あなたは何が心配ですか。次の中から特に心配なことを3つまで選び、番号に○をつけてください。

「水・食料などの確保」が82.0%と最も高く、次いで「家族との連絡、安否確認の方法」が74.0%となっています。



【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位		100.0% : 2位		100.0% : 3位		他に心配なことはない	その他	無回答
		水・食料などの確保	家族との連絡、安否確認の方法	乳幼児や子どもを連れて安全に避難できるか	高齢者や障害者を連れて安全に避難できるか	自分自身や家族の体調の悪化(持病を抱えているなど)	避難時に頼れる人がいない			
全体	1,050	82.0%	74.0%	15.3%	25.5%	35.5%	14.6%	4.3%	5.0%	1.5%
男性	474	84.8%	71.1%	12.2%	27.8%	36.7%	12.4%	5.5%	2.5%	1.5%
女性	566	80.0%	76.3%	18.0%	23.1%	34.6%	16.1%	3.0%	7.2%	1.6%
男性 18～19歳	13	84.6%	76.9%	15.4%	23.1%	23.1%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%
20歳代	47	89.4%	70.2%	21.3%	23.4%	19.1%	19.1%	6.4%	2.1%	0.0%
30歳代	54	87.0%	72.2%	25.9%	18.5%	29.6%	13.0%	0.0%	0.0%	1.9%
40歳代	81	86.4%	76.5%	23.5%	29.6%	24.7%	9.9%	7.4%	1.2%	1.2%
50歳代	73	86.3%	75.3%	4.1%	21.9%	39.7%	11.0%	4.1%	4.1%	0.0%
60歳代	101	88.1%	74.3%	5.9%	34.7%	43.6%	8.9%	1.0%	4.0%	0.0%
70歳代以上	105	76.2%	60.0%	3.8%	31.4%	50.5%	15.2%	12.4%	1.9%	4.8%
女性 18～19歳	18	94.4%	88.9%	11.1%	22.2%	11.1%	16.7%	5.6%	11.1%	0.0%
20歳代	58	86.2%	84.5%	19.0%	15.5%	34.5%	17.2%	1.7%	10.3%	0.0%
30歳代	70	88.6%	80.0%	58.6%	15.7%	17.1%	14.3%	1.4%	5.7%	0.0%
40歳代	108	88.9%	79.6%	25.0%	18.5%	28.7%	14.8%	0.0%	10.2%	0.0%
50歳代	102	76.5%	76.5%	10.8%	30.4%	27.5%	14.7%	0.0%	7.8%	0.0%
60歳代	118	72.9%	73.7%	4.2%	19.5%	51.7%	16.9%	5.9%	7.6%	1.7%
70歳代以上	91	70.3%	64.8%	5.5%	36.3%	45.1%	17.6%	7.7%	1.1%	7.7%

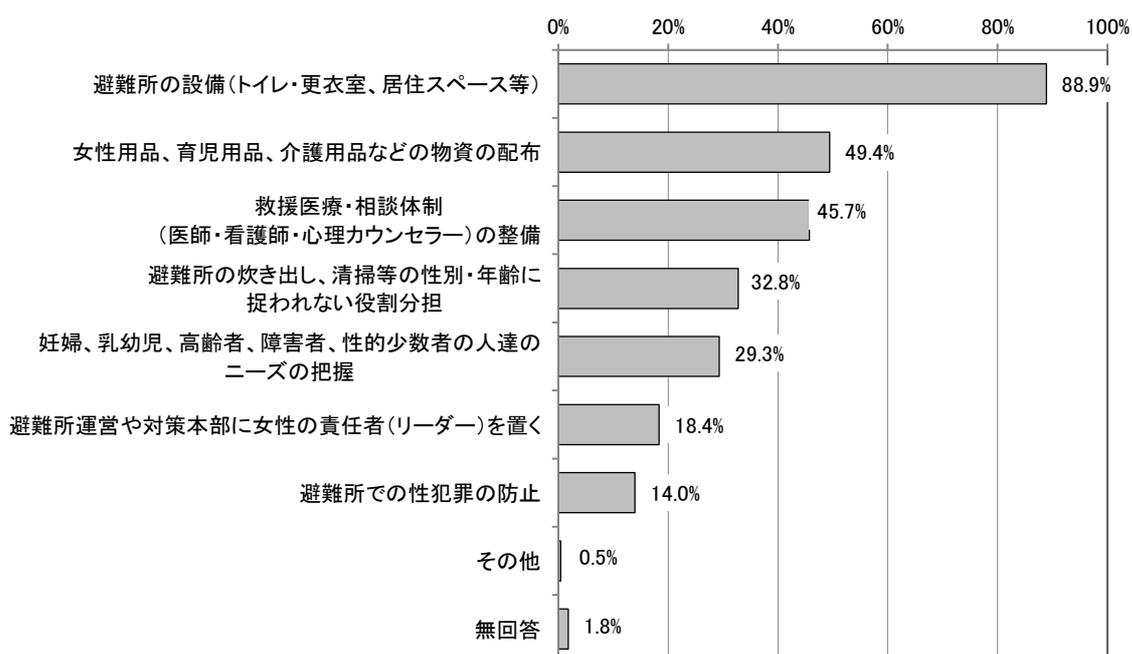
男女別では、男女ともに、「水・食料などの確保」という回答が最も高く、次いで「家族との連絡、安否確認の方法」となっています。

年代別をみると、男女ともに、ほぼ全ての年代で「水・食料などの確保」という回答が高くなっていますが、女性の50歳代と60歳代では「家族との連絡、安否確認の方法」が最も高くなっています。

(2) 性別に配慮した取り組み

問 27 防災・災害対策において、性別に配慮した取り組みの中から、特に必要と思うことを3つまで選び、番号に○をつけてください。

「避難所の設備（トイレ・更衣室・居住スペース等）」が 88.9%と最も高く、唯一8割を超えています。次に、「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」が 49.4%、「救援医療・相談体制（医師・看護師・心理カウンセラー）の整備」が 45.7%となつています。



【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位	100.0% : 2位	100.0% : 3位	妊婦、乳幼児、高齢者、障害者、性的少数者の人達のニーズの把握	救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備	避難所での性犯罪の防止	その他	無回答	
		避難所の設備(トイレ・更衣室、居住スペース等)	避難所運営や対策本部に女性の責任者(リーダー)を置く	避難所の炊き出し、清掃等の性別・年齢に捉われない役割分担						女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布
全体	1,050	88.9%	18.4%	32.8%	49.4%	29.3%	45.7%	14.0%	0.5%	1.8%
男性	474	88.0%	16.9%	42.4%	41.1%	29.1%	47.7%	10.5%	0.0%	1.9%
女性	566	89.6%	19.4%	24.7%	56.4%	29.5%	44.3%	17.0%	0.9%	1.6%
男性 18～19歳	13	84.6%	7.7%	38.5%	30.8%	61.5%	46.2%	15.4%	0.0%	0.0%
20歳代	47	85.1%	10.6%	55.3%	46.8%	31.9%	21.3%	23.4%	0.0%	0.0%
30歳代	54	83.3%	13.0%	35.2%	46.3%	25.9%	38.9%	14.8%	0.0%	1.9%
40歳代	81	87.7%	22.2%	30.9%	56.8%	22.2%	39.5%	13.6%	0.0%	1.2%
50歳代	73	87.7%	15.1%	39.7%	42.5%	39.7%	50.7%	13.7%	0.0%	0.0%
60歳代	101	92.1%	12.9%	45.5%	43.6%	26.7%	60.4%	4.0%	0.0%	0.0%
70歳代以上	105	88.6%	23.8%	48.6%	21.9%	25.7%	56.2%	3.8%	0.0%	6.7%
女性 18～19歳	18	88.9%	16.7%	0.0%	88.9%	33.3%	38.9%	16.7%	0.0%	0.0%
20歳代	58	77.6%	24.1%	10.3%	84.5%	31.0%	34.5%	27.6%	0.0%	0.0%
30歳代	70	85.7%	11.4%	24.3%	68.6%	45.7%	21.4%	35.7%	1.4%	0.0%
40歳代	108	94.4%	22.2%	18.5%	71.3%	20.4%	43.5%	18.5%	0.9%	0.0%
50歳代	102	91.2%	17.6%	24.5%	55.9%	30.4%	47.1%	13.7%	0.0%	0.0%
60歳代	118	94.1%	17.8%	33.9%	34.7%	29.7%	55.1%	11.0%	0.8%	1.7%
70歳代以上	91	86.8%	23.1%	35.2%	34.1%	24.2%	53.8%	5.5%	2.2%	7.7%

男女別では、男女ともに、「避難所の設備(トイレ・更衣室、居住スペース等)」という回答が最も高くなっています。男性の2位は「救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備」、女性の2位は「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」となっています。

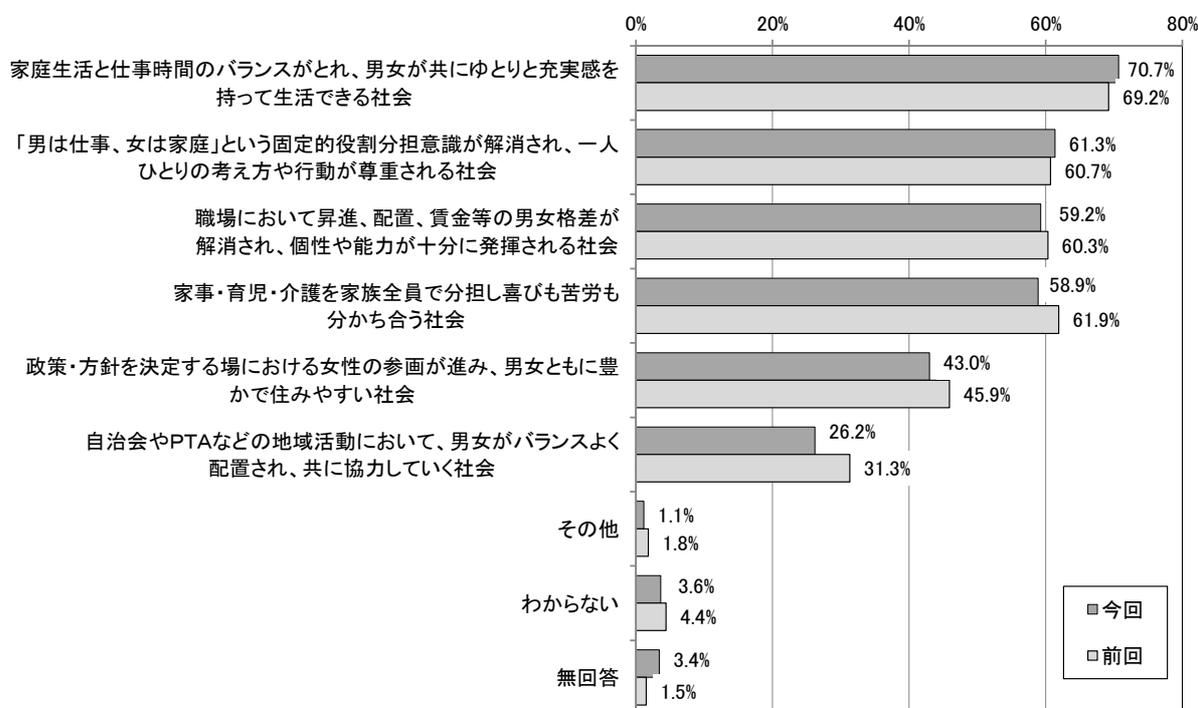
年代別をみると、男女ともに、ほぼ全ての年代で「避難所の設備(トイレ・更衣室、居住スペース等)」という回答が最も高くなっていますが、女性の20歳代以下では「女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布」が最も高くなっています。なお、男性の50歳代以上、女性の60歳代以上では、「救援医療・相談体制(医師・看護師・心理カウンセラー)の整備」という回答も高くなっています。

10 男女共同参画社会のための施策について

(1) 男女共同参画社会のイメージ

問 28 あなたは、男女共同参画社会とは、どのような社会をイメージしますか。次の中からイメージするものすべてに○をつけてください。

男女共同参画社会のイメージについては、「家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会」が70.7%と最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会」が61.3%、「職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会」が59.2%の順になっています。



【前回調査（平成27年度）との比較】

前回との比較では、「家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会」が最も高く、前回と同様となっています。

前回の第2位の「家事・育児・介護を家族全員で分担し、喜びも苦労も分かち合う社会」は3ポイント減少し、第4位となっています。

【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% : 1位	100.0% : 2位	100.0% : 3位	「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会	家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会	その他	わからない	無回答	
		家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会	職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会	政策・方針を決定する場における女性の参画が進み、男女ともに豊かに住みやすい社会						自治会やPTAなどの地域活動において、男女がバランスよく配置され、共に協力していく社会
全体	1,050	58.9%	59.2%	43.0%	26.2%	61.3%	70.7%	1.1%	3.6%	3.4%
男性	474	54.6%	51.7%	44.3%	25.1%	55.7%	65.8%	1.3%	4.9%	3.4%
女性	566	62.4%	65.7%	41.9%	26.9%	66.6%	74.9%	1.1%	2.7%	3.2%
男性 18～19歳	13	84.6%	76.9%	53.8%	38.5%	69.2%	69.2%	0.0%	7.7%	0.0%
20歳代	47	61.7%	61.7%	44.7%	14.9%	63.8%	59.6%	2.1%	2.1%	2.1%
30歳代	54	57.4%	42.6%	40.7%	14.8%	48.1%	72.2%	0.0%	7.4%	3.7%
40歳代	81	49.4%	59.3%	32.1%	21.0%	61.7%	67.9%	1.2%	7.4%	2.5%
50歳代	73	50.7%	52.1%	41.1%	17.8%	53.4%	61.6%	4.1%	0.0%	1.4%
60歳代	101	52.5%	53.5%	55.4%	26.7%	57.4%	68.3%	1.0%	5.0%	1.0%
70歳代以上	105	55.2%	41.0%	45.7%	40.0%	49.5%	63.8%	0.0%	5.7%	8.6%
女性 18～19歳	18	66.7%	94.4%	50.0%	33.3%	83.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	58	60.3%	79.3%	46.6%	22.4%	75.9%	75.9%	3.4%	0.0%	0.0%
30歳代	70	71.4%	74.3%	37.1%	30.0%	68.6%	81.4%	2.9%	4.3%	0.0%
40歳代	108	61.1%	65.7%	40.7%	25.9%	66.7%	74.1%	0.0%	3.7%	0.9%
50歳代	102	64.7%	66.7%	36.3%	20.6%	71.6%	78.4%	2.0%	0.0%	0.0%
60歳代	118	61.9%	56.8%	44.1%	27.1%	66.9%	77.1%	0.0%	2.5%	1.7%
70歳代以上	91	56.0%	56.0%	46.2%	34.1%	50.5%	65.9%	0.0%	5.5%	15.4%

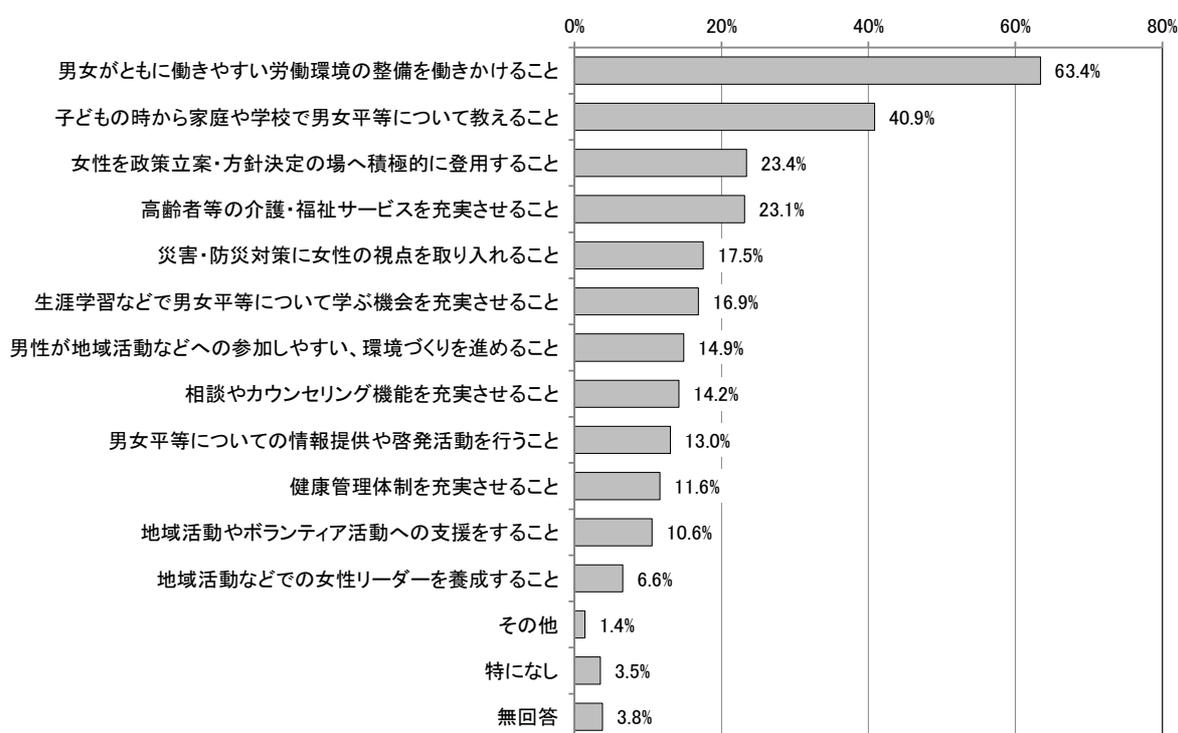
男女別では、男女ともに、「家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会」という回答が最も高く、次いで「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会」という回答が高くなっています。

年代別をみると、同様にほとんどの年代で「家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会」という回答が高くなっていますが、男性の18～19歳では、「家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会」、20歳代では、「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会」という回答が最も高くなっています。また、女性の18～19歳、20歳代では、「職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会」という回答が最も高くなっています。

(2) 男女共同参画社会をめざすために必要な取組

問 29 男女共同参画社会をめざすために、市では今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。次の中から特に重要なものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

男女共同参画社会をめざすために必要な取組については、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」が63.4%と最も高く、次いで、「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」が40.9%、「女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること」が23.4%となっています。



【男女別・年代別クロス表】

	回答者数	100.0% :1位		100.0% :2位		100.0% :3位			男女平等についての情報提供や啓発活動を行うこと	健康管理体制を充実させること	高齢者等の介護・福祉サービスを充実させること	災害・防災対策に女性の視点を取り入れること	その他	特になし	無回答	
		男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること	男性が地域活動などへの参加しやすい、環境づくりを進めること	地域活動などでの女性リーダーを養成すること	女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること	地域活動やボランティア活動への支援をすること	子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること	生涯学習などで男女平等について学ぶ機会を充実させること								
全体	1,050	14.2%	63.4%	14.9%	6.6%	23.4%	10.6%	40.9%	16.9%	13.0%	11.6%	23.1%	17.5%	1.4%	3.5%	3.8%
男性	474	14.1%	61.2%	14.6%	9.3%	27.4%	11.8%	36.9%	16.9%	14.3%	10.5%	19.2%	14.6%	2.1%	4.6%	3.2%
女性	566	13.6%	65.4%	15.2%	4.4%	20.3%	9.4%	44.5%	17.0%	12.0%	12.4%	26.1%	19.6%	0.9%	2.5%	4.1%
男性 18～19歳	13	23.1%	100.0%	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	38.5%	30.8%	7.7%	23.1%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	47	23.4%	72.3%	12.8%	8.5%	14.9%	10.6%	55.3%	8.5%	12.8%	4.3%	6.4%	14.9%	2.1%	2.1%	2.1%
30歳代	54	11.1%	64.8%	11.1%	9.3%	16.7%	9.3%	33.3%	18.5%	9.3%	9.3%	5.6%	11.1%	0.0%	13.0%	3.7%
40歳代	81	12.3%	61.7%	13.6%	7.4%	21.0%	6.2%	39.5%	12.3%	21.0%	7.4%	19.8%	18.5%	3.7%	8.6%	2.5%
50歳代	73	12.3%	64.4%	16.4%	12.3%	27.4%	8.2%	45.2%	19.2%	19.2%	11.0%	13.7%	17.8%	2.7%	1.4%	1.4%
60歳代	101	14.9%	60.4%	18.8%	6.9%	38.6%	15.8%	30.7%	17.8%	13.9%	14.9%	22.8%	13.9%	3.0%	2.0%	1.0%
70歳代以上	105	12.4%	48.6%	12.4%	11.4%	34.3%	16.2%	28.6%	19.0%	10.5%	10.5%	34.3%	10.5%	1.0%	3.8%	7.6%
女性 18～19歳	18	0.0%	88.9%	5.6%	11.1%	16.7%	0.0%	61.1%	22.2%	22.2%	5.6%	11.1%	11.1%	0.0%	5.6%	0.0%
20歳代	58	13.8%	74.1%	13.8%	5.2%	22.4%	1.7%	44.8%	24.1%	6.9%	17.2%	8.6%	27.6%	1.7%	1.7%	1.7%
30歳代	70	10.0%	77.1%	18.6%	4.3%	21.4%	4.3%	52.9%	12.9%	11.4%	18.6%	17.1%	24.3%	1.4%	1.4%	0.0%
40歳代	108	9.3%	64.8%	17.6%	2.8%	23.1%	5.6%	48.1%	15.7%	18.5%	8.3%	20.4%	19.4%	2.8%	3.7%	1.9%
50歳代	102	18.6%	67.6%	11.8%	2.9%	17.6%	10.8%	44.1%	20.6%	6.9%	9.8%	25.5%	17.6%	0.0%	2.0%	1.0%
60歳代	118	15.3%	66.9%	14.4%	5.1%	19.5%	13.6%	41.5%	15.3%	11.0%	10.2%	39.0%	19.5%	0.0%	2.5%	3.4%
70歳代以上	91	16.5%	42.9%	17.6%	5.5%	19.8%	17.6%	35.2%	14.3%	13.2%	16.5%	38.5%	15.4%	0.0%	2.2%	15.4%

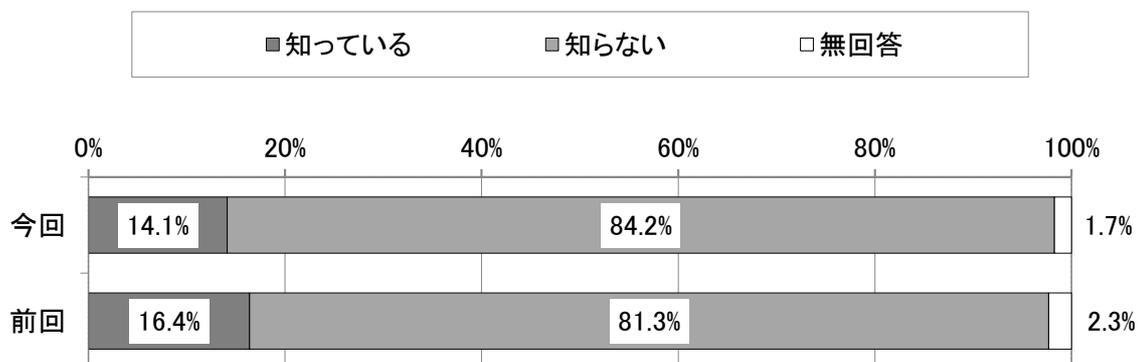
男女別では、男女ともに、「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」という回答が最も高く、次いで「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」となっています。

年代別をみると、同様に男女ともに全ての年代で「男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること」という回答が最も高くなっています。第2位は、「子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること」という回答が高くなっていますが、男性の60歳以上では、「女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること」となっています。

(3) 男女共同参画センターの認知度

問 30 狭山市市民交流センター内に、男女共同参画センターがあることを知っていますか。

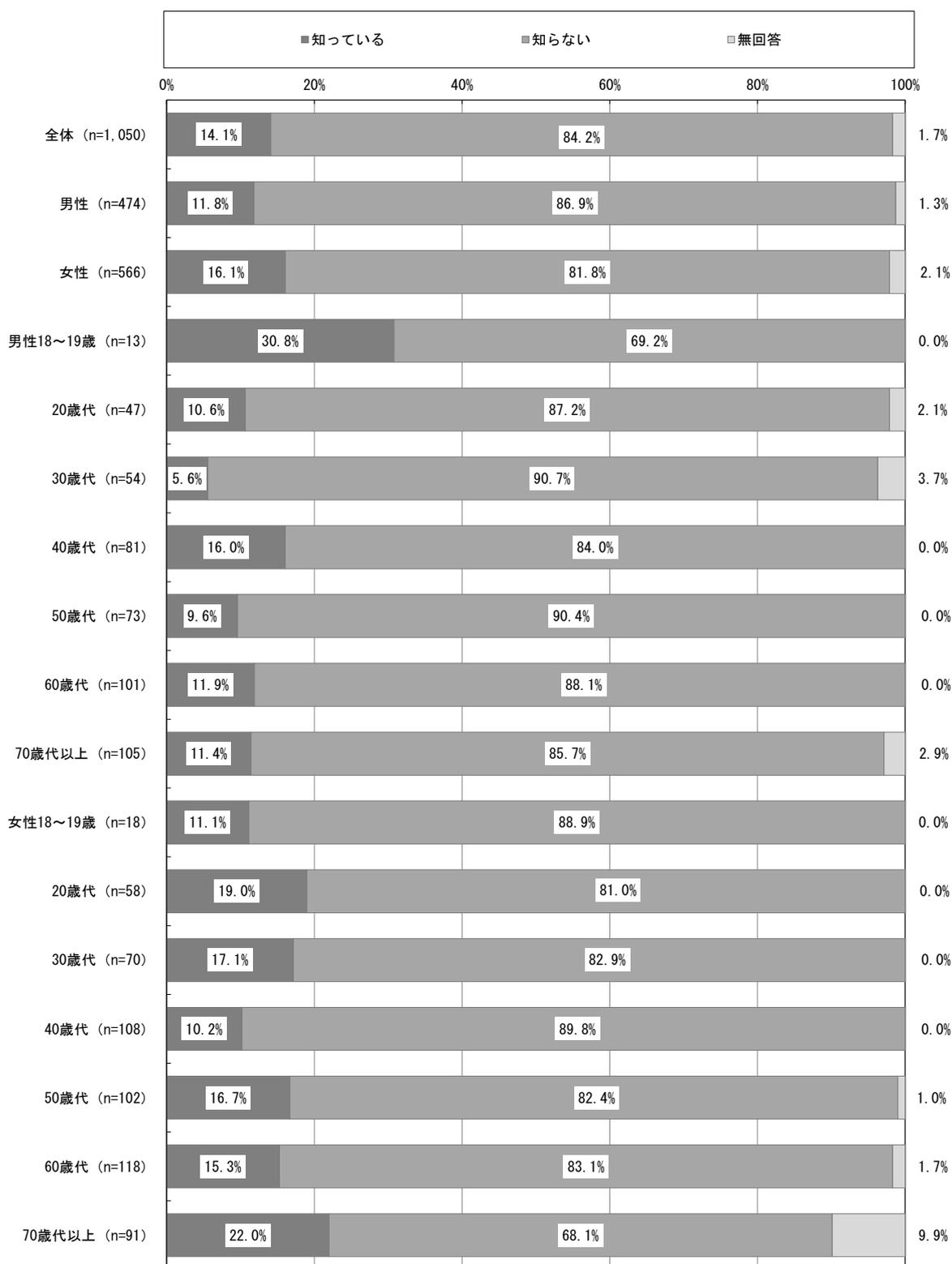
男女共同参画センターの認知度については、「知っている」が 14.1%、「知らない」が 84.2%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「知っている」という回答が 2.3 ポイント減少しています。また、「知らない」という回答は 2.9 ポイント増加しています。

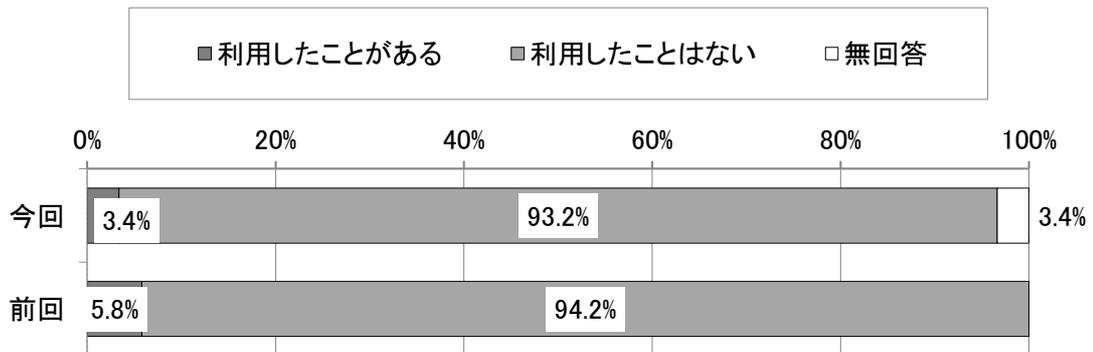
【男女別・年代別クロス表】



性別では、男性よりも女性の方が「知ってる」という回答が高くなっています。
 年代別をみると、男性の40歳代、女性の20歳代~30歳代、50歳代以上で「知っている」という回答がやや高くなっています。

問 31 問 30 で「知っている」と答えた方に伺います。あなたは、男女共同参画センターを利用したことがありますか。

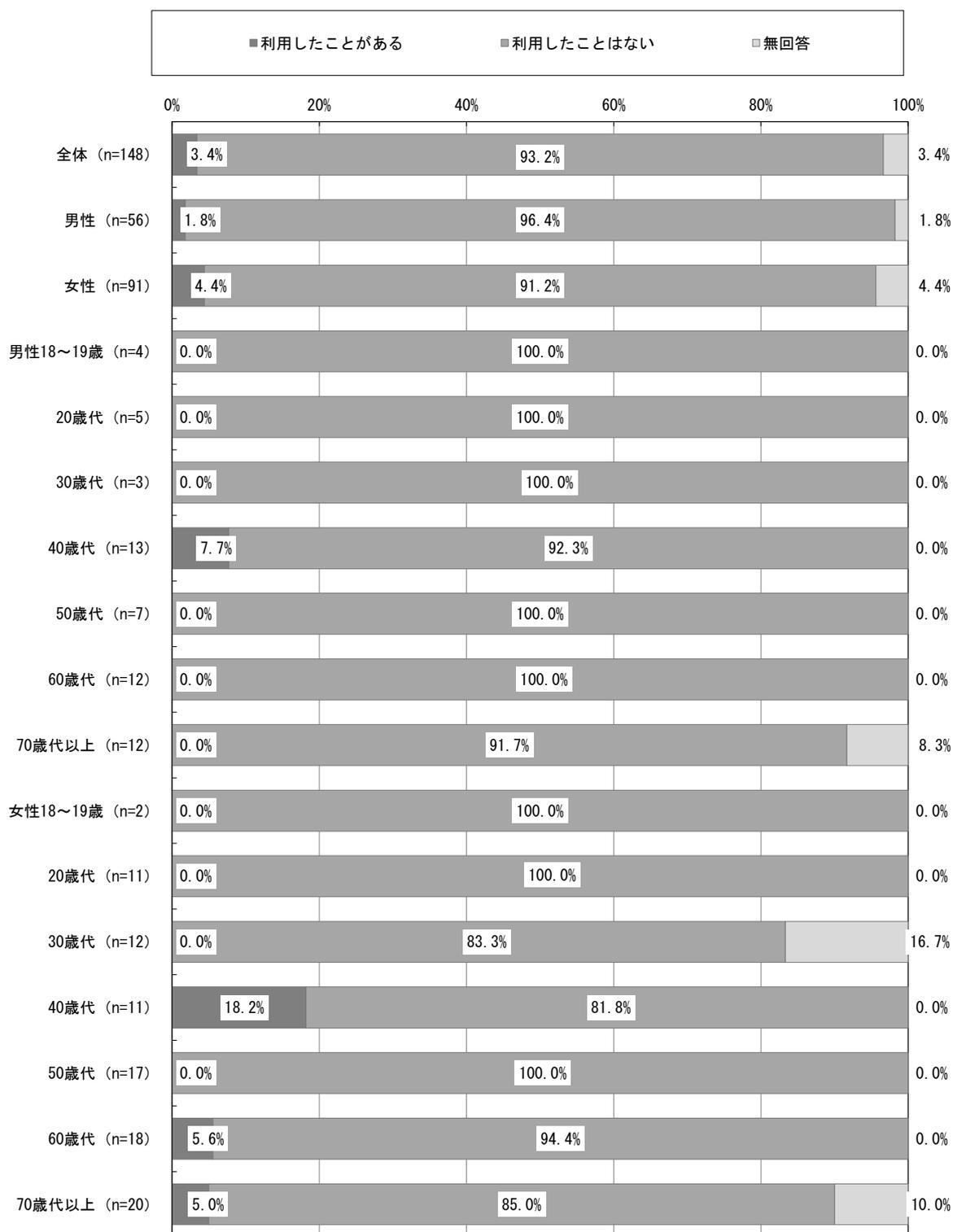
男女共同参画センターの利用状況については、「利用したことがある」が 3.4%、「利用したことはない」が 93.2%となっています。



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

前回との比較では、「利用したことがある」という回答が 2.4 ポイント減少しています。一方で、「利用したことはない」という回答も 1 ポイント減少していますが、無回答が 3.4%と増加しています。

【男女別・年代別クロス表】



性別では、男性よりも女性の方が「利用したことがある」という回答が高くなっています。

年代別をみると、女性の40歳代で「利用したことがある」という回答が高くなっています。

11 自由記述

男女共同参画社会の実現を目指すために、市に対してのご要望やご意見は、男性 86 名、女性 88 名、性別無回答 3 人の合計 177 人から寄せられました。

ここでは、要望や意見を内容ごとに分類し、その一部を掲載します。

回答者の意見を尊重し、原文の内容を損なわないよう記載していますが、誤字・脱字等は修正しています。また、なるべく多くの方の要望や意見を掲載するため、趣旨を同一とした複数の意見・要望等の中から抜粋して掲載しています。

【男女共同参画について】

- ①男女平等は理想であるが、現実には定年まで県外への転勤がありその都度、男女平等にはならない。②例えば 45 才以上は不必要な転勤はなくす。③再雇用を充実させる。④各手当を見直す。（男性、40 歳代）
- 今もってこのような質問をしなければならない現状がおかしいです。とっくに実現されていなければならないのでは。（女性、60 歳代）
- 男女共同参画センター（男女共同参画の内容やセンターの活動内容など）を市民の方にもっと知ってもらえることが大切だと思います。（女性、50 歳代）
- 性的少数者について匿名で相談出来るような環境を整えてほしい。（LINE、SNS、メール等で気軽に…）（男性、30 歳代）
- 男女平等と言っても、男と女には得手・不得手があって、必ずしも対等ではないと思っています。専業主婦になることが悪いという風潮には絶対になってほしくはありません。極端な考え方にならない様、活動する上で注意をして頂きたいと思います。（女性、70 歳代以上）
- 男女平等やセクハラの倫理を声高に言わないといけない世の中になっている事に失望している。（女性、70 歳代以上）
- 私は男女同一であるべきとは思っていません。男は男らしく、女は女らしくあるべき。私は、妻と結婚後、子供を妊娠した後、現在に至るまで、家庭を守ってもらっていて、現在は、それぞれの趣味を生かした生活重視となっております。（男性、70 歳代以上）
- 男性が主のリーダー活動（職場含）は終わりにし、女性も職場の管理職で充分能力を出せるような社会を希望します（政界でも女性の力を!）。（男性、70 歳代以上）
- 男性、女性それぞれに特性があるのですべてが平等とはいかないと思います。行政としては仕事内容、賃金、責任などの平等を図って頂きたいと思います。女性の家庭での仕事は重いです。協力し合うことの大切さも発信していただけるといいと思います。次の世代の子供たちも今の家庭を見て学んでいくと思います。（女性、70 歳代以上）
- 女性の地位向上は大切なことです。私は一昔前の人間ですが男女平等にすることで、一家の収入源の男性の収入が減り、結婚して子を成し一家を支える活力を失わせている。女性がある程度の収入を得て結婚しなくても生きていけるという連鎖を生んでいると思います。多くの女性は子を産み育てるという大変なことを成すことで頼れるパートナーを求めているのが現状だと思います。経済状況が低迷している状況では働く女性の出産子育ての大事業を援助する方策が重要かと思います。（女性、60 歳代）

- 男女共同参画社会とは、どの程度のことを目指しているのでしょうか。もし、完全な男女平等が実現できたとしてそれが生活しやすい社会なのか疑問を抱きます。男女には認めざるを得ない差があると思います。男と女ではなく一人の人間として見てもらえるような社会になればいいなと思っております。
(女性、40歳代)
- 男女共同参画社会の実現以前に、市民がもっと地域社会に参画交流を持っていく社会を作らねばならないのでしょうか。本来は学校教育の中でボランティア奉仕教育を積極的に取り入れていかねばならないのですが文科省はまったくやる気はないでしょう。以前、狭山中央図書館で中学生がジャージを着て館内の手伝いをしているのを見て感心しました。国がやらないのなら学校外や市でこういった手伝いなど小中学生からでもやっていくといいと思います。とにかく今の日本は無関心ですから。(男性、40歳代)
- 人権、DVの質問の箇所、人権とはこれらの内容だけではないと思う。性犯罪、性被害の事が一番ツライ事。きっと重すぎる内容で深く踏み込む事ができないからでしょう。人間の人権の一生の課題。(女性、50歳代)
- まだまだ男性社会のまま、役職も男性ばかり。社会が中々無理なら市独自の政策、改革モデルにしてみても？女性目線ならではの事が出来ると思います。
(細やかな)働きやすい職場作り、環境作りなど。(女性、40歳代)
- 「男は仕事」「女は家庭」という言葉が大嫌いです。大昔の話だと思っています。今は週1でも男は台所に立って手伝うべきだと考えます。そういった事を何かメディア(例:男性が家事を手伝う姿や女性が働く姿などCMにしたり…)を使って取り上げていただき、今の時代の「当たり前」を共有してもらえると少しは変わるかなと思います。とにかく家事は分担すべきだと思っています。
(女性、20歳代)
- 家事、育児は女性がするものという考えが、まだまだ根強くあると思います。こういった考えの家庭で育った子供は、同じ考えを持って大人になるでしょう。義務教育の中で、例えば「料理が出来ないと、大人になって女の子は困るよ」などの考えがいかにおかしなことか、しっかり教えたり子供だけでなく、その子を育てる親も学ぶ機会が持てるようにしてほしいです。”推奨していません”だけでは一向に変わらないのが世の常なので、例えば、男性の育児休業取得率何%以上を会社に義務付ける…など、決まりなら仕方ないといった状況を作ることが出来れば良いのにはと思います(昨年からは始まった有給取得の義務化のように…)。(女性、30歳代)
- 男女が平等であることは仕事の面でしか理解されておらず、自治会活動等はまず男性が何でも先にやらされるので意識改革を行ってほしい。(男性、50歳代)
- 平等を考えると時に個人の自由という視点を失うと、しんどくなる人が出てくると思います。(男性、50歳代)
- 個人の能力を適切に判断し、適材適所に活躍の場を与えるようにしていけば男女関係なくよりよい社会また新しいアイデアや活動も出てくると思います。簡単なことではないと思いますが市民一人一人が意識していけばいいと思います。(男性、18~19歳)

- 身体的機能が異なる以上、男女は平等ではあるが、同等ではないという考え方が、私の自論です。身体的機能の違いを考慮した配慮が必要だと思います。
(男性、50歳代)
- 夫婦別姓を認めるべき。独立した個としての意識を持つように変えていく必要があると思う。(女性、40歳代)

【政策・方針決定について】

- 目的に対して進めている事項が、市民にはあまり理解されていないことが多いように思いますので、もっと積極的に進めていただくことを希望します。
(男性、40歳代)
- 市議会の女性の人数を増やす。女性は女性の方が相談しやすいと思う。
(女性、50歳代)
- プランが作成されましたら広報等で周知して下さい。具体的事項が決まれば強力に推進願います。(男性、70歳代以上)
- 他の自治体にあるものではなく、他が目指すような存在になるよう、思い切った改革を進めていってほしいです。市長をはじめ、リーダーの方々の働きを期待しています。(男性、40歳代)
- 是非、市だけではなく県から全国へと広めていく前提で実現を目指さないと、職場が市外では通用しないです。頑張ってください。(男性、30歳代)
- プラン作成時に於いて、男女(年齢)同数で討論する機会を設け、それらの意見を参考に立案し、内容を「広報」にて開示する。(男性、60歳代)
- 男性は仕事、女性は家事という考えは古いと思う。今は、家事や育児を積極的に男性がしている家庭も多いと思いますが、古い考えを押し付けている人がいるのも事実です。もっと女性が社会進出をし、もっと女性の意見なども取り入れて欲しいと思います。そして、女性の方もたくさん政治にも参加して頂いて、政治家に女性を増やしてほしいです。(女性、40歳代)
- 女性の社会進出ばかりが注目されているが、高齢者、特に男性高齢者の社会進出に関する取り組みを進めて頂きたい。(男性、60歳代)
- まず明確な市政の指針を掲げる必要があります。政策については、既に書した通りです。また弱者を救済する観点ですすめてほしいと思います。(男性、60歳代)
- まずは市で働いている方々が男女平等を実現させること。そこから発生する問題点、解決策を発信すること。育児や女性の社会復帰の相談窓口を SNS 等を通じて気軽に行える環境づくり等上記の男女共同参画セミナー等は余程時間に余裕のある方しか利用しない気がするのですが、仕事や子育てに忙しい世代に向けた取り組みを行ってほしい。(女性、30歳代)
- 役所の職員や議員の女性の定数を増やす。(男性、20歳代)
- 市として地域活動の仕組み、取り組み自体を男女の区別なく参加できるよう逆に男女同数になるような仕組みを構築してほしい。(男性、60歳代)
- なかなかこのような調査をすることがないので、貴重な意見を書くことが出来てよかったです。まだまだ男女の差というか不公平なことがあると思います。実際に社会に出て仕事をしていると感じることがあります。女性の方が肩

身の狭い思いをしていると思います。市に対してはもう少し気軽な窓口があるといいと思います。SOSを聞いてもらえるような。（女性、50歳代）

【就労・子育て・介護について】

- 個人的に男性は仕事、女性は家庭を守る方がうまく行くような気がします。その中でも、男性が育児や家事を少しでも手伝ってくれるような環境が理想ですが。男性の「女性は家事、育児をやっているだけで楽そうだなー」という考えを少しでも変えられるような場を作れたら良いのかな？と思いました。また、話は変わりますが、狭山に来て数年ですが、とても住みやすく大好きです。（女性、30歳代）
- 娘夫婦が公務員で共働きです。週に2日位は、孫の学童、保育園のお迎えをしています。子供も孫も毎日忙しく生活にゆとりがあるとは思えません。特に孫はいつもママにせかされて怒られてこのままで大丈夫かな？と心配になることがあります。（女性、60歳代）
- 女性が働ける環境の整備が重要。特に育児等、保育園の充実が、住み良い市として人口が増えてくるのかもしれない。（男性、70歳代以上）
- 男性と女性では能力の違いがあると思う。私が1番嫌いなことは子供が犠牲になる事。保育園が充実して子供を預けられれば良いという考え方。子供は両親に育てられるのがいいと思うので、安易に保育園を沢山作って預けるのではなく、父親・母親が育てながら仕事ができる社会になるべき。（女性、50歳代）
- 保育や学童の充実。子育て世代の女性をもっと働きやすいよう職場に働きかけ再就職や子育てしながら働けるようにしてほしい。男性をもっと遠慮せず有休や育児・介護休業で休めるよう働きかけてほしい。（女性、50歳代）
- 派遣の仕事で工場内作業をすることが多いですが、女性には楽な仕事、男性はハードな仕事になることが多く、男性でも体の弱い者もあり、同じ賃金なのに差別されるのは改善して欲しい。また女性リーダーの男性派遣労働者に対する高圧的な態度もよくあるので、もう少し考え方を柔軟にもって欲しいです。（男性、50歳代）
- 男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあっても具体的にどのように市政がやっているのか不明。もっとわかりやすく取り組み内容をアピールしたほうが良いと思う。共働きにとって保育所、学童、保育等の育児環境充実を図って、男女とも働きやすいようにしてほしい。若い世代が、狭山市で子育てがしやすい環境を作してほしい。（女性、60歳代）
- 高齢出産や妊活にあつての費用の援助を充実させてください。（女性、40歳代）
- 残業しない社会へ。（男性、20歳代）
- 長時間労働を生活のためにしている男性は、疲労とストレスにより奥様に暴力的になるのではないかと思います。余裕などありません。8時間労働で十分生活できる社会にならないこと。非正規労働は廃止すべきです。（男性、50歳代）
- 出産、子育てを経た女性の適材適所の活用を検討して欲しいです。（女性、40歳代）

【教育について】

- 早いうちからの性教育。子育てしやすい社会、環境、制度。夫婦別性の選択。父親も育休の義務化（そこまでしないと定着しなさそう）。（女性、30歳代）
- 子どもの学校の様子をみていると、私の頃とは変わり、運動会の団長を女の子がやったり、チアガールが無くなったり、男女とも同じような遊びをして、男女の仲も良く感じます。逆に、女の子の方が強いと感じることもあります。頭でっかちな男女平等ではなく、それぞれの特性を生かして育ててほしいです。小さい頃からの教育は大事だと思うので、このまま続けて行って欲しいです。（女性、40歳代）
- 学校教育において、男女共同参画社会について扱っていただけると良いかと思えます。（女性、30歳代）
- まずは学校での差別やいじめを防止する仕組みが必要。性別に限らず、人と人が尊重し合えるようになったら、そもそも性別を意識する必要がない。（男性、20歳代）
- 幼児教育の充実を。LGBTにしても、男女参画社会についても、幼児教育の中で考え、教えていく教育を求める。差別のない、人と比べることのない考え方を育てて行って欲しい。（女性、70歳代以上）
- 子供の時からの教育が大切だと思うので市内の小学校やこども会向けに男女平等の考えを発信して行ってもらいたい。（女性、20歳代）

【啓発・要望】

- 男女の対立を煽ることのない施策、教育（もちろん子供だけでなく）を考えていただきたい。（女性、20歳代）
- 日本は差別意識が薄いので、子供からしつけ、学校教育、道徳のありかた、少人数の話し合い等が必要。根本的には周りではなく大人の意識改革が必要。（男性、60歳代）
- 私は産業カウンセラー、キャリアコンサルタント国家資格を所持しています。自らのキャリアをしっかりと考えられるような機会を増やすことだと思います。社会全体でセルフキャリアドック制度の普及、推進！！お疲れ様です。（男性、40歳代）
- 公民館等の講座（例：ことぶき大学等）にも取り入れてほしいと思います。（女性、70歳代以上）
- 行政側が住民の意見を聞く時は、その意見が未熟でも「ノー」から入るのはダメだと思う。何とかその意見を汲んで、少しでも実現出来るものがあるなら、そのために力を入れるべきだと思います。（男性、70歳代以上）
- まだまだ社会全体の意識改革が進んでいない（定着していない）が、若い世代では（20代）、大分、教育されてきている様で、意識は普通になっている様で現実的にはこれらの世代に期待する。社会全体の意識改革は大変難しく、生まれながらにして教育を施されていないと真の定着は図れない（国家全体の取組み）。つまり、啓発・教育活動を続けていくしかありません。継続は力なり。（男性、40歳代）
- 個人の価値観が多様化し、お互いが相互に受け入れない世の中になってしまっていますが、そうした世の中を改善し、共生社会の実現に向けた様々な活動

が展開されるようになっていきます。男女共同参画の問題もこうした活動を含めて、特に一般への啓蒙を確り進める必要があると思います。共生社会実現に向けた様々な活動は多く、ボランティア活動で進めています。市が資金面での支援を充分に行い強力な取り組みが出来るようにして欲しいと思います。

(男性、70歳代以上)

- どういう現実問題が今あるのかなど具体的にわかるといい。どの辺が実は不平等なのか気づいていない。諦めている人も多いと思う。多くの人の意識改革が必要だと思います。(女性、40歳代)
- 皆の意識と行動力だと思います。より生活しやすい狭山市になってほしいと思います。(女性、30歳代)
- 男女共同参画のチャリティーイベント。(男性、18～19歳)
- いろいろな考えの人がいる社会で、狭山市の地域住民の声をひろい根気よくリーダーシップをよろしくお願い致します。(女性、70歳代以上)
- 問題提起の中にあるように、行政を中心に企業及び関係各所の協力が大で、それと共にひとりひとりの意識の問題であると思います。日本人の特質として「事なかれ主義」の精神がある以上、中々難しいと思いますが、前記の様に関係各所の努力が必要だと思います…。(男性、60歳代)
- この調査書が届いて、初めて市がそのような取り組みをしようとしていることを知りました。そもそも認知度が低すぎるのではと思います。まず市全体で進めていきたいと思っているのなら全市民が認知していなければ、意識も変わらないと考えます。(女性、40歳代)
- 偏見を少しずつ(男女両方において)なくすべきだと思う。1人1人が、それぞれを受け入れられるというか、〇〇はこうでなければいけないという固定観念がある(日本人に多い傾向だと思う)から、考えがやわらかくないと思うので、もっと海外の文化に触れたり、洋画や他の国の映画やドラマをみればいいと思う。月に1度、放映してみる等。(女性、20歳代)
- 主旨と異なるかはわかりませんが、そもそも男と女の性別に隔たりや概念をなくすような考えが広まればより良くなると思います。無作為ですが自分を選んで頂き、考え直す機会を与えて下さって感謝します。自分ももっと働きかけられるよう努めます。(女性、20歳代)
- 性別や年齢に関係なく、どんな時でも市からの支援が受けられる市になってほしいです(子育て支援、高齢者支援など当たり前のものだけでなく…)。(女性、30歳代)
- 家族にうつ病(自称)がいて、病院も行かない働かない。結局妻である自分が全部背負うことになる。うつ病者の集いなどで改善や労働を促す活動があればと思う。(女性、50歳代)
- 高齢一人暮らしの為、民生委員の方等とても親切にしてくださりありがたく思っております。適材適所に応じて男性、女性関係なく仕事ができる状態が望ましいと思います。(不明、70歳代以上)

【調査・調査結果の反映】

- パソコンやスマホからも回答出来るように、QRコードやURLなどが入ったアンケート用紙を作ってほしい。紙だけでない方法も今後は必要だと思います。集計も早く出来ると思います。（男性、60歳代）
- 男女共同参画センターがある事を家族にも聞きましたが、全員知りませんでした。また、急に調査票が届き私はフルタイムで仕事をしているためとっても大変でした。でも男女共同参画があることを知り、勉強になりました。（女性、60歳代）
- 大手企業や官公庁などは、指導者や人的余裕があり、比較的対応できる。然し中小企業など利益追求のあまり人的余裕もないし、指導者も居ない。中小企業や個人事業者へ市の専門員を派遣し、指導教育の機会を与え、経営者への知識を深める様にして欲しい。（男性、70歳代以上）
- 男女共同参画社会の実現も大事ですが、「障害者」と書くだけでも不快に思う方も少なからずいるので、アンケートをする際にも、使う漢字や言葉遣いに気をつけた方が良いと思います。また、男性は地域活動をしていないと（アンケートを見る限りでは）感じました。事実であるかもしれませんが、地域活動に参加させる以前に、活動内容に男性が参加しにくい要因があるのかもしれませんが。私は男性ではありませんので分かりませんが、男性の参加をはかるのならそういった調査も必要だと思います。（女性、20歳代）
- 狭山市内にある工場や事業所、店舗を持つすべての企業に、狭山市では、男女共同参画社会の実現に力を入れているので…と、このアンケート結果を基にした具体案を提示し、改善を求めるよう通知をする。企業の本社が狭山市外、埼玉県外にある場合でも、本社に対して、狭山市内に拠点を持っている以上、通知を行っていくべきだと思います。そうした活動は、やがて企業の強みになり、広がっていくと思います。良い意味でネットニュースになったら、より広まると考えます。大変だとは思いますが頑張ってください。期待しています。（女性、20歳代）
- 有言実行、説明責任、パブリックコメントの活用。（男性、70歳代以上）
- 民間企業の経験がある人材をもっと採用してはどうでしょうか。実態がよくわかると思います。それとこの手のアンケートはウェブでやってほしい。データ集計活用もそのほうが手がかからないかと。（女性、40歳代）

【その他】

- 男女共同参画よりも学歴優先を考え直した方がよいと思います。昔は女は高卒、行っても短大という風潮でしたが、本人の責任ではない事で就業を続けている世代が諦めて生きています。（女性、50歳代）
- 女性の市長。（男性、60歳代）
- お祭りが減っている事が気になります。狭山の七夕祭りに参加されている囃子連の方々が高齢者ばかりである事と、山車と太鼓があるのに、囃子連の方々は演奏せずテープを流していたのが残念です。自分は、入間市の囃子連に参加していますが、お祭りを無くさないために、伝統芸能を子供達に伝え、未来へ残していく為に老若男女一丸となって日々協力し合っています。囃子連は男女平等です。是非、太鼓や伝統芸能などに子供達が触れる機会や場所を増やし

てほしいです。お祭りは、男も女も関係なく、皆で一丸となって協力して盛り上げるものです。七夕でも道行く子供達に声をかけて、太鼓を叩かせてみたりしてはどうでしょうか。興味を持った子どもが囃子連に入りたいと思ってくれるかもしれません。子どもが入って来ない囃子連や祭りは、未来には残りません。お祭りや伝統芸能が少しでも多く残るよう働きかけて頂ければ幸いです。（女性、30歳代）

資料 「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票

「男女共同参画に関する市民意識調査」へのご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

狭山市では、平成28年3月に第4次狭山市男女共同参画プラン「女と男 互いに尊重し合いみんなでつくるまち さやま」を策定し、これまでさまざまな施策を展開しております。

この調査は、第5次狭山市男女共同参画プランの策定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識と実態を把握することで、現状と課題を明確にし、また男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取り組みに反映させていくことを目的としています。

調査の対象となる方は、令和2年8月1日現在に狭山市に住民登録のある18歳以上の市民の方から2,000名を無作為に選ばせていただきました。お寄せいただきました回答は、統計的な数値としてまとめ、調査目的以外には使用しませんので、お答えいただいた皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年9月

狭山市長 小谷野 剛

ご記入にあたってのお願い

1. 調査には、あて名のご本人がお答えください。
2. ご記入は、黒の筆記用具でお願いいたします。
3. あてはまる回答の番号を○で囲むか番号を記入してください。
「その他」にあてはまる場合は、具体的に記入してください。
4. この調査票には、住所・氏名をお書きになる必要はありません。

調査票の記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、9月30日(水)までにご投函ください。(※投函の際には切手は不要です。)

この調査票についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

狭山市役所 市民部 市民文化課 男女共同参画センター
〒350-1305 狭山市入間川1-3-1
電話：04-2937-3617 (直通)
FAX：04-2937-3616
E-mail: danjyo@city.sayama.saitama.jp
※土・日・祝日を除く8時30分から17時15分

調査

(あてはまる番号を選んで○をつけてください。)

●あなたご自身について

問1 あなたの性別をお聞かせください。(回答は1つだけ)

1. 男性 2. 女性 3. その他

問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

1. 18～19歳 2. 20～24歳 3. 25～29歳
4. 30～34歳 5. 35～39歳 6. 40～44歳
7. 45～49歳 8. 50～54歳 9. 55～59歳
10. 60～64歳 11. 65～69歳 12. 70～74歳
13. 75歳以上

問3 あなたは結婚されていますか。次の中からお選びください

(回答は1つだけ)

1. 結婚している 2. 結婚していないがパートナーがいる(事実婚)
3. 離婚・離別・死別 4. 結婚していない(未婚)

問4 あなたの世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

1. 単身世帯(ひとり暮らし)
2. 一世帯世帯(夫婦のみの世帯又は兄弟姉妹のみの世帯)
3. 二世帯世帯(親子で暮らしている世帯)
4. 三世帯世帯(親・子・孫で暮らしている世帯)
5. その他

問5 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)

1. 自営業・自由業・家業 2. 勤め人(正社員・正職員)
3. 勤め人(派遣社員・パート・アルバイト) 4. 内職
5. 専業主婦・主夫 6. 学生 7. 無職
8. その他

●男女平等についての考え方や行動について

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

1. そのとおりだと思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問7 あなたは現在、次のア～ケの分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものを1つずつ選び、その番号（1～6）に○をつけてください。

	男性が優遇されている	男性が優遇されている どちらかといえば	男女が平等になっている	女性が優遇されている どちらかといえば	女性が優遇されている	わからない
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
イ 就職・採用で	1	2	3	4	5	6
ウ 職場で	1	2	3	4	5	6
エ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
オ 地域や社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
カ 政治や政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
キ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
ク 慣習・しきたり等で	1	2	3	4	5	6
ケ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、次のア～キの考え方についてどう思いますか。それぞれの項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選び、その番号に○をつけてください。

	そのとおりだと思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない
ア 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい	1	2	3	4	5
イ 女の子は赤、男の子は青、というように性別で持ち物を分けた方がよい	1	2	3	4	5
ウ 子育ては、やはり母親でなくてはと思う	1	2	3	4	5
エ 男性は、家事に向いていないと思う	1	2	3	4	5
オ 女性は、職場等で責任のある仕事に向いていないと思う	1	2	3	4	5
カ 自治会などの団体の代表は、男性がなった方がよいと思う	1	2	3	4	5
キ 子供の数や産む時期を決めるにあたって、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5



狭山市七夕の妖精 おりびい

●家庭生活・子育てについて

問 1 1 今現在あなたの家庭では、次のア～クのことについて、(主に)男性、女性のどちらが行っていますか。それぞれ1つずつ選びその番号(1～5)に○をつけてください。

	(主に)男性	(主に)女性	男性・女性共同して分担	その他	該当しない
ア 家事(炊事・洗濯・掃除等)	1	2	3	4	5
イ 子育て(子どもの世話、しつけ、教育等)	1	2	3	4	5
ウ 介護(介護の必要な親の世話、病人の世話等)	1	2	3	4	5
エ 地域の行事への参加	1	2	3	4	5
オ 自治会、PTA 活動	1	2	3	4	5
カ 生活費の確保	1	2	3	4	5
キ 家計の管理	1	2	3	4	5
ク 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	1	2	3	4	5

問 1 2 最近、子どもの出生数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの教育にお金がかかるから
2. 育児に精神的・肉体的に負担がかかるから
3. 家が狭いから
4. 経済的に余裕がないから
5. 仕事をしながら子育てをするのが困難だから
6. 初婚年齢があがっているから
7. 結婚しない人が増えているから
8. 子どもが欲しいと思わない人が増えているから
9. 子どもが欲しくても、授からない人がいるから
10. その他(具体的に)
11. わからない

●ワーク・ライフ・バランスについて

問13 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。
あてはまる番号を1つだけ選び番号に○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

※ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)とは、「仕事と生活(家庭、趣味や余暇など)のバランスを上手にとることによって、仕事をしながら充実した生活を送る」という考え方のことです。

問14 生活の中での優先度についてお伺いします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで番号を記入してください。

1. 仕事を優先
2. 家庭生活を優先
3. プライベート(個人的)な時間を優先
4. 仕事と家庭生活を優先
5. 仕事とプライベート(個人的)な時間を優先
6. 家庭生活とプライベート(個人的)な時間を優先
7. 仕事・家庭生活とプライベート(個人的)な時間を両立



理想は

現実には

●男女の就業・仕事について

問15 あなたは女性が職業につくことについてどう思いますか。
1つだけ選び○をつけてください。

1. 女性は職業につかないほうがよい
2. 結婚するまで職業につくが、結婚したらやめたほうがよい
3. 子どもができたらやめたほうがよい
4. 子どもができたらやめるが、子どもが成長したら再び職業についたほうがよい
5. 職業をもち続けたほうがよい
6. その他（具体的に)
7. わからない

問16 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 男女とも家庭生活と両立できるよう労働時間の短縮を促進すること
2. 保育所・学童保育などの育児環境の充実を図ること
3. 事業所内の保育を促進すること
4. 育児休業制度・介護休業制度の定着、促進を図ること
5. 出産・育児などに際して、仕事を辞めずに働き続けることへの社会的理解を深めること
6. ホームヘルパーや福祉施設などを充実させ、家族の介護負担を軽減すること
7. 職務内容や昇進、昇格などの男女平等を進めること
8. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場づくりを進めること
9. 再雇用の制度を促進すること
10. 求人情報の提供や働ける新しい環境・職務の開発を進めること
11. 男性も家事や地域活動などを分担すること
12. その他（具体的に)
13. 特になし

問17 問16で○をつけた中で、あなたがもっとも重要だと思うことを1つだけ選び、番号を記入してください。

問18 男性の育児休業・介護休業の取得はきわめて少ない状況ですが、その理由は何だと思えますか。1つだけ選び○をつけてください。

1. 職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから
2. 男性は責任ある仕事をしているという考えがあるから
3. 男性は育児や介護をするよう教育されていないから
4. キャリアを中断することになり、昇進等に不利だから
5. 育児休業中や介護休業中は、収入が減るから
6. その他（具体的に）

●人権・DV(ドメスティック・バイオレンス)について

※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者やパートナーなど親密な関係にあった相手から振られる暴力を言います。

問19 あなたは次のようなことをセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）だと思えますか。「どちらかと言えば思う（思わない）」を含めて、あてはまる番号を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

	思う	思わない
ア 嫌がっているのに性に関する話をする	1	2
イ 異性の身体に触れる	1	2
ウ 宴会でのお酌やデュエットを強要する	1	2
エ 上司が地位を利用して性的な誘いをする	1	2
オ 結婚予定・出産予定をたびたび聞く	1	2
カ ノード写真や水着のポスター等を見えるところに貼る	1	2
キ 職場の女性を「女の子」「おばさん」男性を「おじさん」とよぶ	1	2
ク 容姿について不快なことを言う	1	2

問 2 0 あなたは次のようなことが、DV（ドメスティック・バイオレンス）と知っていますか。あてはまる番号を1つずつ選び、番号に○をつけてください。

	知っている	知らない
ア 殴る、蹴るなどの暴力	1	2
イ 金銭的自由を与えない	1	2
ウ 妻を働かせない	1	2
エ 避妊に協力しない	1	2
オ 話しかけても無視する	1	2
カ 怒鳴る	1	2
キ 子どもの前で暴力をふるう	1	2

問 2 1 性的少数者の方への理解や配慮すべきことについて、次の中から特に重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

1. 書類等の性別記載（法的に定めがあるもの以外）をなくす
2. 性的少数者の理解のための講座や啓発活動などを開催する
3. 性的少数者に関する専門相談窓口を設置する
4. 法改正やパートナーシップ制度、福利厚生など社会制度の見直し
5. 学校教育における研修、男女混合名簿、制服選択制などの取り組み
6. 更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮
7. その他（具体的に)

問 2 2 あなたは、これらの相談をしたら、次のだれ（どこ）に相談しようと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 家族
2. 友人・知人
3. 警察
4. 医師・カウンセラー
5. 弁護士
6. 公的な相談機関
7. その他（具体的に)

●地域活動・社会参加について

問 2 3 あなたは現在どのような地域活動・社会活動をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 町内会・自治会などの活動
2. 婦人会・青年会・老人会などの活動
3. 福祉・ボランティア活動
4. P T Aやこども会などの活動
5. 環境保全・リサイクルなどに関する活動
6. 自治体の審議会などの委員
7. 国際交流に関する活動
8. 趣味・学習・スポーツ等に関する活動
9. その他（具体的に)
10. 特にしていない

問 2 4 政策決定への女性の参画をさらに、促進するにはどうしたらよいと思いますか。次の中から重要だと思うものを3つまで選び○をつけてください。

1. 男性中心の社会通念、慣習をなくす
2. 女性のリーダーを養成するための講座などを開催する
3. 女性の意識を高めるための啓発活動を行う
4. 女性の割合を決めるなど、計画的に女性の参画を実行する
5. 女性自身がかもっと積極的に活動する
6. 女性を推薦、任命するよう各界に働きかける
7. 特に女性を増やす必要はない
8. その他（具体的に)



狭山市七夕の妖精 おりびい

問25 男性が地域活動に参加しやすい環境づくりで必要と思うことを
1つだけ選び○をつけてください。

1. 労働時間の短縮を促進すること
2. ボランティア休暇の定着、促進を図ること
3. 「男は仕事」という考え方を社会全体が改めること
4. 仕事を持つ人が参加しやすいよう、開催の時間を工夫すること
5. その他（具体的に)

●防災について

問26 災害が発生し避難が必要になった際、あなたは何が心配ですか。
次の中から特に心配なことを3つまで選び、番号に○をつけてくだ
さい。

1. 水・食料などの確保
2. 家族との連絡、安否確認の方法
3. 乳幼児や子どもを連れて安全に避難できるか
4. 高齢者や障害者を連れて安全に避難できるか
5. 自分自身や家族の体調の悪化（持病を抱えているなど）
6. 避難時に頼れる人がいない
7. 特に心配なことはない
8. その他（具体的に)

問27 防災・災害対策において、性別に配慮した取り組みの中から、特に
必要と思うことを3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 避難所の設備（トイレ・更衣室、居住スペース等）
2. 避難所運営や対策本部に女性の責任者（リーダー）を置く
3. 避難所の炊き出し、清掃等の性別・年齢に捉われない役割分担
4. 女性用品、育児用品、介護用品などの物資の配布
5. 妊婦、乳幼児、高齢者、障害者、性的少数者の人達のニーズの把握
6. 救援医療・相談体制（医師・看護師・心理カウンセラー）の整備
7. 避難所での性犯罪の防止
8. その他（具体的に)

●男女共同参画社会のための施策について

問28 あなたは、男女共同参画社会とは、どのような社会をイメージしますか。次の中からイメージするものすべてに○をつけてください。

1. 家事・育児・介護を家族全員で分担し喜びも苦労も分かち合う社会
2. 職場において昇進、配置、賃金等の男女格差が解消され、個性や能力が十分に発揮される社会
3. 政策・方針を決定する場における女性の参画が進み、男女ともに豊かで住みやすい社会
4. 自治会やPTAなどの地域活動において、男女がバランスよく配置され、共に協力していく社会
5. 「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識が解消され、一人ひとりの考え方や行動が尊重される社会
6. 家庭生活と仕事時間のバランスがとれ、男女が共にゆとりと充実感を持って生活できる社会
7. その他（具体的に）
8. わからない

問29 男女共同参画社会をめざすために、市では今後どのようなことに力を入れる必要があると思いますか。次の中から特に重要なものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 相談やカウンセリング機能を充実させること
2. 男女がともに働きやすい労働環境の整備を働きかけること
3. 男性が地域活動などへの参加しやすい、環境づくりを進めること
4. 地域活動などでの女性リーダーを養成すること
5. 女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用すること
6. 地域活動やボランティア活動への支援をすること
7. 子どもの時から家庭や学校で男女平等について教えること
8. 生涯学習などで男女平等について学ぶ機会を充実させること
9. 男女平等についての情報提供や啓発活動を行うこと
10. 健康管理体制を充実させること
11. 高齢者等の介護・福祉サービスを充実させること
12. 災害・防災対策に女性の視点を取り入れること
13. その他（具体的に）
14. 特になし

※男女共同参画センターは、狭山市市民交流センターの2階にあります。女性の活躍支援のセミナーや男性の家事・育児参加等を促す講座を開催しています。また、情報コーナーでは、男女共同参画に関する書籍やDVDの貸出、セミナー等の情報を取得することができます。

問30 狭山市市民交流センター内に、男女共同参画センターがあることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問31 問30で「知っている」と答えた方に伺います。あなたは、男女共同参画センターを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 利用したことはない

最後に、男女共同参画社会の実現を目指すために、市に対してのご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください

ご記入が済みましたら、誠にお手数ですが、調査票を同封の返信用封筒に入れ、9月30日(水)までにご投函いただきますよう、お願いいたします。

ご協力ありがとうございました

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

発行年 令和3年3月

発行 狭山市

編集 市民部市民文化課男女共同参画センター

〒350-1305

埼玉県狭山市入間川1丁目3番1号

TEL : 04-2937-3617

FAX : 04-2937-3616

URL : <http://www.city.sayama.saitama.jp/>

E-mail : danjyo@city.sayama.saitama.jp
